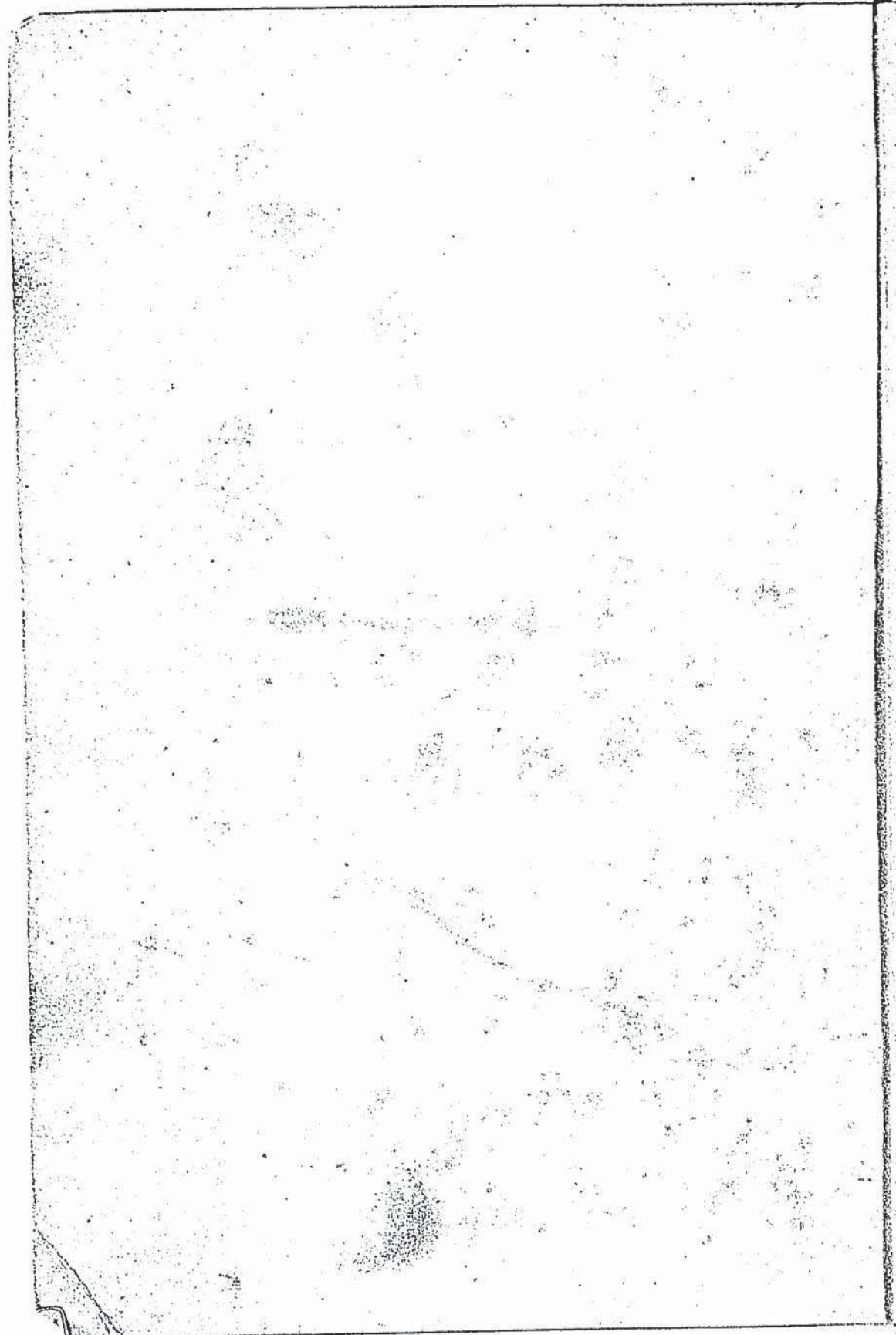
前田定之介著

英和對照

英語演說法

東京　成功雜誌社

序

英語は現今に於て世界的通用語なり、世界中何れの處に往くも、殆ど英語の行はれざる處なし、而して此趨勢は益々進み、今後に於ては、孰れの國に於ても英語を解せざるの國民は、殆ど文明的國民として齒せられざるに至らんとするの狀態にあり、

是に於てか、英語の研究は益必要と爲り、英語を以て直に自巳の意志を發表することは益々緊要と爲れり、然るに悲しい哉、我國に於ては、未だ英語演說に關する著書ある事なし、偶々之あるも艱澁難解、殆ど學修し易からざる物たり、

著者玆に觀るあり、卽ち本書を著し、以て下は中等教育程度の上級生より、上は一層高等なる程度の學生をして、普く英語演說を學修せしめんとす、

材料は之を古今の偉人豪傑雄辯家等の演說に取り、原文の英語に添ふるに、飜譯せ

る邦文を以てし、兩々相對照するに便ならしむると共に、難解の字句は摘出して、特に註釋を施す事とせり、

思ふに之に依り、一般英語研究者は、能く英語演說を研究し得ると共に、古今に於ける偉人豪傑雄辯家等の大思想に接觸することを得んか、之を以て序文と爲す。

明治四十四年六月

著者識

目　次

第一編

演説の心得

式　辭 (Toast).

第二編

普通演説

第三編

演説組立法

I. 辯士の資格。

(1) 言語及音聲。

演説は口舌を以て思想を表示するものなれば、辯士たるものは分り易き言語と、聽き好き音聲を有せざるべからず。

(第一) 言　語。

凡そ公衆に對して所見を吐露する場合は、文章に數種の文格あるが如く、言語にも種々の體裁あり、或は壯快活潑なる言語を要することあり、或は沈着叮嚀なるものを要することあり、此等の種々變化することに依りて、能く聽衆を感動せしむるものなり。

（イ） 言語の選擇。 演説は能く聽衆をして理解せしむること必要なれば、二義に亘りて曖昧なる言語の如きは必ず避け、勉めて明白なる言語を使用すべし、

（ロ） 言語の遲速。 辯士は言語の遲速緩急に十分の注意を要す、即ち別種の言語を一時に混用する如きことあらば、聽衆は之れが理解に苦むべし、されども若し言語の間に時間を挿み、緩言を遲緩せしむる如きことあらば、聽衆は倦怠の念を生ずべし、以上の注意の外、卑陋の言語、方言等を避くることに注意せざるべからず。

（第二） 音聲。

音聲は聽衆を感動せしむる上に於て最も重要なる資格なり。

（イ） 發音の明晰。 凡そ發音明晰ならざれば、言語明了なる能はず、言語明了ならざれば、聽衆に感動を與ふること能はず、故に發音の明晰は最も必要なり。

（ロ） 音聲の高低、强弱。 辯士は其音聲を適宜に高くし、明かに聽衆に達することを努むべし、然れども能く其高低の中和を保つべし、又た演説中志氣を鼓舞し、若くは自己の斷定を下す場合は强聲を用ゆべきも、悲愴哀痛の事を陳ぶる場合の如きは弱聲を用ゆべきなり。

(2) 容儀及身振。

辯士の容儀及び身振は演説の効力に多大の影響を有するものなり。

(第一) 容儀。辯士の演壇に在るや、其容儀は端正謹厳なることを要す、若し軽挙慢動の態度あるときは、聴衆の軽侮を招き、信用を失し、如何に雄辯なるも其効を奏せざるべし、徒に身を仰げば傲慢に見へて不遜なるが如く、さりとて若し屈すれば恐怖に見へて活氣を失ふべし、故に両者の中和を圖り、相當の威信を保つべし。

(第二) 身振。身振は身體の活動及位置に依て、内部の思想を外部に發現する方法なり、故に身振は身體一切の動作を意味するなり。

(イ) 頭と顔。哀傷、謙譲、疑惑等の場合には頭を垂れ、若し之に反して高大、勇壮、自尊等の場合には之を擧ぐべし、又殘忍、恐怖、嫌悪等の場合には之を側に向けるべし。

(ロ) 眼。眼は常に聴衆の方に向くべきものにして徒に左右を顧みるべからず。

(ハ) 手と腕。慚恨、悲愴の場合には手を以て眼を掩ふべきも、勇壮慷慨の場合には右手を振り、又感情に訴ふる場合はテーブルを打ち若くは右手を振りて上下に振るべし。

（ニ）體。謹嚴なる事柄若くは道德に亘ることを陳ぶるときは直立し、尊大、自負を表する場合は反身を要す。

（ホ）脚。脚の動作は進退伸縮凡て手腕及び體軀の作用に從ふべし、但し如何なる場合に於ても、片足にて體軀を保たしむることあるべからず。

II. 辯士登壇の注意。

辯士の已に控席より登壇するや、聽衆は早くも彼れの容姿擧動に注意し、發言前已に演說の巧拙及び論旨の正否を豫斷するものなれば、登壇に就ては充分の注意必要なり。

已に登壇してテーブルの傍に立つや、先づ姿勢を整齊し、輕く兩手を垂れ、少しく頭を俯して、滿場に敬禮の意を表すべし、敬禮終れば、テーブルの上にある、水にて咽喉を濕し、徐ろに演說に着手すべし、要するに登壇の秘訣は、先づ風采擧動に於て聽衆を信認せしむるに在るなり。

III. 壇上の心得。

1）初より高聲を發すべからず、中聲にて說き起し、肝要の點に至りて語勢を强くし、高聲を發し、聽衆の注意を喚起すべし。

2）壇上にて水を飲み、咽喉を濕すこと必要なりと雖も、餘り屢々すべからず、體裁上見苦しきのみならず、却て

音聲を枯渇するに至ることあるべし。

3） 徒に眼を上下し、左右に轉ずべからず、又た一所を熟視すべからず、眼は手の赴くところに注ぐべし、然らざれば輕卒として、聽衆の信認を減ずることあり。

4） 反對多くしてノー、ノーの聲、場内に起り、喧しき時は徐に發言を休め、靜まるを待ちて前論旨を繼續すべし、喧擾の時に當て之を靜めんとせば却て反抗を受くることあり。

5） 演說終らば徐に聽衆に敬禮をなし、悠々壇を下るべし、然れども餘りに緩々に過ぐる勿れ、又た逃ぐる如く急速に失すべからず、宜しく中庸に從ふべし。

式　辭 (Toast.)

式辭は他の演說とは稍や其趣を異にして居るところがある、即ち必ず答辭が之に伴ふことである、宴會などては之を述ぶるに相當する時刻があつて、大抵食後若くは食事の終らんとする頃に始むべきである、即ちサラッドの出る時位にするのである、食事の初に當り、之を述べて食事の妨げとならぬやう充分注意すべきである。

故に其用句用語の如きも、出來得る限り、平易なるものに依り、且つ簡單にして、徒に冗長に亘り聽衆に迷惑を與ふる如きことは充分避くべきなり。

1　英國皇帝陛下の

[1]I have the honour to propose a toast, which I am sure will be received with the utmost cordiality and enthusiasm. It is a toast for the sovereign whose constant solicitude for the [2]preservation of peace have won him the respect and admiration of the whole world. As the allies of his country we [3]repose full confidence upon him, I now ask you, Ladies and Gentlemen, [4]to drink to the health of His Majesty the King of Great Britain and Ruler of the British Empire.

2　米國大統領の

I have the honour to propose a toast, [1]which will meet, I am sure, with the most cordial and enthusiastic response. I mean the "Health of the President," whose noble character and all-round genius [2]command the esteem of all men and whose [3]constant exertions for the peace and welfare of the world have won him universal respect and admiration. Now, I ask you, Ladies and Gentlemen, to drink the health of the President of the United States of America.

【1―註】 1 I have the honour 光榮を有す、又た honour peace 平和の維持。 3 repose full confidence 充分信頼す。
【2―註】 1 which は toast を受く。 2 得る。 3 constant

健康を祝する辭。

余は玆に英國皇帝陛下の健康を祝するの光榮を有す、諸君は必ず誠意、熱情を以て之に應ぜらるべしと信ず、此祝辭は常に平和の維持を希望せられ、之に依りて世界の尊敬と讃美とを得られたる一國の君主に捧ぐるものにして、余等は同盟國として其君主に充分の信賴を有するのである、乞ふ貴女、紳士諸君、英國皇帝陛下の健康を祝せられんことを。

健康を祝する辭。

余は玆に米國大統領閣下の健康を祝するの光榮を有す、諸君は必ず誠意熱情を以て之に應ぜらるべしと信ず、米國大統領の高尙なる性格と、其多方面に亘るの天才は、能く世人の尊敬を博し、常に世界の平和安寧に對して盡瘁せらるゝことは、廣く一般の尊重するところとなつた、貴女紳士諸君、余は諸君が米國大統領の健康を祝せられんことを希望す。

の代りに pleasure を用ゐることもある。 2 preservation of
4 to drink to the health 健康を祝す。
exertion 絶ゑず盡力すること。

3 英國皇帝皇后両

It is a sincere pleasure and satisfaction for the Fmpress, myself, and my whole House to offer a most cordial welcome to your Majesty and her Majesty the Queen in my capital and residence of Berlin and in this old Castle of my forefathers. Ancient traditions and close ties of relationship unite us, and [1]our various meetings have ever been to me a source of special satisfaction. Hardly more than a year ago tne Empress and myself, as [2]your Majesty's guests, had the privilege of spending memorable days in the venerable [3]Castle of Windsor. We hope that your Majesties also will [4]enjoy yourselves with us, and that your stay, which is unfortunately but brief, will leave only pleasant recollections behind. The Empress and I are most particularly pleased that her Majesty, our dear aunt, heightens the brilliance of these festive days by the charm of her winning and amiable presence. We are especially grateful to her that she has not shrunk from the northern winter journey in order to afford us, by her coming to Berlin, a proof of her feelings of kinship.

陛下を歡迎する辭。

余の伯林の首府と余の祖先の舊城に於て、陛下及び皇后陛下を歡迎することは、余の皇后、余及び余の皇室全體の光榮とするところである、古來の歷史と近親の關係は我等相互の關係を近くし、我等が從來度々會合を重ねたことは特に余に滿足を與へるの原因となつて居るのである、今を距ること漸く一年前、余の皇后及び余は、陛下の國賓として、彼の尊敬すべきウヰンザー宮に於て紀念すべき時日を過すことが出來たが、我等は今ま兩陛下が我等とゝもに歡を盡され、且つ兩陛下の滯在は遺憾にして短き日數に過ぎざるも、之に依りて他日愉快なる思出をなさんことを希望するのである、又た我等の叔母君に當る皇后陛下の愉快なる出席を忝ふし、祭日に等しき此兩三日に光彩を添えられたることは、余及び皇后の特に光榮とするところである、且つ皇后陛下が伯林を來訪せられ、近親を思ふの情を示されんが爲め、寒地の旅行も意とせられなかつたことは、我等が特に皇后陛下に對し感謝するところである。

Your Majesty may be assured that, with me, my capital and residence of Berlin and the whole German Empire see in your Majesty's presence a [5]token of the friendly sentiments which induced your Majesty to pay this visit. The German people greets the rule of the mighty British world-Empire with the respect due to him, and perceives in the visit a new pledge for the future peaceful and friendly development of the relations between our two countries. I know how much our wishes for the preservation and strengthening of peace are in accord, and I can offer your Majesty no better welcome than the expression of the firm conviction that your Majesty's visit will contribute to the realization of these our wishes.

In giving voice to the hope that the vast Empire over which your Majesty rules may continue to prosper and flourish, [6]I raise my glass to the health of your Majesty and her Majesty the Queen.

【3—註】 以上の一篇は一千九百九年二月英國皇帝皇后
Hall に於て晩餐會を催され、其席上にて陳べられた、歡迎
1 our various meetings 我等が是れまで種々會合したこと、
Majesty's guest 陛下の賓客、即ち國賓。 3 英國の離宮の
友情の驗。 6 I raise my glass to the health 健康を祝す。

又は余は勿論、余の首府幷に獨逸帝國が全體が陛下をして今回の來訪をなすに至らしめたる友情の徵を示して居ることを陛下は今ま目前に確めらるべし、我獨逸人民は相當なる尊敬を以て偉大なる英帝國の主宰者を歡迎し、且つ陛下の來訪を以て、將來英獨兩國間の關係が益々平和に、親密に赴かんことを期するのである、余は平和を維持し、平和を强固にするに就て、陛下の希望と余の希望とは如何に相一致するかを能く知て居るから、余は陛下の來訪は此希望を充實ならしむる上に於て貢献するところ多しと云ふ外、更に夫れ以上の歡迎の辭を呈することが出來ない。

終に臨んで余は陛下の統御し給ふ大帝國が隆盛に赴かんことを希望すると仝時に、陛下並に皇后陛下の健康を祝するのである。

兩陛下が獨逸に赴かれた時、獨逸皇帝陛下が有名なる White の辭である。
即ち our は獨逸皇帝自身と英國の兩陛下を指す。 3 your
一。 4 enjoy yourselves 樂む。 5 a token........sentiment

4 英國皇帝陛下の

In the name of the [1]Queen, as well as for myself, [2]I beg to express to your Majesty our warmest thanks for the words of welcome with which your Majesty has just greeted us, and no less for the reception, as friendly as it was brilliant, which your Majesty's entire House and your capital and residence accorded to us to-day. Although I have the most pleasant recollections of my repeated visits to Kiel, Wilhelmshöhel, or Cronberg, it is a particnlar satisfaction to me that it was possible for the Queen to accompany me during my present visit and that we were able to pay it in this ancient castle of your Majesty's forefathers in the midst of your capital and residence of Berlin. I need hardly say that neither of us has forgotten the kind visit of your Majesty and her Majesty the Empress to Windsor.

With regard to the aim and desired result of my visit, your Majesty has given eloquent expression to my own feelings, and I can, therefore, only repeat that our coming purposes not only to recall before the world the close ties of relationship between our [3]two

【4—註】 1 英國の皇后を指す。 2 I beg to express... 意。 3 二皇室、即ち英獨兩皇室。

答辭　　　　　　　エドワード七世

陛下が今ま我等に與へられた歡迎の辭と、且つ陛下の皇室全體と首府が本日我等に與へられた友情に富んだ歡迎に對し、余は皇后に代り又た余自身の爲め、余は最も深厚なる感謝の意を表するのである、余は是れ迄、キール、ウイルヘルムシエーヘル、若くはクロンベルヒへは數回訪問を重ね、隨つて最も愉快なる記念を持て居るのに拘らず、今回の行訪中は皇后の同行することが出來、且つ我等兩人にて伯林首府の中心、即ち陛下の祖先の此舊城を訪問することが出來たのは、特に余の滿足するところである、又た曩に陛下並に皇后陛下の我ウヰンザー宮へ行幸を忝ふしたことは、我等の決して忘却せざることは今更ら言を費すに及ばないところである。

余が今回の來訪の目的、及び希望して居る結果に就て、已に陛下より余の考へて居るのと全樣の事を流暢に陳べられたから、我等兩人來訪の目的は獨英兩國の關係の益々密なることを世界に知らしめるばかりでなく、兩國の友誼を

……thanks 最も深き感謝の意を表す、warmest は心からの

Houses, but also aims at the strengthening of the friendly relations between our two countries, and thus at the preservation of the general peace, towards which all my endeavours are directed.

With the wish that the prosperous development of your Majesty's entire Empire may also continue in the future, I raise my glass to the health of your Majesty, her Majesty the Empress, and your House.

5 東京に於ける米國艦隊

Your Excellencies, Ladies and Gentlemen.

It is a very great honour and a source of great rejoicing for Japan to receive a visit from the American Fleet on its wonderful [1]cruise around the world. [2]This undertaking, the fulfillment of which has been entrusted by President Rooseveldt to Admiral Sperry, his officers and men, may be just regarded as [3]unprecedented and [4]epock-making in the naval history of the world, and it is especially gratifying to me that it should [5]have fallen to my lot to act the part of host on this menorable occasion. I will never forget your kindness in [6]honoring my reception with your presence to-night.

【5ー註】 1 巡航。 2 This undertaking 此計畫、即ち世
作る。 5 have fallen to my lot. 余に定まつた。 6 honor-

厚くし、而して余の專心努めて居る彼の全體の平和を維持するに在るのである。

余は茲に陛下の帝國が將來益々隆盛に赴かんことを希望し、併せて陛下、皇后陛下並に皇室の健康を祝するのである。

將官士官を歡迎する辭。

閣下、貴女、紳士諸君、世界周遊の驚くべき航程に在る米國艦隊を歡迎することは日本の爲め非常なる名譽にして且つ歡喜するところである、此壯圖は大統領ルーズヴェルト氏がスペリ少將、其士官、下士、水兵に委託せられたるものなるが、是れ正に世界の海軍史上空前絕後の大事業と認むべきであつて、今回の如き此紀念すべき時に當り、余が歡迎の主人役を勤むべきことは特に余の光榮とする處である、又た余は諸君が此歡迎の席に臨まれたるの厚意は決して忘れざるところである。

界周遊の計畫を云ふのである。3 前例のなき。4 時代を
ing............presen e 出席せられたることは。

Ladies and Gentlemen, I beg you to join me in drinking the health of all the Admirals and officers of the Great American Fleet.

6 以上の

Your [1]Excellencies and Gentlemen :—

The splendid welcome you have extended to the officers and men of the fleet and to [2]their families cannot be mistaken, and it must be perpetuated for generations as tens of thousands of children massed in the streets have lifted their hands and shouted "banzai" day after day. No better [3]gage of lasting friendship could be given.

When Japan opened her doors to the world nearly two generations ago it was fortunate for America that it was first to her, and that to her you looked for new ideals, above [4]all in matters of education.

No two countries have ever clasped hands [5]across the sea so warmly as on this occasion. Day after day thousands of activeminded, intelligent young Americans have received [6]official and personal hospitality at the hands of the Goverment and people and have penetrated everywhere in the great cities of and

【6-註】 1 閣下。 2 officers and men を指す。 3 標準。 lity 官民の歡迎。

貴女、紳士諸君、諸君は余とゝもに米國艦隊の將官、士官の健康を祝せられんことを望む。

答辭。　　　　スペリイ少將

閣下并に紳士諸君、我々艦隊の士官、下士水兵其他家族に對して與へられたる盛なる歡迎は如何に之を誤解せむと欲するも能はず、幾萬の小兒は日々道路に群集して、擧手「萬歲」を歡呼して止まざるが故に今回の歡迎は永く紀念として永久に傳ふべきものにして、之に勝る友誼の標準を見ることは出來ない。

今を距ること六七十年、日本が世界各國に對し、其門戶を開放したる時に當り、米國が初めて日本に接近し、日本が新理想、就中敎育の點に於て、之を米國に求めたる如きは、米國の爲め頗ぶる幸福とする處であつた。

何れの邦國にても、今回日米兩國が海を隔てゝなしたるが如き溫情を以て、握手したことはない、活潑にして知識に富める米國青年は日本政府の手にて官民の歡迎を受け、東京横濱の如き大都會に在りては到る處、其出入せざる場處なく、之れとゝもに新知識を得、且つ歡待せられつゝあ

---

4 就中。 5 海を隔てゝ。 6 official and personal hospita-

Yokohama, gathering new ideas and being treated with a generous courtesy which they and their tens of thousands of home people will never forget.

Both countries may rest content that intelligent sympathy has drawn our ancient friendly ties still closer.

In the name of the officers and men of the Fleet, I thank you most heartily.

7 結婚式

Ladies and Gentlemen,—

It is my [1]privilege to ask you to honour the toast of the day—the Bride and Bridegroom. If a long acquaintance with the young people who have this morning [2]cast in their lot together can constitute a right to propose their health and prosperity, I certainly have a [3]claim. I have known them pretty well all their young lives, and no one rejoices more truly than I do to see their happiness thus assured. They love each other wisely and well. They have every prospect of true happiness. We wish them a long and happy life, with silver and golden wedding-days [4]in

【7—註】 1 特權。 2 cast in their lot together 偕老の
to propose their health and prosperity の要求を意味するの
ふ意、銀婚式や金婚式を將來に蓄へて置いて。

ることは、彼等青年は勿論、其本國に在る幾多の人士に於ても決して忘却せざる處である。

相互の同情は確に日米兩國の友誼を益々親密ならしむべきことである、余は終りに臨み、我艦隊の將校下士に代り、滿腔の誠意を以て感謝の意を表するのである。

の祝辭。

本日玆に新婦、新郎の爲め祝盃を擧ぐることは余の光榮とする處なり、今朝偕老の契を結びたる新夫婦と長く交際したる者が其健康と發展とを祝する光榮を有するものとせば、余は正に之れが任に當るべきものなり、彼等の年少時代は余の最も能く知るところにして、今回の緣組に依り、斯くの如く彼等の幸福の得られたることに對して余の喜悅は決して少々にあらず、又た喜悅の點に於ては何人も能く余の右に出づるものなかるべし、彼等は眞の幸福に對し將來充分の望を抱いて居る、我等は新婦新郎が永き幸福の生涯を送り、其親友とゝもに將來銀婚及び金婚の式を擧げられんことを希望するのである、貴女紳士諸君、余は諸君が

契を結ぶ、即ち運命を共にするの意。 3 要求、即 a right である。 4 in store for them 將來此夫婦の爲め蓄へてと云

store for them, surrounded by those they love. Ladies and gentlemen, I need not insist upon your responding heartily to the toast, since you all feel as I do. May every blessing and happiness attend the Bride and Bridegroom, and long life to them !

8 新郎

Mr. ——, and Ladies and Gentlemen,—

My dear wife and I are extremely [1]obliged to you for the very kind and friendly manner in which our health has been just proposed and received. I am sure [2]I do not deserve all the good things that have been said of me, but I will try to deserve [3]them, and to be worthy of the [4]great treasure which Mr. and Mrs.—have committed to my care. I trust you will pardon the imperfection of my speech —[5]the novelty of my position as a Bridegroom will perhaps plead for my embarrassment; but I am deeply sensible of your kindness, and my dear wife wishes me to thank you most heartily and affectionately for your kind expressions and good wishes towards her. I

【8―註】 1 I am obliged 謝する。 2 I do not deserve sure 貴重なる寶、即ち妻のことを云ふ。 5 the novelty... なつたことは余の演説の不充分にして困難して居ることを

新婦新郎に對し、滿腔の熱心を以て、余が祝盃に應ぜられんことを徒に請求するの必要はない、何んとなれば諸君も亦た余と同感なることは余の十分に知るところである、終りに臨み余は將來新婦新郎の幸福が萬々歳に至らんことを祈る。

の答辭。

…………………君并に貴女紳士諸君、我等夫妻は最も懇切にして而かも友情に富める方法に依りて我等の健康を祝されたることを深謝す、余は余に就て述べられたることに相當せざることを信ず、然れども之に相當せんことを試み、且つ…………氏夫妻が余に授けられたる妻に對して、充分適當すべきものならんことを努むべし、諸君は余の答辭の不充分なることを恕せらるべし、即ち新郎として新らしき位置は斯く不充分なる答辭を以てするの余の困難を保護するならん、されども余は諸君の厚情に對しては深く感謝し妻も亦た諸君の厚意に對して十分に謝せんことを余に

相當せぬ。 3 them は good things を承く。 4 great trea-………embarrassment. 今や余が新郎となつて位置の新しく辯解して吳れることになるだらう。

can say no more than that I sincerely thank you all for your kindness in drinking our health.

9 銀婚式

Ladies and Gentlemen,—

My friends, I have been requested this evening to nndertake a duty, the *duty* sense of which is entirely lost in the pleasure it affords me to perform it. It is an act of friendship, and I feel honoured in having been requested to propose the toast which you are all [1]anticipating. My object, as you have divined, is to call upon you to drink the Health and future continued Happiness of our kind Host and Hostess, whose Silver Wedding we are celebrating to-day.

Five and twenty years appears a lifetime to the young, but [2]Time has dealt [3]leniently with Mr. and Mrs.——, whose health I am about to propose. Old Time, the [4]age-ing one, has not dared to lay an unkind finger on such kindly heads. On the contrary, he spares them ; he respects them, and though he delights in plaguing less [5]deserving mor-

---

【9—註】 1 豫期する、又た expecting を用ゐることも『時』を人間の如くした故である。 3 leniently 溫和に、即年を寄らせるもの、one は time を承けたのである。 5 less 間のことを云ふ。

望む處なり、余は諸君が我等の健康を祝されたることに對し深謝する外何等の辭なし。

の祝辭。

諸君、余は余の本分を全ふせんことを要求せられたが、余は喜悅の余り、余は其本分の如何なる意味なるかを忘れるやうになつた、元より此事は友情に出でたる行爲にして、余は諸君が豫期して居る祝辭を陳べんことを希望せらるゝことは余の光榮とするところである、余の目的は諸君の豫め承知せらるゝ如く、本日玆に銀婚式を催ふさるゝ主人夫婦の健康を祝し、併せて將來の幸福を祈らんことを諸君に促すのである。

二十有五年の歲月は、青年には一生涯の如く長く思はれども、歲月即ち人に年寄らせるものは今余が健康を祝せんとする……………君夫婦には頗ぶる溫和なる態度に出で、決して其頭部に無情の指を加へる如きことなしなかつた、寧ろ、歲月は此夫婦を勞はり、且つ尊敬し、且つ此夫婦より以下の人物を苦めることあれども、此夫婦に對しては年

ある。 2 Time を Capital letter にしたのは擬人法に依りち苦める如きことをしなかつた。 4 the age-ing one 人に deserving mortals モット價値の少ない人物、mortals は人

11

tals, he passes smiling by our host and hostess year after year.

The spring is gone, it my be; the summer is passing, perhaps; but there is yet the [6]golden-lined autumn of their lives to come, when the harvest of good seeds shall be reaped in troops of friends and loving memories. There will be no winter for them!

It needs not my imperfect words and halting speech to indicate to you the way in which the toast should be honoured. I will, therefore, merely give it you, and beg you in heartfelt manner—as I am sure you all will—to drink to Mr. and Mrs............with hearty congratutations on this anniversary—Health and Happiness in future, and [7]Many Happy Returns of the Day. God bless them!

10 以上に對

Mr.——, Ladies and Gentlemen,-

You will, I am sure, compassionate me in the [1]position in which I find myself. I am

---

【9—註】 6 金婚式を秋に喩へたのである。 7 Many 復り來らんことを。

【10—註】 1 the position in which I find myself. 余の

々哉々温顔を呈し、少しも手を觸れずして通過し去つたのである。

諸君、春も去り、夏も復た去りつゝあるかも知れないが、けれども此夫婦の生涯の金色燦然たる秋は此後に來るのであつて、其收穫は友人等が多人數相集り、紀念として之を得るに至るだらう、又た此夫婦は決して冬の霜枯を見ることないだらふ。

余は不充分なる言語と流暢ならざる辯舌とを以て如何にして祝辭を擧くべきかの方法に就て陳べる必要なし、故に只だ一言諸君に之を陳べ、最も熱誠を以て、本日の記念に際し、…………………君夫婦の健康を祝し、將來の幸福を祈り、且つ以後幾回も此記念日の來らんことを希望するのである、余は諸君も必ず同意のことゝ信ず。

する答辭。

………………君及び貴女，紳士諸君、余は諸君が余の現狀に就て憐察せらるべしと信ず、勿論余は夫婦間の狀態如何に就て云ふのでない、余は舊友の一人が雄辯滔々愚妻及

Happy Returns of the Day. 尙ほ將來今日の如き日が度々

今ま居る位置、即ち銀婚式を祝せられたる位置。

not, of course, referring to the matrimonial state, but to the position in which I have been placed by the [2]undeserved eulogies of my old friend who has so eloquently proposed my wife's health and my own, and who has spoken so highly of all our surroundings.

Ladies and gentlemen, what can I say to thank you save that my dear wife and myself *do* thank you from the bottom of our hearts? In her name and my own I must tell you that we do not deserve the praise you have lavished on us: but I may also tell you that for more than twenty-five years my dear wife has exercised an influence for good upon me.

Ladies and gentlemen, one and all, I thank you in the name of all my family. We are delighted to see you here. Your kindness has [4]touched us very deeply, and I am unable to proceed further; but you will quite understand how highly, how sincerely, my wife, my children, and myself appreciate and feel your kind expressions. Ladies and gentlemen, once again we thank you, from the very bottom of our hearts!

【10—註】 2 不相當。 3 澤山にアビセかけた。 4 感ず

び余の健康を祝され、且つ余等の周圍の事情に對して陳べられたる余の身に余る讃辭を忝ふしたることにして、余は斯る讃辭に相當せざる位置に在ることに就て云ふのである。

貴女紳士諸君、余等夫婦は誠心諸君に感謝する外何等の辭なし、余等は諸君が余等に對して與へられたる讃辭に適せざることを余は茲に余等夫婦を代表して言はなければならぬ、されども又之れと仝時に愚妻は二十五年間以上余に少からざる至善の感化力を與へたることを言はなければならぬのである。

貴女紳士諸君、余は家族全體に代りて諸君に感謝するのである、余等は本日茲に諸君に會するの光榮を有するのである、諸君の厚情は余等の感銘する處にして。余は倘ほ此上言ふことを得ず、されども余等家族一同は如何に諸君の厚意を感するかは諸君の充分に了知せらるゝ所なるべし、貴女紳士諸君、更に滿腔の誠意を以て諸君に感謝するのである。

しめた。

11 ローン、テニス倶樂式の祝辭

LADIES AND GENTLEMEN, it is with the greatest pleasure that I arise to propose to you the toast of 'Success to the——Lawn Tennis Club.' Tennis is a game so dear to all of us that [1]we, who have often tasted of its delights, cannot wonder at its universal popularity.

For although the game of Lawn Tennis, as known to us, has been developed within the last 30 years, tennis in simpler forms has been known from time immemorial to civilised and uncivilised races alike. It has been popular among the savage North American Indians from prehistoric times.

Lawn Tennis, while so free from all violence that women[3] make excellent players, yet demands of its devotees an alertness and power of endurance only to be obtained from a fit and healthy physical condition.

Gentlemen, I have much pleasure in asking you to join with me in wishing continued success to the——Lawn Tennis Club.

【10—註】 1 We.........popularity 度々其興味を感じた暴力を出してすること。 3 women make excelient players. ことになれども玆では『婦人が立派......になる』と云ふ意で

部總會に於ける賞品授與(會長の)。

貴女紳士諸君、余は…………ローン、テニス俱樂部の成功に對し乾盃の辭を擧げる爲めに起立するとは余の光榮とする處なり、抑もテニスは人々の皆な親み好む遊技なるが、屢々テニスの興味を知て居るものは、其一般に行はれ居ることを怪ない筈である、何となれば、今日余等の所謂ローン、テニスの遊技は僅々過去三十年間に發達したるものなれども、而かも此遊技は文明國並に野蠻國に在りても等しく余等の記憶すべからざる時代より簡單なる形の下に行はれたるが故なり、彼の北亞米利加印度人の如きは歷史前の時代より普通一般に之を使用し來たのである。

ローン、テスニには暴力に訴ふが如きことなく、能く婦女子をして此技に熟達せしむることあれども、之れが熱心家には、身體の健康狀態に依りてのみ得らるべき輕快の動作と物に堪ゆるの力が必要である。

諸君、余は終りに臨み、…………ローン、テニハ俱樂部が引續き成功して居ることに就き、諸君とともに乾盃の辭を擧げんとするのである。

ものは其廣く行はれて居ることをも怪まぬ。2亂暴、即ち此文を直譯するならば『婦人が立派な遊技者を作る』と云ふある。

12 水泳倶樂部

GENTLEMEN, the——Swimming Club was established in 18—, for the purpose of teaching and encouraging the useful art of Swimming; awarding prizes at [1]public matches; and [2]to have at hand all the necessary apparatus for saving life and [3]rendering assistance in the time of danger; it has been eminently successful in all of its branches.

Swimming is the most useful of all athletic accomplishments. That every child ought to be taught the art there can be no question, as it not only useful for self-preservation, but also in saving the lives of others. It promotes health and strength by invigorating the body, and stimulating the skin. All animal, except the camel, swim naturally. Man is the only perfect animal who has to learn the art of swimming. Those who cannot swim, when immersed in water, fall a sacrifice to [4]its powerful influence by raising their arms our or above it, the weight of which has the effect of depressing the head, and drowning ensues. A boy, no [5]matter how young, acquiring the art of swimming, retains it through life, for once learnt, it is never forgotten. To learn

【12—註】 1 public matches 公衆に觀せる時の水泳術。4 its は water を承く。 5 no matter how 拘らず。

の成功を祝す。

諸君、當…………水泳俱樂部は一千八百……年の設立にかゝるものであつて、其目的とするところは、水泳術の教授と獎勵、其公開の時に賞品を授與すること、危險の場合に人命を救助し且つ其補助を與ふるに必要なる器具を備へ置くことにあるのである、而して其各部は皆能く成功して居るのである。

抑も水泳は凡ての體育中最も大[illegible]なるものであつて、各兒童が皆な此術の教授を受くべきことは、敢て疑を容れざる處である、何んとなれば水泳は自衞に必要なのみならず、他人の生命救助にも必要なるからである、又た水泳は身體を强くし、皮膚を刺激して、健康と力量とを進めるものである、要するに一切の動物中、駱駝を除き、皆な天性游泳の力を備へて居るのである。抑も人間のみは此水泳術を學ぶべき完全な動物である、而して水泳の出來ない人々は、若し水中に陷るとき其兩腕を水中より出し、其重量の爲め頭部を下げ、遂には溺死するやうになるのである、苟くも男兒は其年齡の如何に拘らず、一度水泳術を學ぶならば終生決して忘れるものでない、又此術は最初より適當なる學び

---

2 to have at hand 備へ置く。 3 giving と全意義である。

to swim there is no difficulty, when properly instructed from the first. Sea is preferable [6]to rivers.

Our foreign neighbours seem fully to understand the value of swimming, as regular schools in which it is specially taught are established in Paris, Vienna, Berlin, Munich, and numerous other continental towns and cities, where it is considered a very important and essential portion of the education of youth.

The object of the——Club is[7] to raise swimming from its comparative obscurity; and the means proposed to attain that end are—first, to afford every facility for instruction in the art; and, secondly, to reward merit and encourage emulation by competition.

Join with me in the toast of 'Success to the ——Swimming Club,' and with that toast I couple the name of Mr. ....as Captain, Swimming Master, or Honorary Secretary.

13 議員候補者

Gentlemen,—

I have the pleasure to introduce to you this evening our respected friend and townsman,

---

【13—註】 6 to 比ぶれば。 7 to........obscurity 割合

方を以てするならば決して六ケ敷事でない、河よりも海の方が都合よいのである。

水泳教授の正則的の學校が巴里、維也納、伯林、ミューニヒ其他大陸の都市に設立せられ、水泳を以て青年の教育の重要なる一部と考へて居るが故に我か隣國で水泳の價値を充分に了解して居るやうに思はれて居る。

當…………倶樂部の主旨は從來比較的世間の知られざる水泳術を廣く世人に知らしめんに在りて、此目的を達する方法は、第一には水泳術を學ぶに充分の便利を與ふること、第二には賞品を與へ競爭を奬勵することに在るのである。

諸君、…………水泳倶樂部の成功を祝し、併せて水泳長並に名譽書記として…………君の名を擧げんとするのである。

推薦の演說

諸君、余は今夕玆に、余等の敬愛する友人にして當市民たる………君を議會に於ける當市の自由(若くは保守)主義

に人に知られて居ないのを世間に知せる。

Mr. ——, a Candidate to represent the Liberal [*or* Conservative] interests [1]of this town in Parliament. You have all probably taken an opportunity to study the address which he put forth, and therefore I [2]need not read it now. I may say, however, that it seems to me straightforward and fair. He knows what we want, and, gentlemen, I think from what we know of Mr. ——'s opinions, of his integrity and determination, that he is the man we want. We wish to see —— abolished, and a Bill for —— introduced. Mr. —— [3]has pledged himself to look after our interests in both these matters. Mr. —— is a true Conservative [*or* Liberal], and has the welfare of the party at heart. Gentlemen, as Chairman, I call upon you for a show of hands, and the expression of your wishes towards Mr. ——, whom I will now introduce to you, that you may have an opportunity to hear from his own mouth his sentiments and views upon the great topics of the day. Any question you may put, I am quite sure Mr. —— will answer fully to your satisfaction. Gentlemen, I have the honour to introduce to your notice Mr. ——, as a fitting and proper person to represent you in Parliament.

【13—註】 1 have taken an opportunity 機會を有す。 は need の次に to を置かぬことになつて居るからであつて 3 pleadged himself 固く約した。

を代表する候補者として諸君に紹介するの光榮を有するものである、諸君は曩に同氏が提起したる演説如何を研究するの機を有したるならん、故に今之を朗讀するの必要なしと雖も、余は其演説の公平無私なることを言ふことが出來る、諸君、同氏は余等の要求する處を知るなり、余が同氏の政見に就て知る處に依れば、即ち同氏の勇氣と決心に就て知る處に依れば、余は同氏が余等の要求する人物なるべしと思ふ、余等は議會に於て……案の撤回せられ……案の紹介せられんことを希望するものなるが、同氏は此二件に就き充分余等の利益を顧みるべきことを堅く約せり、同氏は眞の保守黨員(若くは自由黨)にして、同黨の安寧は常に其心頭を離れざる處である、諸君、余は會長として、諸君が同氏に對し諸君の意志、希望を吐露せんことを乞ふものである、余は諸君をして現時の大問題に關する同氏の所思及び意見を、同氏自身の口より聞くの機會を得せしめんが爲めに、今ま玆に同氏を諸君に紹介すべし、余は諸君が同氏に發するの質問に對して、同氏は能く之に答へ、諸君に充分の滿足を與ふべしと信ず、諸君、余は議會に於て諸君を代表するに適當なる人物として、玆に……君を、諸君に紹介するの光榮を有するものである。

---

2 need not read 讀む必要はない、read の前に to のないの need は斯る場合には殆んど助動詞と同樣である。

Mr. ——, a Candidate to represent the Liberal [*or* Conservative] interests[1] of this town in Parliament. You have all probably taken an opportunity to study the address which he put forth, and therefore I [2]need not read it now. I may say, however, that it seems to me straightforward and fair. He knows what we want, and, gentlemen, I think from what we know of Mr. ——'s opinions, of his integrity and determination, that he is the man we want. We wish to see —— abolished, and a Bill for —— introduced. Mr. —— [3]has pledged himself to look after our interests in both these matters. Mr. —— is a true Conservative [*or* Liberal], and has the welfare of the party at heart. Gentlemen, as Chairman, I call upon you for a show of hands, and the expression of your wishes towards Mr. ——, whom I will now introduce to you, that you may have an opportunity to hear from his own mouth his sentiments and views upon the great topics of the day. Any question you may put, I am quite sure Mr. —— will answer fully to your satisfaction. Gentlemen, I have the honour to introduce to your notice Mr. ——, as a fitting and proper person to represent you in Parliament.

【13—註】 1 have taken an opportunity 機會を有す。 2 は need の次に to を置かぬことになつて居るからであつて 3 pleadged himself 固く約した。

を代表する候補者として諸君に紹介するの光榮を有するものである、諸君は曩に同氏が提起したる演說如何を研究するの機を有したるならん、故に今之を朗讀するの必要なしと雖も、余は其演說の公平無私なることを言ふことが出來る、諸君、同氏は余等の要求する處を知るなり、余が同氏の政見に就て知る處に依れば、即ち同氏の勇氣と決心に就て知る處に依れば、余は同氏が余等の要求する人物なるべしと思ふ、余等は議會に於て……案の撤回せられ……案の紹介せられんことを希望するものなるが、同氏は此二件に就き充分余等の利益を顧みるべきことを堅く約せり、同氏は眞の保守黨員(若くは自由黨)にして、同黨の安寧は常に其心頭を離れざる處である、諸君、余は會長として、諸君が同氏に對し諸君の意志、希望を吐露せんことを乞ふものである、余は諸君をして現時の大問題に關する同氏の所思及び意見を、同氏自身の口より聞くの機會を得せしめんが爲めに、今ま玆に同氏を諸君に紹介すべし、余は諸君が同氏に發するの質問に對して、同氏は能く之に答へ、諸君に充分の滿足を與ふべしと信ず、諸君、余は議會に於て諸君を代表するに適當なる人物として、玆に……君を、諸君に紹介するの光榮を有するものである。

2 need not read 讀む必要はない、read の前に to のないの need は斯る場合には殆んど助動詞と同樣である。

14 誕 生 日

Ladies and Gentlemen,—

A very pleasant duty has [1]devolved upon me to-day, and I only regret that I cannot do the subject more justice. I have to propose to you the health of Mr. ——, and to request you to drink the toast, wishing him many happy returns of the day. As one of his oldest friends I may be permitted to say a few words concering him, and to express to those around me the great gratification that [2]association with him has given me and all with whom he came in contact. It is enough for me to say how respected he is, and how kind-hearted. Many of us have had examples of his goodness, and all have experienced his kind hospitality and generous entertainment. Such a father, husband, and friend as Mr. —— is as a beacon set upon a hill, as a lighthouse to the mariner, a guide, [3]philosopher, and friend to youth, a public benefactor, both by the example he sets, and by the good he does in public and private life. Ladies and gentlemen, I am sure you want no word of mine to convince you of our

---

【14—註】 1. 落ちた、devolved の subject は duty であ 2 he came in contact 氏の交際する。 3 哲學者と云ふこと と云ふことである。

の祝辭。

貴女紳士諸君、本日余は玆に最も愉快なる本分を盡すことゝなつたが、只だ遺憾とするところは此事をなすに當り余が正鵠を得ないことである、余は……君の健康を祝し、併せて將來幾回も斯る幸福なる機會の復た來らんことを諸君とゝもに希望するのである、余は同氏の舊友中の一人として同氏に關し一言の勞を執り、從來余が同氏に交際して得た滿足の念と、同氏が交際した凡ての人々に與へた滿足の念とを、今ま玆に會合して居る諸君に示さんとするのである、而して同氏が如何に尊敬せられて居たか、又た如何に友情に厚かりしかは今更ら余の言を要しない、我等の多數のものは同氏の至善と云ふことを模範とし、又た同氏が人に對して親切に寛大に待遇することを、充分に經驗して居るのである、諸君、父として同氏の如き人、夫として同氏の如き人、友人として同氏の如き人は、丘上に目標となつて居る炬火の如きである、航海者に對する燈臺の如きである、青年に對する指導者、賢人、朋友の如きである、又た同氏が示した先例と、公私の生活にて與へた利益とに依り、同氏は公衆の恩人である、貴女紳士諸君、同氏の高尙なる溫和なる

る、即ち duty を受けることになつたと云ふ意である。なれども、玆て人に能く忠告、助言等を與へる wise man

friend's noble and amiable qualities, nor will I longer detain you from the graceful homage we are all desirous to pay in wishing Mr.—— many happy returns of his Birthday.

15 以上に

Ladies and Gentlemen,—

My old friend, my very esteemed friend, Mr. ——, [1]has almost taken away my breath by the eulogy he has pronounced upon [2]my unworthy self, for I am but too painfully conscious how far [3]short I fall from the ideal he has conjured up for your inspection. But in one sense he is right. I am thankful to have so many kind friends, and very glad to welcome you all. I am not so young as I was, and as [4]we begin to descend the ladder of life we are brought face to face with many rough steps and many "hard lines," which we had not noticed before. But even in these circumstances the support of our friends is enough to cheer us up; and the friendship I can fortunately lay claim to, and which I have enjoyed for so many years, is a cheering light upon my downward road. To you, my

【15—注】 1 has almost taken away my breath 殆んど價値なき者に對して過分の讚辭を與へたのであるから、其の。 2 short ....fall 不足する。 4 we begin to descend the

性質に就ては、最早や十分の言を盡したと思ふ、故に余は徒に余の言を長くし、將來幾回も同氏の誕生日の復り來らんことを祈るの妨げとならざらんことを希望するのである。

對する答辭。

貴女、紳士諸君、余の舊友、余の最も尊敬する友人、……
…氏は余の如き何等の價値なきものに對して陳べられた讃辭に依り、余は死ぬやうな心地がした、何となれば同氏が諸君に示した理想の人物に比ぶれば、余は如何に劣るかを十分に知て居るからである、併し氏の言は或意味に於ては尤もである、余には斯る多數の友人のあることは誠に難有次第にして、玆に諸君を迎へることは甚だ愉快とする所である、今や余は從前の如く年少のものでなく、人生の下り坂に向はんとして居るのであるから、從來未だ曾て知らざる險路峻坂に向ふやうになつた、併し斯る狀態に在ても友人諸君の助力は余を樂ましむるに充分であつて、幸にして余が多年受けた友情は余の下り坂を步行する慰安の燈火である、諸君余に幸福のあつたことは、余に諸君の如き友人がある

余を殺さんとした、勿論比喩に過ぎないのであつて、即ち事に對して殺さるゝが如き心地がした。—2 價値のなきもladder of life 人生の下り坂に向ひ初める。

friends, much of my happiness must be ascribed, and by your coming here to-day you have given me much pleasure. Thank you very much for your good wishes, and I trust we may all be spared to meet here for many a year to come.

16 短艇競漕の

Gentlemen,—

We have come to the toast of the day, and, as you will readily admit, it is an interesting one to all present. It is now an annual institution, and its success or failure means a good deal, not only to those immediately interested, but to all who are connected with the——Club. I am glad to be able to chronicle a marked success to-day. The prizes we have been enabled to distribute have [1]met with approval and acceptance.

Let me now say a few words respecting the club and the business side of the question. The finances are in a pretty good condition. The treasurer can inform you that we have £——in hand after all expenses are provided for. But I regret to see that many members are [2]in arrear.

The general arrangements of the club have

【16—註】 1 have met with approval and acceptance 承.

つたと云ふことに原因せればならぬのである、故に諸君が本日玆に出席せられたることは、余の頗ぶる愉快とする處である、余は終りに臨み、諸君の厚意を深謝すると同時に、復た將來幾回も玆に諸君と會せんことを祈るのである。

成功を祝する辭。

諸君、我等は本日の成功を祝する爲め玆に來たのであるが、諸君の能く知らるゝ如く、此事は來會諸君には興味あることである、本日は總會であつて、其競漕の成功と不成功とは直接の利害關係あるもののみならず、當……短艇倶樂部の關係者全體に多大の影響するところである、余は本日の成功を著しく特筆し得べきことを喜ぶものである、又た諸君に授與した賞品は夫々受領者の滿足して受けるところとなつた。

余は尙ほ倶樂部の事業の方面に就て一言せんとす、財政は好都合の狀態に在れば、會計係よりは經費總額を支出するも、尙ほ現金………磅あることを諸君に報告することが出來る、併し多くの會員中會費未納者のあることは、余の遺憾とするところである。

當倶樂部の全體の整理は着々歩を進めたが、其整理の成

認し且つ受領した。 2 are in arrear 會費未納。

been much improved, and the success of the arrangements is in a great measure, if not altogether, due [3]to the untiring efforts of Mr. ——, our most efficient honorary secretary. To him we all owe a deep debt of gratitude, and with his name I will conclude my remarks. I will call upon you all to drink to the health of Mr.........., to whose tact and patience the prosperity and popularity of the club are in a great meisure due. Gentlemen, a bumper if you please for the Honorary Secretary.

17 以上に對

Mr. Chairman and Gentlemen,—

trust you will excuse me if, in my endeavours to thank you for your kind expression of goodwill, I fail to [1]make myself as intelligible as I wish. The honour your have done me is unexpected, and all the more embarrassing to me on that accouut. If is very generous of our chairman to speak of me in such terms. Though I have endeavoured to do my duty I have never done [2]more; and therefore, conscientiously speaking, [3]I have no claim to your thanks. The Club House

【16—註】 3. due to 結果に外ならず。
【17—註】 1. To make myself as intelligible as I wish 余以上のこと。 3 I have no claim to your thanks 貴下の感

功したることは、悉くとは云へないが、當倶樂部の最も敏腕なる名譽書記……氏の日夜孜々として倦まざる功勞に依る所多しと謂はなければならぬ、斯くの如く余等は同氏に多大の感謝を表せざるべからず、故に余の演說を終るに當り、余は同氏の爲め健康を祝せんとす、本會の隆盛と名譽は同氏の敏腕と忍堪とに負ふところ頗ぶる多し、諸君同氏の爲め祝盃を擧げよ。

する答辭。

會長、紳士諸君、諸君の厚意に對し、答辭を陳ぶるに當り、余の思ふまゝを充分になし得ざることは諸君の恕せらるゝところと思ふ、諸君よりは豫想外の讃辭を忝ふし、隨つて余は一方ならぬ苦痛を感じて居るのである、會長より斯る讃辭を忝ふしたることは勿論、會長の度量の濶きに出でたる處にして、余は單に余の本分を盡さんことを努めたる次第なれども、決して夫れ以上の事をなした譯にあらず、故に余の良心より云ふならば、決して諸君の感謝を受ける筈はない、抑も當倶樂部は愉快なる集會所となつて居る

の思ふところを人に知らしむる。 2 余の本分を盡すより謝を受くるの權なし。

has been a very pleasant *rendezvous*, but not all the efforts of the committee and secretary would have accomplished everything without the hearty and pleasant co-operation of the members. Personally I feel much gratified at the very kind manner in which the toast of my health has been received, and I thank you all heartily and sincerely for the way you have honoured me by proposing it.

18 學校の運動會に於

Ladies and Gentlemen,—

I [1]have been requested to give away the Prizes this afternoon, and I have very great pleasure in doing so, particularly as I have watched the sports with much interest, and feel that the winners deserve them. [2]Some of the candidates have run their competitors very [3]closely in one or two events, but the judge's decisions have settled the questions to the satisfaction of all parties, I believe, and nothing is now wanting but the distribution of the Prizes.

I am [4]greatly in favour of Athletics. Such exercises as we have witnessed this afternoon are calculated to bring out all the hardy qualities of boyhood. The lungs are exer-

【18—註】1 have been requested 依賴を受けた。近して。 4 I am in favour好きだ。

が、委員や書記が如何に努力するも、會員諸君の熱心なる愉快なる共働を得ざれば決して何事も成功することが出來なかつたのである、余は余の健康に就て會長の發意に依り諸君が之に和せられたことゝ、會長が之を發意せられたる方法に對し、誠意を以て感謝するのである。

ける賞品授與式の演說。

貴女、紳士諸君、余は本日午後茲に賞品を授與することを依賴されたが、余が此事をするに當り、特に余に多大の愉快を與へたことは、余が多くの興味を以て遊技を目擊し、且つ賞品受領者が其賞品を得るに相當して居ることを知つた故である、競走者中の或者は其對手と殆んど全一に走つたが、審判官の判決は能く双互の滿足するやうに問題を解決したと思ふ、而して今や賞品の授與を除いては何等の殘るところないのである。

余は體育が大好きであつて、本日午後茲に目擊した如き運動は、男子幼年時代に於ける奮鬪的性質を生ずるものと謂ふべきである、例へば肺部は十分に働き、筋肉は強くな

2 them は prizes を承けて居る。 3 very closely 非常に接

cised, the muscles are strengthened, and we have, besides, several moral qualities developed. We learn to accept defeat without ill-feeling, and to obtain victory without any ungenerous triumph over failure.

Our whole life is a race—a struggle in which the weakest will fall [5]behind. There is such competition nowadays in eveything, that intense application is needed to ensure success. So I trust all you young people who hear me will remember how you have gained your prizes, viz., by doing your best. Now, if you carry this idea out in your lives generally, and do your best--not *the* very best, of course, for others may beat you, but your best [6]according to your abilities and opportunities, you will be astonished how quickly you will come to the front, St. Paul bids us so to run that we may obtain a Heavenly crown.

I will not longer [7]detain you. Remember, if you can, my advice: Do your best, and leave the result and the verdict to the Judge. If you fail, you will not be disgraced at any rate, and you have all a chance of winning, for the Prizes are many in the world to come. Now, if you please, I will hand the prizes to the successful competitors.

【18—註】 5 fall behind 敗れる。 6 according to your
7 detain 引止める、即ち尚ほ此上演說を永引かせて諸君を

り、其他種々の道德上の性質を發達させることがある、又た敗けても悪感を生ずる如きことなく、勝ても失敗者に對し、不寛大なる勝利を誇るが如きことなきやになるのである。

我等の一生涯は一種の競走である、即ち最劣者が敗れるところの競爭である、現今では何物に依らず競爭が行はれて居るが、其競爭にありて成功を期するには激烈なる應用が必要である、故に今ま玆に余の演説を聽いて居る青年諸君は、如何にして諸君が賞品を受領するに至りしか、即ち諸君の成功は諸君が全力を盡して得たのであると云ふことを充分に記臆するだらうと思ふのである、サテ、諸君が大抵世渡りの上に於て此考を實行し、諸君の全力を盡すならば、勿論他人が諸君に務つこともあれば、最良の事をせよと云ふにあらず、併し諸君の力と場合に應じて、全力を盡すならば、直に先頭に立つことが出來るだらう、聖ポーロは天の王冠を得る樣に走れと我等に命じて居る。

余は尙ほ此上多くを言はない、諸君、出來得べくんば余の忠告を記臆せよ、諸君の全力を盡し、其余の結果と判決は審判官に一任せよ、假令失敗するも決して恥辱ではない、將來多くの賞品があるから、勝利を得べき機會は充分にあるのである、サテ諸君、今より賞品を頒つのである。

---

abilities and opportunities 諸君の腕前と場合とに依り。
引止めること。

第二編

19 讀書

The good book of the hour, then,—I do not speak of the bad [1]ones—is simply the useful or pleasant talk of some person whom you cannot otherwise converse with, printed for you. Very useful often, telling you what you need to know; very pleasant often, as a sensible friend's present talk would be. These bright [2]accounts of travels; good-humoured and witty discussions of questions; lively or pathetic story-telling in the form of novel; firm fact-telling, by the real agents concerned in the events of passing history; all these books of the hour, multiplying among us as education becomes more general, are a [3]peculiar characteristic and possession of the present age. We ought to be entirely thankful for them, and entirely ashamed of ourselves, if we make no good use of them.

【19—註】 ジオン、ラスキン氏は英國の美術評論家であ
1 書籍。 accounts of travels 旅行記。 3 a peculiar

普 通 演 説

に就て。　　ジオン、ラスキン、

然らば現時の好著書とは--余は悪い書籍のことを言ふのでない--單に或人々の有益な愉快な談話が諸君の爲め印行されて居るものを云ふのであつて、諸君は此種の書籍がなかつたならば、其人々と談話することは出來ないのである、斯る書籍は諸君の知りたいことを知らしめるのであるから、往々必要である、又た思想ある友人の實話が面白くあるが如く、往々非常に愉快である、美文に富んだ紀行文、機智に富んだ議論、小説體の快活な情趣ある物語、現行の歴史の事件に實際關係する人々の精確なる事實の話、斯る一時の著書即ち教育が一般に普及するに從つて我等の間に增加する著書は、現代の特色を帶びて居るものであつて、且つ現在の所有すべきものである、我等は斯る著書に對しては充分に感謝するのである、若し我等が活用することが出來なければ深く恥づべきである。

つて、本編は氏の講演の一部分を取つたものである。
characteristic 特色。

20 米國は英國

Mr. President, let me say that, in my judgment, this notion of a [1]national enmity of feeling toward Great Britain belongs to a past age of our history. My younger countrymen are unconscious of [2]it. They disavow it. That generation in whose opinions and feelings the actions and the destiny of the next age are enfolded, as the tree in the germ, do not at all comprehend your meaning, nor your fears, nor your regrets. We are born to happier feelings. We look on England as we look on France.

21 國民

You are in the last crisis of nations. To be free, or to be slaves—that is the question of the hour. By every obligation of man or States it [1]behooves you in [2]this extremity to conquer—as your devotion to the gods and

---

【20—註】 チオート氏は米國の雄辯家である。 1 國民
承く。
【21—註】 シセロは有名な羅馬の雄辯家、政治家、哲學
tremily は crisis と同意味である。

の友邦なり。　　チオート

議長、余の判斷に依れば、英國に對する斯る國民的憎惡の念は、已に我が歷史の過去の時代に屬するものであつて、我國人の年少者に於ては、決して斯ることを知つて居ないのみならず、之を否認して居るのである、要するに或時代の行動と運命は、恰度一本の樹が其新芽の時の如何に依りて定まる如く、其前の時代の人々の意見と感情に含まれて居て、其支配を受くべきものなれども、必ずしも閣下の意思、心配、悲痛は前時代の支配を受くべきでない、故に我等は斯る支配を受くべきものよりは、一層幸福なる生活を導くべきものであつて、我等が英國に對する態度は、佛國に對するのも仝樣である。

の危機。　　シセロ

諸君は今や國民の最後の危機に臨んで居る、諸君が自由の民となるべきか、將た又た奴隷となるべきかは、目下の問題である、人間としての義務若くは國家としての義務よりして、斯る危機に瀕し、諸君が萬事に打勝つことは、即ち神に對する祈禱と諸君が相互間に一致して居ることが諸君

一般に抱いて居る憎惡の念。 2 it は national enmity を

者であつた。 1 適せしむる。 2 in this extremity の ex-

your concord among yourselves encourage you to hope—or to bear all things but slavery. Other nations may bend to [3]servitude; the birth-right and distinction of the people of Rome is liberty.

22 ガーフヰールド大

On the morning of Saturday July 2, President Garfield was a [1]happy and contented man—not in an ordinary degree, but joyfully, almost boyishly happy. And surely, if happiness can ever come from the honors or triumph of this world, on that quiet July morning Garfield may well have been a happy man. No [2]foreboding of evil haunted him; no premonition of danger clouded his sky.

【21—註】 3 束縛。
【22—註】 ガーフヰールド氏は米國の第廿回目の大統
狂漢ガイトウなるものに狙撃せられ、其負傷が原因になつ
時の米國の政治家である。 1 happy and contented man 幸
ing of evil 死後の禍を豫想すること。

を奬勵し、諸君に希望を抱かしむる故に、諸君が奴隷になると云ふことの外には、何事にも忍堪することは諸君の正になすべき處である、他の國民は或は束縛と云ふとこは盲從するかも知れないが、羅馬人民の天賦の權利と名譽は、自由と云ふことである。

統領の逝去を悲む。

ジエームス、ヂー、ブレーン。

七月二日即ち土曜日の朝、大統領ガーフヰルド氏は、幸福な滿足した人であつた、即ち其幸福なることは尋常の程度でなく、之に反して喜んで、殆んど小兒の如く無邪氣に幸福であつた、而して若し幸福と云ふことが常に現世の名譽若くは勝利より生ずるものとするならば、即ち平和なる七月二日の朝に在りて、氏が幸福なる人であつたのも當然であつて、敢て怪むに足らないのである、斯る平利な幸福な人であるから、氏の未來には何等禍の宿ることなく、又た未來の危險を豫想する暗雲は少しも氏の前頭部に現はれて居なかつた。

領であつた、一千八百八十一年七月二日ワシントンに於てて仝年九月十九日死亡した人である、又たブレーン氏は當福にして滿足した人、即ち何等不平のない人。 2 forebod-

23　海軍の

It cannot [1]be doubted that our President and Secretary of State are to-day gravely concerned at this momentous [2]question. One cannot but [3]indulge in the hope that our President in due time may find a way open to exert his vast influence in favour of peace and to call the attention of the [4]two disturbing Powers to the fact that our country has a right to speak, if not to protest, on behalf of our own imperilled interests, and perhaps to invite the [5]leading naval Powers to consider whether some kind of agreement could not be now reached which would avert the appalling dangers which threaten to convulse the world in the [6]not distant future.

24　自由は今

Where American liberty raised its first voice, and where its youth was martured and

---

【23—註】 此の一節は一千九百九年四月廿一日カーネの關係に就て論じた演説の一節である。 1 It cannot be in 耽る。 4 two disturbing powers 秩序を亂すところの二二大海軍國、即ち是れ亦た英獨兩國を指す。6 not distant

武裝。

カーネギー

我が大統領や國務卿が目下此重大なる問題に就て、最も憂慮して居ることは、疑ふべからざる事實である、故に人は大統領が嘗て平和の爲め、一番奮鬪し、英獨兩國に注意し、我國は假令抗議を申込むにあらざるも、我國の利害關係の爲めに一言し、且つ遠からざる將來に於て、世界を驚かしむるに至るところの危險を避くべき或種の協商を生じ得べき否やに就て、此二大海軍國の考慮を促すの權利を有すると云ふ充分の望を抱いて居るだらう。

尙ほ存す。

ダニエル、ウエブスター、

米國の自由が初聲を上げ、其青年時代に補育せられた場處にありて、其自由は成年となつての力を備へ、其最初の

ギー氏がニユー、ヨークの平和協會大會の席上に於て英獨 doubted 疑ふことは出來ない。 2 重大なる。 3 indulge 列强、即ち英獨二國を指す。 5 the leading naval powers future 近き將來、又た the near future とも云ふ。

sustained, there it still lives, in the strength of its manhood, and full of its [1]original spirit. If discord and disunion shall wound it; if party strife and blind ambition shall hawk at and tear it; if folly and madness, shall succeed to separate it from that Union, by which alone its existence is made sure, it will stand, in the end, by the side of that cradle in which its infancy was rocked; it will stretch forth its arm with whatever of vigor it may still retain, over the friends who gathered around it; and it will fall at last, [2]if fall it must, amid the proudest monument of its glory, and on [3]the very spot of its origin.

25 故ローバート、

[1]Your lordships must all feel the high and honorable charcter of the late Sir Robert Peel. I was long connected with him in [2]public life. [3]We were both in the councils of our sovereign together, and I had long the

【24—註】 1 original spirit 生れた時にもつて居た元氣。spot は even on the spot の意である。

【25—註】 ローバート、ピール氏は英國の政治家である、若し下院では gentleman を使用するのである。2 3 we はピールとウエルリントンを指すのである。

元氣を充分に帶びて、今ま尙ほ存して居る、假令不和及び不合同の爲めに傷けられることあるも、若し黨派の爭や頑迷の野心の爲め引き裂かるゝ如きことあるも、假令愚昧狂暴の徒が自由を存在せしめた彼の合衆國より離すことに於て其効を奏することあるも、結局自由は其幼時の搖籃の側に立つであらう、自由は今ま持て居るあらゆる元氣を出して、其周圍に集つて居る友人等に其腕を伸すであらう、又た自由が倒れなければならぬのであるならば、遂には其名譽の記念碑の裡に、而かも最初生れた現場に倒れるであらう。

ピールを憶ふ。

ウエルリントン

諸君は皆故サー、ローバート、ピール氏の高尙なる名譽ある品性を知つて居るに相違ない、余は公人生活にて、久しく氏と關係あり、共に皇帝の樞機に與り、且つ長らく私交

---

2 if..... must は if it must fall の意である。 3 on the very

る。 1 Your lordship 英國の上院で議員に對する敬稱語で公人の生活、例へば官吏としての生活は public life である。

honor to enjoy his private friendship. In all the course of my acquaintance with him, I never knew a man in whose truth and justice I had greater confidence, or in whom I saw a more invariable desire to promote the public service. In the whole course of my communication with him, I never knew an instance in which he did not show the strongest attachment to truth; and I never saw in the whole course of my life the smallest reason for suspecting that he stated anything which he did not firmly believe to be the fact.

26　雄辯と

When public bodies are to be addressed on [1]momentous occasions, when great interests are at [2]stake, and strong passions excited, nothing is valuable in speech further than it is connected with high intellectual and moral endowments. Clearness, force, and earnestness are the qualities which produce conviction.

True eloquence, indeed, does not consist in speech. It cannot be brought from far.

【26—註】 1 重要なる。 2 at stake 關係して。

上の關係もあつたが、氏と交際を始めて以來、余は氏の眞理を重んじ、正義を尊ぶことに信任を置いたより、尙ほ以上の信任を置いた人物と、公務を進捗する上に於て尙ほ多大の望を屬した人物を見たことがなかつた、又た氏との交際の全部にあつて、余は氏が最も強く眞理に固着するの念を示さない場合を見ることがなかつた、且つ余は氏が事實として固く信じないものを確證したと疑ふが如きことは、余の生涯中毫もなかつたのである。

は何ぞや。

ダ.ニエル、ウエブスター。

重要なる場合に臨んで公衆に向て演說するとき、重大なる利害關係に就て論じ、激しき感情の起つて居るときに當り、其演說が高尙なる知識上、道德上の賜物に關係することより、多くの價値を之に及ぼすものはないのである、彼の明晰、力、熱心は、何れも辯士をして、其確信を生ぜしむる資格である。

眞の雄辯なるものは演說其物に存するにあらず、眞の雄辯は他より之を求むべきものにあらず、骨折とか勉學とか

Labour and learning may toil for it, but they will toil in vain. Words and phrases may be marshaled in every way, but they can not compass it. It must exist in the man, in the subject, and in the occasion.

27 南阿

I have my own view [1]as to the future of South Africa, and I believe in an United States of South Africa, but as a portion of the British Empire. I believe that confederated states in a colony under responsible government would each be practically an independent republic; but I think we should have all the privileges of the tie with the Empire. Possibly there is not a very great divergence between myself and the [2]honorable member for Stellenbosch, excepting always the [3]question of the flag.

〔27—註〕 此の一篇はセシル、ローズ氏が一千八百八
したる演說の一節である。1 as to 關して、honorable
honorable は議員に附ける尊稱である、此議員とは Mr.
ヤー氏は南阿共和國獨特の國旗を生ずべしと主張し、又た
異にして居つたから、斯く『國旗問題の外は』と云ふこと
ある。

云ふことは、雄辯の爲めに働くことがあるかも知れないが、併し何の効をも奏せずして働くのである、言葉とか文句の如きものは、種々の方法にて雄辯の支配を受けることあるけれども、能く雄辯を支配することは出來ない、即ち雄辯をして雄辯たらしむるものは、其辯士にあるのである、其演題にあるのである、其之を爲す場合にあるのである。

の將來。　　セシル、ローズ、

南阿の將來に就ては余に意見あり、余は南阿の聯邦の存在すべきことを認むるも、而かも英國の一部として存在せんことを認むるのである、余は又た責任ある政府の下に在る殖民地の聯邦は、實際に於て獨立の共和國なるも、余は思ふ、我等は英國と關係すべき權利を有すべき筈のものなりと、又た余自身と、ステルレンボスクの議員との間には、彼の國旗問題を除きては、左程考を異にしたことはないのである。

十三年七月バストラン合併法案に就て、自己の政見を發表
member for Stellenbosch ステルレンボスク選出の議員、
Hopmeyer を指したのである。3 國旗問題即ちホフメー
一方に於てローズ氏は英國の國旗を主張し、互に其意見を
を用ゐたのである、Stellenbosch は南阿殖民地の一都會て

28 ワーレン、ヘスチ

I impeach Warren Hastings, Esquire, of [1]high crimes and misdemeanors.

I impeach him in [2]the name of the Commons of Great Britain in parliament assembled, whose parlimentary trust he has betrayed.

I impeach him in the name of all the Commons (*i. e. the people*) of Great Britain, whose national character he has dishonoured.

I impeach him in the name of the people of India, whose laws, rights, and liberties he has subverted, whose properties he has destroyed, whose country he has laid waste and desolate.

I impeach him in the name and by [3]virtue of those eternal laws of justice which he has violated.

I impeach him in the name of human nature itself, which he has cruelly outraged, injured, and oppressed, in both sexes, in [4]every age, rank, situation, and condition of life.

【28—註】 此の一篇はヘスチンクズが印度に於ける失である。 1 high crimes 大罪。 2 in the name 名に依り如何なる年齢のものにても、即ち老幼を問はず。

ングスを彈劾す。

エドモンド、バーク、

余は赦すべからざる大罪と、惡德の行爲とに依りワーレン、ヘスケングスを彈劾するのであるヘスチングスは議會の信任に背ひたが、余は其議會の下院の名によりて彼を彈劾するのである。

ヘスチングスは人民の國民的氣質に恥辱を與へたが余は其人民全體の名によりて彼を彈劾するのである。

ヘスチングスは印度の人民の法律、權利、自由を荒し、其財產を破壞し、其邦土を荒廢に赴かしめたが、余は其人民の名によりて彼を彈劾するのである。

余は正道に基きたる永久の法律の名に依り、且つ其法律の爲めに彼を彈劾するのである、が、ヘスチングスは此法律を破つたのである。

ヘスチングスは男女兩性の如何を問はず、如何なる年齡、如何なる階級、如何なる位置狀態のものに對しても、殘酷なる暴行を加へ、損害を與へ、壓制を施したが、余は此等の人物に代りて彼を彈劾するのである。

政に對し、英國議會にて、バーク氏がした彈劾演說の一節
て、若くは代りての意。3 by virtue 爲めに。 4 every age

29 相　互

There is nothing in the universe that stands[1] alone,—nothing [2]solitary. No atom of matter, no drop of water, no vesicle of air, or ray of light, exists in a state of isolation. Everything belongs to some system of society, of which it is a component and [3]necessary part. Just so it is in the moral world. No man stands alone. All the beings "lessening down from infinite perfection to the brink of dreary nothing," belong to a system of [4]mutual dependencies. All and each constitute and enjoy a part of the world's sum of happiness. No one liveth to himself. The most [5]obscure individual exerts an influence which must be felt in the great brotherhood of mankind.

30 告　別

My Friends,-- No one, not in my siuation, con appreciate [1]my feelings of sadness at this

---

【29—註】 エマソン氏は米國の説教家、哲學者である。
は everything を承く。4 mutual dependencies 相互の依賴、
て居ることを云ふのである。 5 隠れた、即ち人に知れな
【30—註】 此の一篇はリンカンが一千八百六十一年二月
説の一節である。 1 my feelings of sadness at this partin

の　依　頼。　エマソン

宇宙間のもの一として孤立、孤獨のものはない。物質の一微分子も、一滴の水も、少しの空氣も、一閃の光線も、隔離の狀態に存在して居るのでない、之に反して、事々物々、皆な社會組織に屬するのであつて、其等の物は悉く其社會を組立てる要素である。道德界に於ても亦た然りであつて、即ち人間の如きも、一人として孤立して居るものはない、要するに無限の完全より、空と云ふことに至るまで、一切の物體は、皆な相互依賴の系統に屬するのである、故に何物も悉く世界的幸福の一部分を構成し、且つ其一部分を受けて居るのであつて、決して一人で生活して居るものはない、最も隱れたる人物にして、人に知れないものも、人をして同胞主義を感ぜしむるところの勢力を、世間に向つて出して居るのである。

の　辭。
エーブラハム、リンカン

友人諸君、今回の訣別に際し、余の悲みの情を諒知するものはないだらう、余が此地、並に此地の諸君に負ふところ

---

1 stands alone 孤立。 2 solitary 獨り世間より離れて。 3 it 即ち世の中の[illegible]のは皆孤立するのでなく、互に依賴し合つい。

十一日イリノイズ州のスプリングフォールドに於てした演[illegible]

此別れの辛さ。

parting. To this place and the kindness of this people I [2]owe everything. Here I have lived a [3]quarter of a century and have passed from a young to an old man. Here my children have been born and one is buried. I now leave, not knowing when or whether ever I may return, with a task before me greater than [4]that which rested upon Washington. Without the assistance of that Divine Being who ever attended [5]him I cannot succeed. With that [6]assistance I cannot fail. Trusting in Him who can go with me and remain with you and be everywhere for good, let us confidently hope that all will yet be well. To His care commending you, as I hope in your prayers you will commend me, I bid you an affectionate farewell.

31 日本の稅率

In India also there is already severe foreign competition in many classes of our manufacture. [1]So far as cotton is coucerned that

---

【30—註】2 I owe everything 万事……に負ふのである。シントンの代名詞。 6 that assistance 神の助。

(31—註) ロー氏は有名なる英國の保護貿易論者であに激烈に反對した論者なり、此の一篇は氏の反對演說中の限りは。

決して少しとせず、余は此地に居を卜したること玆に二十有五年、青年より進んで老人となるに及んだのである、余の小兒の一人は此地にて生れ、今ま一人は此地で死んだのである、今や此地を去るに臨み、再び足を此地に向けるの時期、並に其成否如何を知ることが出來ない、而かも余の眼前には、嘗てワシントンが其双肩に擔ひしよりも、一層重大なる國務の横はつて居ることを知る、故に余はワシントンの受けたる神の守護を得るにあらざれば、余の成功を期すること出來ない、若し余が之を得ることあらば、余は決して失敗を招くことはない、故に全知全能にして、余が去るにも余に伴ひ、諸君が此地に在るにも諸君を守護し、惠の爲め到る處に現はれ給ふ神を信頼し、何事も圓滿なるべきことを確信せしめよ、余は諸君が余の爲めに祈禱を捧げんことを望むが如く、余も亦た諸君を神の保護に委れ、此禱を以て余の眞情を込めたる告別の辭とするのである。

改正に就て。

又た印度には已に各種の我製造品に就て、外國との激烈なる競爭が行はれて居る、綿に關する競爭は左程激烈ではな

---

3 a quarter of a century 廿五年。 4 task の代名詞。 5 ワ

る、氏は小村外相が英國には協定の餘地なしと云つたこと一節である。 1 so far as.........is concerned .... 關する

competition, I admit, is not serious. But it is beginning; and [2]in regard to cotton we have to fear not only the competition of the West but the competition of the East. Japan is slowly but surely building up a great cotton industry, and I do not think that anyone who recognises the [3]power of organisation of the Japanese people, who realise the unlimited supply of cheap labour which she commands, and which we cannot compete with, can doubt that in time—five, 10, or 20 years hence—if no change is made, there will be a competition from Japan on our Indian market that is bound to be serious and may become dangerous.

32 關稅改

[1]Tariff Reform has now been before the people for some years, and I am more than ever convinced that this [2]change has become necessary in the interests of English trade. Whatever our past experience of the system of free imports has been, it is perfectly clear that its power for good is exhausted, and the

---

【31—註】 2 in regard to 關して、又た as regard to
【32—註】 1 Tariff Refrom 關稅改正。 2 this change 此
the seas 海外の領土、即ち加奈陀や、濠洲や、印度等を指す。

いが、而も共競爭は今將に始まらととするのであつて、我等が綿の競爭に就て恐れるのは、西洋諸國の競爭ばかりでなく、東洋諸國との競爭である、抑も日本は徐々に、而かも着實に、大紡績業を設立しつゝあつて、低廉なる無限の勞働を得ることが出來て、到底我等が競爭し得べからざる日本人民の團結力を認めて居るものは、何人も五年、十年、將又た二十年の後に於て、若し何等の變化が起らざれば、必ず激しき危險なる日本人との競爭が、我等の印度の市場に起るべきことを疑はないと思ふのである。

正 に 就 て。

チェインバレーン

關稅の改正は數年間人民の眼前に橫はつた問題となつて居るが、斯る變化は英國貿易の利害上必要であると、余は充分に承知して居るのである、自由輸入制度に就て、我等の過去の經驗の如何に拘らず、此制度が利益を生ずる力がなくなつたことは、充分明であつて、各國及び我海外の領土が採

とも云ふ。 3 power of organisation 團結力。
變化、即ち關稅改正を指すのである。 3 Dominions across

success of the policy adopted by other countries and by our own [3]Dominions across the seas is such as to encourage us to follow their example. I believe that this is now desired by the great bulk of our industrial people, and that now is our opportunity to reconsider our fiscal system.

33 オーストリアと土國と我英國の態

In Austria we have been [1]unduly and [2]publicly accused of a deliberate policy of malevolence. I do not attach much importance to these accusations. But I cannot allow the gross charges made against us to pass without saying that it would be under the mark to call the gross charges that have been made against us [3]misrepresentations. They are sheer inventions; and the harm they do is not so much in the resentment caused here as in the fact that until they are, not only discontinued, but disbelieved in the country[5]

【33－註】 此の一篇は英國の外相サー、エドワード、グレて、オーストリアと土國との關係に就て英國の態度を明に不正當。 2 公然。 3 misrepresentations 間違つて言ひ現は their は mi-representations を承く。

用した政策の成功は非常なるものにして、我等をして其先例に從はしむるやうになつた、余は斯く諸外國の先例に倣ふことは、今や我工業者の多數の希望であつて、我等が國庫歲入の制度に就て再考すべき好機會なりと信ず。

に對する英國の關係に就て度を明にす。　エドワード、グレー

諸君、我英國は人道に背いた政略を施したものとして、不道理にも墺國に於て公然攻擊をするものがある、余は斯る攻擊には餘り重き置かないが、併し余は我英國の受けた攻擊は甚だしき誤より生じたものと言はずんば、斯る攻擊を看過し去ることは出來ないのである、勿論此攻擊は些細の製造に過ぎない、而して斯る誤傳より生ずる弊害は、當地にて起つて居る惡感には左程大した影響を與へないのであつて、其誤傳は止んで居るばかりでなく、其最初に起つた

ー氏が一千九百九年一月廿二日コールドストリームに於し、オーストリアの新聞紙に答へた演說の一節である。 I すと。 4 製造 5 the country of their origin 其發生地、

of their origin, they create a state of feeling there which is a barrier to cordial relations between the public opinion of the two countries. (cheers). . . . I believe it to be in the interests of this country and, indeed, in the general interest, that we should regulate our attitude towards foreign countries by a determination to fulfil honourably all treaty obligations, to preserve unimpaired particular friendships which we have gained, to strengthen them, and to co-operate in making them assets on the side of peace; and finally, to extend and improve friendly relations with all countries. (Cheers.)

34 ピレニーズに於て部

Soldiers! After triumphing on the banks of the [1]Vistula and the [2]Danube, with rapid steps you have passed through Germany. This day, [3]without a moment of repose, I command you to traverse France. Soldier! I have need of you. The hideous presence of the [4]leopard contaminates the Peninsula of Spain and Portugal. In terror he must fly before you. Soldiers! You have surpassed

【34-註】 1 河の名。 2 河の名。 3 without a moment

土地に於ても、已に信じられないやうになるまでも、兩國の國交上少からざる故障を生ずると云ふ事實により受ける害に比ぶれば、大したことはないのである、(喝采) ＊ ＊ ＊

今や我等が立派に條約上の義務を遂行するの決心、從來我國が各國間に得て居る特別の友誼を維持する決心、友誼を溫め、平和と云ふことに就て各國を共働せしめ、益々友誼を親密ならしむるの決心を以て、諸外國に對する我國の態度を一定することは、單に我國の利害關係ばかりでなく、廣く一般の利害關係なりと信ずるのである。(喝采)

下の兵士に對する辭。

ナポレオン

兵士よ、卿等はヴヰスチユラやダニユーブ河畔にありて勝利を得たる後、獨乙を通過したが、本日余は玆に卿等の一刻も猶豫休息せずして、直ちに佛蘭西を横斷せんことを命令す、英國の軍隊は到る處スペインとポルチユガルの半嶋を蹂躪した、然れども英軍は卿等の赴くや、卿等を恐れて潰走し去るべし、兵士よ、卿等は近世の軍隊以上の名譽を得たり、然れどもダニユーブ河やユーフラチズ河畔、其他イ

---

of repose 一刻も休まずに。 4 英國の徽章。

the renown of modern armies, but you have not yet equaled the glory of those Romans who, in one and the same campaign, were victorious upon the [5]Rhine and the Euphrates, in [7]Illyria and upon the [8]Tagus. A long peace, a lasting prosperity, shall be the reward of your labors. But a real Frenchman could not, ought not to rest until the seas are free and open to all. Soldiers! All that you have done, all that you will do for the happiness of the French people and for my glory, shall be eternal in my heart.

35 死に臨ん

The [1]confirmation of the republic has been my object; and I know that the republic can be established only on the eternal basis of morality. Against me, and against those who hold kindred principles, the league is formed. My life? Oh! my life I abandon without regret! I have seen the past; and I foresee the future. What friends of his country would wish to survive the [2]moment when he could no longer serve it,—when he

---

【34—註】 5 河の名。 6 河の名。 7 バルカン半島の
【35—註】 1 The confirmation of the republic 共和政治
時に當り。

リリーヤやテーガス河畔に在りて、一戰を以て能く勝利を得たる羅馬人の名譽に比べることは出來ない、永遠の平和と繁榮とは卿等の努力に依りて得るところの報酬である、然れども眞の佛蘭西人たるものは、海上の交通が自由となる曉に至るまでは、決して休息することは出來ない、且つ又た休息すべからざるものである、兵士よ、卿等が佛蘭西人民の幸福の爲め、又た余の名譽の爲め、從來行ひ來りたるところ、且つ將來に於て行ふべきところは、永久余の心中に在りて、決して忘却しないのである。

て一言す。　ロベスピー

共和政治を確定することは余の目的とする處であつた、余は共和政治を設立するのは、道德の永久的基盤にのみ依るべきことを知て居る、然るに余に反對し、且つ余と同一の主義を抱て居るものに反對して、同盟が出來て居る、余の生命は何かあらん、余は命を棄てるに何の悲むところかあらん、余は過去を知り、又た將來をも洞察して居る、或人あり、若し其人が最早や國家に何等の用をすることの出來ない時に方り、一即ち罪なき者が壓制の爲めに苦められ、最

西海岸の土地　8 スペインの河の名。
を確立して行くこと。2 最早や國家に盡すこと能はざる

could no longer defend innocence against oppression? Wherefore should I continue in an order of things where intrigue eternally triumphs over truth; where justice is mocked?

[3]Question history, and learn how all defenders of liberty, in all times, have been overwhelmed by calumny. But their traducers died also. The good and the bad disappear alike from the earth; [4]but in very different conditions. O Frenchmen! O my countrymen! let not your enemies, with their desolating doctrines, grade you souls, and enervats your virtues! Death is not "an enternal sleep!" Citizens! efface from the tomb that motto graven by sacrilegious hand. Inscribe rather [5]thereon these words: "Death is the commencement of immortality!"

36 告 別

Generals, officers, and soldiers of my Old Guard, I bid you farewell. For five and twenty years I [1]have ever found you in the

---

【35—註】 3 歴史を參考して問ふて見よ。4 but in very
る。5 墓の表面に。

【36—註】此の一篇はナポレオンがエルバ島に流さるゝ
ある。1 I have found.........glory 卿等が名譽の道を歩み

早や防禦の術なき時に方り、誰か生存せむことを望むだらうか、又た陰謀が常に眞理に打勝ち、正義が嘲笑せらる場合にありて、余は何處に秩序を回復することが出來るだらうか。

諸君、歴史を參照せよ、何時も自由を保護する者は、讒言の爲めに苦められて居る、併し讒者も亦た死を免れない、即ち善悪とも、何れも死んで此世界より消え失せるのであるが、併し其死する状態は非常に異なつて居る、嗚呼佛蘭西人よ、我國人よ、敵をして其社會を紊亂する學説に依り、諸君の精神を下等なるものとならしむるな、又た諸君の德義を薄弱のものとならしむるな、抑も死は『永久の眠』でない、諸君よ、彼の無信神者等が、墓碑に書いて居る斯る題字を消去るべし、碑文には寧ろ『死は不死に趣く發端』なりと云ふ文句を錄すべきである。

の 辭。　　ナポレオン

近衞の將官、士官、兵士、余は今ま卿等を別を告げるのである、二十有五年間余は卿等が常に名譽を得つあつゝたこ

---

different condition 併し善人も惡人の死状は非常に異つて居

に際し近衞の將官、士官、兵士に對して與へた告別の辭でつゝあつたのを知つて居る。

path of honor and of glory. In these last days, as in the days of our prosperity, you [2]have never ceased to be models of fidelity and of courage. Europe has armed against us. Still, with men such as you, our cause never could have been lost. We could have maintained a civil war for years. But it would have rendered our country unhappy. I have, therefore, sacrificed our interests to [3]those of France. I leave you. *But do [4]you, my friends, be faithful to the [4]sovereign whom France has accepted.* The happiness of France was my only fervent prayers. Grieve not for my lot. I shall be happy so long as I know that you are [6]so. If I have consented to outlive myself, it is with the hope of still promoting your glory. I trust to write the deeds we have achieved together. Adieu, my children! [7]I would that I could press you all to my heart. Let me at least embrace your general and your Eagle[8]. Bring me the Eagle. Dear Eagle! may this last embrace vibrate forever in the hearts of all my faithful soldiers? Farewell, again, my old companion—farewell!

---

2 have never ceased 不相變止なかつた。 3 those はのである。 5 the sovereign whom France has accepted 主を云ふ。 6 so は happy を承く。 7 I would……余は

とを知て居る、我等が全盛の時代にあつて、卿等は能く忠實と勇氣を以て仕へしが、而かも今日の如き末路にあつても、卿等は尙ほ此忠勇と勇氣との模範たるに耻ぢないのである、歐洲全體は武裝して我等に向つて居る、而かも卿等の如き軍隊を以て居るならば、決して勝利の得られない筈はなく、又た數年間內亂を維持する位は出來ない筈はないのである、されども斯くの如くすれば、我佛國に不幸を來すのであるから、佛國の利益の爲め、我等の利益を犧牲に供し、余は卿等に別を告げるのである、卿等は佛國の承認したる君主に對して忠誠を盡せよ、佛國の幸福は余が常に熱誠を以て祈るところである、決して余の運命に就て悲むに及ばず、余は卿等が幸福なることを知る限り、余も亦た幸福である．若し余にして尙ほ余の命を永らへんと望むならば、尙ほ一層卿等の名譽を進めんことを希望するに外ならないのである、故に余等が共に樹てた功績を認めて、之を後世に傳へたいのである、イザさらば卿等、余は一々卿等に抱き付きたいのであるが、責めては卿等の隊長と軍旗とにでも抱き付かしめよ、軍旗を持つて來い、余が愛する軍旗、今ま斯くの如く軍旗に抱き付くことが、今後永久余が忠實なる兵士の心中に活躍せんことを希望す、イザさらば。

---

interests を承く。 4 do you は be faithful の意を强めた佛國の承認した君主、即ちナポレオンに代るところの君……したいが(出來ない)。(8) 軍旗。

37 部下の將卒

The time is now [1]near at hand, [2]which must probably determine whether Americans are to be free-men or slaves; whether they are to have any property they can call their own; whether their houses and farms are to be pillaged and destroyed, and themselves consigned to a state of wretchedness from which no human efforts will deliver them. The [3]fate of unborn millions will now depend, under God, on the courage and conduct of this army. Our cruel and unrelenting enemy leaves us only the choice of a brave resistance or the most abject submission. We have, therefore, to resolve to conquire or to die.

Our [4]own, our country's honor, calls upon us for a vigorous and manly exertion; and, if we now shamefully fail, we shall become infamous to the whole world. Let us, them, rely on the goodness of our cause and the aid of the [5]Supreme Being, in whose hands victory

---

【37–註】 此の一篇はワシントンがロング、アイランド hand 近けり。 2 which は time を承く。 3 The fate of の運命。 4 own の次に honor を附けて讀むべし。 5

に對する辭。

ヂオーヂ、ワシントン、

今や時は將に來らんとす、即ち米國人が自由の民となるか將た奴隷となるべきか、米國人が自己の所有に屬するものと稱し得べき財産を所有し得べきや否や、米國人の家屋田畑が荒され破壞せられ、米國人自身は決して人間の力にて救濟すべからざる困難の狀態に陷るべきや否やを決定すべき時は將に來らんとして居るのである、故に將來に於て生れるべき幾百万人の運命は、神の保護の下にありて此軍隊の勇氣と行動如何に依りて定まるのである、殘酷にして寬容に乏しき敵に對しては、我等をして勇敢に抵抗するか、又た耻を忍んで屈服するかの何れか其一を擇ばしむるのみである、故に敵に打勝つか又た死すべきかを決心すべきである。

我等自身の名譽、我米國の名譽は我等をして活潑なる勇氣ある奮發をなさしめんことを我等に促して居る、今ま若し不面目にも失敗せんか、我等は全世界に對して耻を潔すのである、されば味方の至善と神の助力とに依賴せよ、神の御手にある勝利は、我等をして偉大なる高尙なる行動に赴

の戰に先ち其部下に向つてした演說である。 I near at unborn millions まだ生れない將來に於ける幾百万の子孫 Supreme Being は God と全意義。

is, to animate and encourage us to great and noble actions. The [6]eyes of all our countrymen are now upon us; and we shall have their blessings and praises, if happily we are the instrument of saving them from the tyranny meditated against them. Let us, therefore, animate and encourage each other, and show the whole world that a freeman contending for liberty on his own ground, is superior [7]to any slavish mercenary on earth.

Liberty, property, life, and honor, are all [8]at stake. Upon your courage and conduct rest the hopes of our bleeding and insulted country. Our wives, children, and parents expect safety from us only; and they have every reason to believe that Heaven will crown with success so just a cause. The enemy will endeavour to intimate by show and appearance; but remember they have been repulsed on various occasions by a few brave Americans.

38 獨立

Our Union is now complete; our Constitution composed, established, and approved.

【37--註】 6 eyes......are upon us 我等の方を見て居

かしむるやうに我等に活氣を與へ、我等を奨勵して居るではないか、今や我國人は皆な眼を我等に注いで居るのであるから、若し幸にして、我等が我國人を苦める爲めの暴政より、彼等を救ふの器械となるならば、我等は彼等の稱賛する處となるだらう、故に互に奮勵し、自國にて自由の爲めに戰つて居る自由の民は、廣き場處に戰ふ奴隷的の傭兵に比ぶれば、遙に優つて居ることを全世界に知らせしめよ。

我等の自由も、財產も、生命も、名譽も皆な危險に迫つて居るのであるから、此恥辱を與へれらて苦んで居る米國が、望とするところは、只だ諸君の勇氣と行動とあるばかりである、我等の妻子、父母は只だ我等に安全を期待するばかりである、彼等は又た神が斯る正義の味方には勝利を得せしむべきことに就て、充分の理由を持て居る、敵は外觀に依り虛勢を張れるも、諸君記臆せよ、彼等は少數の勇氣に富める米國人より、種々の場合に於て擊退されたることを。

を辨ず。

サミユエル、アダムス、

我が合衆國は今や完成し、憲法は編纂せられ、制定せられ、且つ一般の承認するところとなつた、諸君は今や諸君

る。7 toよりは。8 賭して居る。

You are now the guardians of your own liberties. We may justly address you, as the [1]Decemviri did the Romans, and say: "Nothing that we propose, can pass into a law with out your consent. Be yourselves, O Americans, the authors of those laws on which your happiness depends."

You have now, in the field, armies sufficient to repel the whole force of your enemies, and their base and mercenary auxiliaries. The hearts of your soldiers beat high with the spirit of freedom—they are animated with the justice of their cause, and while they grasp their swords, can look up to Heaven for assistance. Your adversaries composed of wretches who laugh at the rights of humanity, who turn religion into desision, and would, for higher ways, direct their swords against their leaders or their country. Go on, then, in your generous enterprise, [2]with gratitude to Heaven for past success, and confidence of it in the future. For my own part, I ask no greater blessing than to share with you the common danger and common glory. If I have a wish dearer to my soul, than that my ashes may be mingled with those of a [3]Warren and

---

【38—】 アダムス氏は米國革命戰爭の時に於ける政治
........in the future 過去の成功に對して神に感謝し、將來
3 Warren ワーレンの如き人物、Warren は革命軍の一將

の自由の保護者である、嘗て羅馬の立法者が其人民に向つて云つた如く、之れと同樣の意味を以て次の如く諸君に向て云ふことが出來る、即ち『吾人の提出するものは一として諸君の協贊を經ざれば法律となるに至らず、故に諸君は諸君の幸福の依て生ずる法律の制定者たるべし』と。

諸君は今や戰場には充分の兵力を有し、敵の全軍と之を補助するものを擊退することが出來るのである、諸君の兵士の心中は自由の精神を以て鼓舞せられて居る、即ち其味方の正義に適へることにて活氣を帶びて居る、故に兵士が其劍を握るや、仰ひで神の助を求むることが出來、少しも耻ることがないのである、然るに之に反して諸君の敵は如何、彼等は無頼の惡漢より組織せられ、人權を嘲笑し、宗教を邪道に導き、多額の給金を以てせば彼等の首領若くは彼等の邦國に對して、其干戈を向けることを辭せざる輩を以て組織せられて居るのである、然らば過去の成功に就て神に感謝の意を表し、將來の成功に就ては神を信頼し、諸君の寬大なる企圖を以て進め、今ま余の立場よりして云はんか、余は諸君と危險を共にし、諸君と名譽を共にせんとすることより以上の光榮を求めないのである、若し余が死後ワーレンや、モントゴメリイの如き勇士と、全一の場處

家にして愛國の志士である。1 羅馬の立法官。2 with...の成功を信頼して、of it の it は success の代名詞である。官。

a [4]Montgomery, it is—that these American States may never cease to be free and independent!

39 政府と

I will go a little further on social reform. The Government are taunted, and I am sure [1]it is no business of mine to defend this Government, which I think is one of the most covert and most mischievous we have had for many years; but when [2]they are taunted with neglecting social reform I submit to you that of all dreams it is the idlest to think that a Cabinet, and a Parliament, and a country plunged into all the embarrassment and entanglement of a prolonged and harassing war —it is idle to dream that they can undertake social reform. I tell you [4]frankly—if there are any who think that war is a fine thing, so be it—but when war is going on bid good-bye to your social reform (hear, hear). A statesman of the last century whom Lord Rosebery knows well, [5]Mr. Windham, said [6]you do not

---

【39—註】 ジォン、モーレー氏は英國自由黨の名士であ
1 it is……… Government 現政府を保護するのは余の職掌
………war 永びいた苦める戰爭、即ち南阿戰爭を指す。 4
政治家であつて、有名な非戰論者であつた。 6 戰時の社

に葬られんことより以上の希望を有するとせば、其希望は何であるか、即ち米國聯邦をして其自由と獨立とを失はざらしめんことでに外ならないのである。

社會改良。　ジオン、モーレー、

余は社會改良に就て尙ほ少しく論じやうと思ふ、抑も我政府は罵倒せられ、嘲笑を以て迎へられて居るが、余は未だ曾てなき最も慾深き、最も悪しき政府と思ふて居る現政府を保護し、且つ防禦することは、余の正になすべき職務でない、併し政府が社會改良のことを看過し去る故を以て非難せらるゝ時に當り、余は政府が社會改良を行ふ如きことを想像することは、單に空想に過ぎずと云ふ意見を諸君に持出すのである、即ち已に長日月を要した戰後の爲めに苦んで居る內閣、國會、國家が、斯る改良を行ふべしと思ふのは、空想の最も甚しきものである、余は諸君に、ありのまゝを話すが、若し戰爭を以て好事と思ふ人があらば、斯く思はしめよ、併し實際戰爭のあるときには、社會改良と云ふことは決して之に伴はないのである(ヒヤ、ヒヤ)、諸君、前世紀にはウヰンダムと云ふ政治家があつたが、ローズベリイ卿の能く知つて居らるゝ人である、同氏は暴風の吹き

る、此の一篇は氏が南阿戰爭の時にした演說の一節である。
にあらず。 2 they は Government を受く。 3 a prolonged
ありのまゝを。 5 William Windham である、氏は英國の
會改良は望むべからず。

repair your house when a hurricane is blowing. You cannot (hear, hear), and if you are going to make a party and a league of social reform, I will tell you what you have got to do first. You have got to make a party and a league for peace.

40 戴冠式祝賀會準備

It is nearly twelve months since we met here on a very [1]sad occasion, the death of his Gracious Majesty of revered memory, the late King Edward, our much loved King and Ruler. The present meeting is called, as you know, to choose a Committee to make [2]arrangements to celebrate suitably a very joyous occasion, the [3]Coronation of his [4]successor, our beloved King George; and I think it is occasion of this kind, whether sad or joyous, [5]which make us realise the bond there is between us all, and bring us closer together. I feel sure that every man, woman and child, of whatever section of our nation, will do each his or her best to prove by our harmoni-

【38—註】 4 Montgomery、モントゴメリイの如き人

【40—註】・此の一篇は明治四十四年三月神戸在住英國の時。 2 準備。 3 戴冠式。 4 his はエドワード七世な

荒れて居るときに家屋に修繕を施すなと云つて居る、諸君も決して斯ることをすることは出來ない、（ヒヤ、ヒヤ）、若し諸君にして、社會改良の黨派と同盟を造らんとするのであるならば其第一に着手すべきことに就て諸君に話さんとす、即ち諸君が平和の黨派と同盟とを造るべきことである。

委員の任命に就て。

神戸駐剳英國總領事レーヤード、

我等の愛する帝王にして統治者たる、故エドワード王陛下崩御の當時、追悼の爲め我等が此處に會合してから、約十二ケ月にならんとするのである、然るに今回の會合は、諸君も承知の通り、我等の愛するヂォーヂ王の戴冠式と云ふ、最も喜ぶべき時を祝する準備委員を選擧する爲めに開きいたのである、此種の機會は、其幸不幸の如何に拘らず、我等相互の關係を强くし、我等の關係を益々親密ならしむるものであると思ふ、又た余は確信す、即ち我國民の如何なる男子も、婦人も、小兒も、皆斯る祝賀の機會に於て共同一致して、如何に忠君愛國の情を持て居るかを示す爲め、

物、Mong Montgomery も革命軍の一將官。
人會に於けるレーヤード氏の演說。1 sad occasion 不幸
承く。5 which は it is の it を承く。

ous and united action on the occasion of these proposed celebrations how loyal we are to our King and country. (Hear, hear.) May such occasions be [6]few and far between, but when we have an opportunity like the present let us make the very best use of it (applause.)

41 ゲッチスバーグ埋

[1]Fourscore and seven years ago our fathers brought forth upon this continent a new nation, conceived in liberty, and dedicated to the proposition that all men are created equal. Now we are engaged in a great civil war, testing whether that nation, or any nation so conceived and so dedicated, can long endure. We are met on a great battle-field of that war. We have come to dedicate a portion of that field as a final resting place for those who here gave their lives that [2]that nation might live.

It is altogether fitting and proper that we

【40—註】 6 few and far between 僅にして頻繁ならの如し。

【41—註】 1 四十。 2 that が二語並んで居るが次の接續詞である、故に此 that は『爲めに』と譯するのである。

全力を盡すべきことを(ヒヤー、ヒヤー)、兎に角、斯る機會の僅にして頻繁ならざらんことを希望するのであるが、今回の如き機會の生ずる時には、我等は最もよく其機會を利用すべきである(喝采)。

葬地の發開式に於て。

エーブラハム、リンカン、

今を距ること八十七年前、我等の祖先は自由と云ふことで考へ、人類は皆な平等に生れたものであると云ふ主意に捧げたる新國民を此大陸へ持て來たのである、然るに今や我等は内亂を起し、其國民或は又た今ま述べた如く、自由と云ふことで考へ、人類は皆な平等に生れたのであると云ふことに基いて居る國民が永續し得るや否やを試驗して居るのてある、我等は今ま其内亂の戰場に集つて居るが、我等が此處に來たのは、國民を活かす目的にて、自己の生命を棄てた人々の墓處として、其戰場の一部を捧げる爲めである。

抑も我等が此事をするのは、當然のことである、併し廣き

ず、例へば The visits of my friends are *few and far between*

that は nation の形容詞であつて、前の that は目的を示す

should do this. But in a larger sense we cannot dedicate, we cannot consecrate, we cannot hallow this ground. The brave men, living and dead, who struggled here, have consecrated it far above our power to add or detract. The world will little note, nor long remember, what we say here; but it can never forget what they did here.

42 ワシン

The principles of Washington's administration are not left doubtful. [1]They are to be found in the constitution itself, in the great measures recommended and approved by him, in his speeches to Congress, and in that most interesting paper, his Farewell Address to the People of the United States. The success of the government under his administration is the highest proof of the soundness of these principles. I speak, of course, of great measure and leading principles.

His principle, it was, to act right, and to [2]trust the people for support; his principle, it was, not to follow the lead of sinister and

【42—注】 1 They は principles を承く。 2 to trust...

意味に於て云ふならば、我等は此土地を捧げることも、此土地を神聖にすることも出來ない、此土地で戰爭に從事した勇士等は、其生死如何に拘らず、我等が此土地を神聖にするよりも已に倘ほ一層、之を高めて居るのである、我等が今ま玆で演說して云ふことに就て、世の中は殆んど注意しない、又永く記憶に存して置くこともなからう、併し世の中の人々は彼の勇士の功績に就ては、決して忘却することが出來ないのである。

トンの主義。

ダニエル、ウエブスター、

ワシントンの施政の主義は決して不確立のものでない、其主義は憲法にも、又た彼れの推薦し、彼れの承認した政治上の處置にも、又た國會に於ける彼れの演說にも、又た合衆國の人民に對する告別の演說中にも、能く現はれ居るのを知ることが出來る、而してワシントンの施政の下に在りて、政府が能く成功したことは、則ち其主義の堅實なることを證明して居るのである、勿論余の所謂政治の方針及び主義は、即ちワシントンの大方針、大主義を意味するのである。

抑もワシントンの主義とするところは、正義に依りて行動し、人民を信賴して其援助を得ると云ふことである、即ち其主義とするところは、不正なる個人的の目的に從ふので

……for support 人民の助を得んが爲めに人民を信賴する。

selfish ends, nor to rely on the little arts of party delusion to obtain public sanction for such a course. Born for his country and for the world, he did not give up to party what was meant for mankind. The cousequence is, that his fame is as durable as his principles, as lasting as truth and virtue themselves. While the hundreds whom party excitement, and temporary circumstances, and casual combinations, have raised into transient notoriety, sink again, like thin bubbles, bursting and disolving into the great ocean, Washington's fame is like the rock which bounds that ocean, and at whose feet its billows are destined to break harmlessly forever.

43 完全

[1]Imagine to yourselves a Demosthenes, addressing the most illustrious assembly in the world upon a point whereon the fate of the most illustrious of nations depended. How awful such a meeting! How vast the subject! Is man possessed of talents adequate

【43—註】シエリダン氏は有名なる英國の演說家であ
せよ。

ない、且つ又た斯る方法に對し一般の許を得んが爲め黨派的偏見の小刀細工に依るものにあらず、ワシントンは國に貢獻する爲めに生れ、否な世界に貢獻する爲めに生れたものなれば、人類の爲めにすべきことを黨派の手に委ぬる如きことを敢てしなかつたのである、故に其結果、眞理と美德が永遠に傳はるが如く、彼れの名聲は其主義と同じく、後世無究に傳はるやうになつた、黨派の刺激に依り、一時の事情に驅られ、偶然の團結に依り、只だ一時天下に名聲を博するもの、幾百人あるも、是れ直に破れて溶解し、大海に注ぐところの胞沫の類である、然るにワシントンの名聲は之に反し、泰然として其大海の沿岸に屹立し、如何なる怒濤激浪が之に當るも、何等の害を受けざる、彼の大石巨岩に等しきものと謂ふべきものである。

の辯士。

リチアード、ブリンスレー、シエリダン

諸君は世界中で最も有名なる會合にて、各國民中の最も有名なる國民の運命に關係して居る問題を掲げて演說するデモステニーズなりと假定せよ、斯る會合は何たる莊嚴なる會合なるか、斯る問題は何たる重大なる問題なるか、人間は斯る場合に適合すべき力を備へて居るのであるか、然

る。I imagine to yourselves 諸君自身に………なりと想像

to the great occasion? Adequate! Yes, superior. By the power of eloquence the augustness of the assembly is lost in the diginty of the orator, and the importance of the subject for a which superseded by the admiration of his talents.

Which what strength of argument, with what powers of the fancy, with what emotions of the heart, does he assault and subjugate the whole man, and at once captivate his reason, his imagination and his passions! To effect this must be the utmost effort of the most improved state of human nature. Not a faculty that he possesses is here unemployed; not a faculty that he possesses but is here exerted to its highest pitch.

Within, the memory, the fancy, the judgment, the passions are all busy. Without, every muscle, every nerve, is exerted.

Notwithstanding the diversity of minds in such a multitude, by the lightening of eloquence they are melted into one mass; the whole assembly, actuated in one and the same way, become, as it were, but one man, and have but one voice.

44 黑奴の

I regard the freedom of the Negro as accomplished and sure. Why? because it is

り、人間は之に適合して居るのみならず、尙ほこれ以上である、抑も雄辯の力を以てすれば、莊嚴なる會合も其辯士の威嚴に呑まれて仕舞ふのであつて、又た重大なる問題も辯士の力を稱讃すると云ふことて壓倒せられて仕舞ふのである。

然らば辯士が聽衆を呑んで仕舞ひ、聽衆を壓倒し、直ぐに其理性と、其想像と、其情性とを起さしむるのは、如何なる辯論の力に依るか、如何なる想像力に依るか、又た如何なる感情の力に依るのであるか、抑も之を全ふすることは、人間天性の最も進歩開發したる狀態が、最も充分に働くことである、斯る場合にありて、辯士の持て居る力は一として使用せられざるはなく、即ち其力は一として最高の調子に至るまでも働かないものはないのである。

要するに內部では記臆力、想像力、判斷力、性情の力は悉く働いて居る、又た外部では如何なる筋肉も、如何なる神經も、悉く働いて居るのである。

斯る多人數の群集にて、其心は千差萬別なるに拘らず、雄辯の電光を放てば其心は溶けて一の塊となるのである、即ち全體は全一の方法によりて刺激を受け、只だ一人となり、只だ一の聲を出すやうになるのである。

解放に就て。　　　ブローアム

余は黑人種の自由は完全にして確實なるものと認むるのである、何んとなれば自由は黑人種の權利なるが故である、

his right; because he has shown himself fit for it; because a pretext, can no longer be devised for withholding that right from its [1]possessor.

The time has come; you have no longer a pretext for hesitation, faltering, or delay. I demand [2]his rights. I demand his liberty without stint. In the name of justice and of law, in the name of reason, in the name of God, who has given you no right to work injustice, I demand that your [3]brother be no longer trampled upon as your slave! I [4]make my appeal to the Commons who represent the free people of England, and I require at their hands the performance of that condition for which they have paid so enormous a price, that condition which all their constituents are in breathless auxiety to see fulfilled! I appeal to this house. Hereditary judges of the first tribunal in the world, to you I appeal for justice. Patrons of all the arts that humanize mankind, under your protection I place humanity herself. To the merciful sovereign of a free people I call aloud for mercy to the hundreds of thousands for whom half a million of her Christian sisters have supplicated, I ask that their cry may not have risen in vain.

【44—註】ブローアム氏は英國の演説家で、政治家であ
his rights 奴隷の權利。 3 brother は黑奴を指す。 4 make
議員のことを云ふ。

黑人種は自由を得るに適して居るからである、最早や自由の權利を其所有者より奪ふの口實を設くること能はざるが故である。

時期来れり、諸君には最早や躊躇、延引、事を決せざるの口實なし、余は茲に於て黑人種の權利を要求するのである、余は何等の制限を加へずして其自由を要求するのである、正道と法律に代り、理性に代り、諸君に不正を働くの權利を與へざる神に代り、諸君の兄弟たる黑人種は、最早や諸君の奴隷として蹂躙せらるゝものにあらざることを要求するのである、余は英國の自由の民を代表する下院議員に訴へ、多額の經費を要したしる條件、即ち選擧人が一日千秋の思ひを以てて待る條件を、下院議員の手で解決せんことを求むるのである、余は正道の爲め、此議院即ち世界最高の世襲的の判官たる諸君に訴ふるのである、嗟呼、人間をして人道を重んぜしむるところの術を有する保護者よ、余は諸君の保護の下に人道其ものを置くのである、余は自由の民を支配し、慈惠に富ませ給ふ君主に對し、幾千万の黑人に其惠を垂れ給はんことを絶叫するのである、見よ多くの基督信徒は黑人種の爲めに哀願して居るではないか、嗟呼此等基督信徒の聲は、決して徒に擧げられたのでない。

る。1 所有者、即ち自由の權利を所有して居るもの。2 my appeal 訴へる。5 hereditary.........in the world 國會

But I first turn my eye to the throne of all justice, and devoutly humbling myself before Him who is of purer eyes than to behold such vast iniquities, I implore that the cause hovering over the head of the unjust and the oppressor be averted from us, that your hearts may be turned to mercy, and that over all the earth His will may at length be done.

45 女子教

President Naruse, teachers and students: While I am not as much occasioned to speaking to young ladies as to young men, I am glad to show my interest in the education of women. When I was selecting a wife for myself I chose one who was a graduate from a women's college. If the husband and wife have similar tastes and enjoy the same things it tends to make married [1]life more pleasant. Educated men need educated wives and it is fortunate that in schools like this young women are educated to be [2]proper and congenial companions for the young men who are being educated in the Goverment colleges and in the colleges founded by Count Okuma, Mr. Fukuzawa and others. When, in a con-

【45—註】此の一篇は米國の演說家ブライアン氏が曾
生活。2 proper 適當な、即ち befitting の意である。

されど余は第一着手として、正道の最高府たる神の玉座に向ひ、斯る大罪に着眼するよりも、尚ほ一層潔白なる眼を持たせ給ふ神の前に恭しく跪き、我等をして正道を重んぜず、壓制を好む者に與みせしめず、諸君の心が慈愛に赴き、地球上到る處神の御心の及ばんことを深く祈るのである。

育に就て。　　　　ブライアン

成瀬校長、教職員、學生諸氏、余は青年學生に對して演說したる如く、女學生に對して演說を試むる多くの機會を持て居ないに拘らず、余は本日茲に女子教育に關する余の興味を示さんとする光榮を有するものである、曾て余が妻を撰ぶの時に當り、余は女子大學出身者を以てしたことがある、何んとなれば夫婦が同一の趣味を有し、同一の事柄を樂むことあらば、妻帶生活は之に依りて益々其愉快なる有樣に赴くものである、抑も教育を受けたる男子は、妻を撰ぶには教育を受けたる女子を以てするものにして、當校の如き學校に在りて教育を受くる女子は、目下帝國大學、大隈、福澤其他の諸氏の設立にかゝる大學にて、教育を受けつゝある青年學生に對し、適當にして、且つ愉快なる配遇者たるべきは、誠に好都合の事と謂ふべきことである、余は曾て

て女子大學に於てした演說である。 1 married life 夫婦の

versation with President Diaz of the Mexican Republic, I congratulated him on the attention he was paying to the education of women and told him that the mothers as well as the fathers must be educated if his people were to make great progress, he replied that the women needed education even more than the men because the mother was the child's first teacher. In the great work that [3]lies before Japan the women must bear an honorable part and the surprising development of this school shows that they are preparing to do so. [4]At the rate at which this school has grown it will not be long before the education of the daughters of Japan will be on as firm a footing as the education of the sons now is. The visit to this school and the kindness shown my wife and myself here will be a pleasant memory when we return to the United States.

46 米國戰

My lords, this ruinous and ignominious situation, where we cannot act with success,

【45—註】 3 lies before Japan 日本の目前に在る。 4 at 力に依れば。

メキシコ共和國の大統領たるデイーアース氏と談話を交へた際、同氏が女子教育に與へつゝありし注意を視し、若し同氏が同國人民の進歩を圖るならば、母たるべきものには、父たるものと同一の教育必要なることを述べたることありしが、同氏は答へて曰く、女子の教育は男子の教育より其必要の點に於て大なり、何んとなれば小兒が初めて先生とするものは母なるが故なりと、要するに、今や日本の眼前には大事業が横はつて居る、而して日本の女子たるものは此事業に加はり、名譽ある活動をなすべきである、果して然らは、當校の此驚くべき進歩發達は、即ち玆に教育を受けつゝある女子が、其活動の準備中にあることを示すものと謂ふべし、從來當校のなし來りたる發達進歩の程度を觀るに、日本に於ける女子教育の基礎が、男子教育の現狀と同樣の程度に達することは、決して遠き將來にあらざるべし、余が本日當校に來り、余等夫婦の忝ふしたる厚情は、歸國後、愉快なる紀念として存する積りである。

爭に反對す。

ウヰリアム、ピツト

諸君、破壞的にして、恥辱になるべき目下の時局は、我等が如何に行動するも功を奏すること能はず、又た如何に

---

the rate at which this school has grown 當校の發展した速

nor [1]suffer with honour, calls upon us to remonstrate in the strongest and loudest language of truth, to rescue the ear of Majesty from the delusion which surround it. The desperate state of our arms abroad is [2]in part known. No man thinks more highly of them than I do. I love and honour the English troop . I know their virtues and their valour. I know they can achieve anything except impossibilities ; and know that the conquest of English America is an impossibility. My lords, *you cannot conquer America.* What is your present situation [3]there? We do not know the [4]worst ; [5]but we know that in three campaigns we have done nothing and [6]suffered much.

My lords, this [7]awful subject, so important to our honour, our constitution, and our religion, demands the most solemn and effectual inquiry. And I again call upon your lordships, and the united powers of the State, to examine it throughly and decisively, and to stamp upon it an indelible stigma of the public abhorrence. And I again implore

【46—註】 ピット氏は英國の政治家である。 1 堪ゑ凌のみ知れて居る。 3 there は米國を指す。 4 the worst 最ち最も悪しき位置であつて、尙ほ此上悪しき位置のあるの contrary の意である。 6 苦んだ。 7 this awful subject は

苟むも名譽を以て坐ゐること能はざる時局であるが、此時局は皇帝陛下の誤解を解き我等の意思を皇帝陛下の叡聞に達せんが爲めに、眞理を含んだ言語を以て、我等をして大聲疾呼せしむる時局である、何となれば海外に在る我軍隊が絶望的の位地にあることは、只だ其一部分のみ知られて居ないではないか、然るに何人も能く余が其行動に就て充分に考へるより以上の考をするものはないのである、余は我英國軍隊を愛し、且つ尊敬するものである、余は其德と其勇氣とを知て居る、余は不可能事を除いては何事も能く彼等の遂行すべきことを知て居る、余は英領亞米利加の征服は不可能事なるとを知て居る、嗚呼、諸君、諸君は米國を征服すること能はず、諸君は目下米國にて如何なる位地に立つか、余は諸君の目下の位置より悪しきものあることを知らず、されども英軍が三ヶ處の戰に敗れ、多大の損失を受けたることは、我等の能く知るところでないか。

諸君、此恐るべき問題、即ち我國の名譽、我國の憲法、我國の宗教に對して、重且つ大なる此問題は、最も鄭重にして有効なる研究を要するのである、余は再び諸君及び國家の各有力家の注意を促すのである、即ち、本問題を充分明に取調べ、本問題の恐るべき點に於ては、國民一般が永く忘るべからざることを、余は再び我宗教の高僧諸君に懇願す、

ぐ、即ち to bear の意である。 2 is in part known 一部分も悪しき位置、worst の次に situation を置て讀むべし、即を知らないと云ふ意である。 3 之に反して、即ち on the 米國戰爭を指す。

those holy [8]prelates of our religion to do [9]away these iniquities from [10]among us. Let them perform a lustration ; let them a purify this House, and this country, from this sin.

My lords, I am old and weak, and at present unable to say more ; but my feelings and indignation were too strong to [11]have said less. I could not have slept this night in my bed, nor reposed my head on my pillow, without giving this vent to my eternal abhorrence of such preposteous and enormous principles.

47 マッギ

Is there amongst you any one friend to freedom ? Is there amongst you one man who esteems equal and impartial justice—who values the people's rights as the foundation of private happiness, and who considers life as no boon without liberty ? Is there amongst you one friend to the constitution—

【46—註】 8 prelates 高僧、英國の上院には高僧等も出より、 from も among も前置詞であるから double pre-とが出來ないほど。

【47—註】 マッギー氏はアイルランドの宗教家にして。氏も亦た同國の名士であつて、マッギー氏を辨護したので

即ち我等より斯る罪惡を除去せんことを、嗚呼、罪過を消滅する爲めに神に供物をなすべし、斯る罪を、除去して、此議院、此國を淸潔にすべし。

諸君、余は老衰して、差當り尙ほ此以上を言ふ能はず、されども余の感情と余の憎惡の念は强くして、差控ゑて居ることが出來なかつた、余は斯る不條理なる、斯る極惡の主義に就て、余が永久の恐怖すべき恐を充分に吐露せざれば、今夕は枕を高くして安眠することが出來なかつたのである。

ー氏を辯護す。

オーコンネル

諸君の內には自由の友となるべき人は居るか、諸君の內には公平無私の法律を貴ぶ人、即ち私人的幸福の基礎として人民の權利を重んじ、若し自由を有せざれば人生は何等の恩寵にあらずと考へる人は居るか、諸君の內には憲法の友となるべき人、即ち壓制を惡む人は居るか、若し以上の

席して居る。9 do away 取り去る。10 from among 間 position と云ふ。11 to have said less 之より少しく言ふこ

其反對派の人々より攻擊を受けた人である、オーコンネル ある。

one man who hates oppression? If there be, Mr. Magee apeals to his kindred mind, and expects an acquittal.

There are amongst you men of great religious zeal—of much public piety. Are you sincere? Do you believe what you profess? With all this zeal, with all this piety, *is* there any conscience amongst you? *Is* there any terror of violating your oaths? Are ye hypocrites, or does genuine religion inspire you? If you are sinners, if you have consciences, if your oachs can control your interests, then Mr. Magee confidently expects an acquittal.

If amongst you there be cherished one ray of pure religion—if amongst you there glow a single spark of liberty—if I have alarmed religion, or roused the spirit of freedom in one breast amongst you, Mr. Magee is safe, and his country is served.

48 我共和政

What is the nation's purpose? The main purpose of the founders of our government was to secure for [1]themselves and for posteri-

【48—註】 1 founders を承く。

如き人物が居るとすれば、マツギー氏は其同情に訴へ自由の身とならんことを期待するのである。

諸君の内には非常なる宗教熱心家、即ち敬神家は居るか、諸君は眞面目なるか、諸君は諸君の宣言することを信ずるか、斯る熱心あり、斯る敬神の念ありとすれば、諸君には良心あるか、諸君には諸君が神に對して立てたる誓約を破ぶることに就て恐怖心を有するものあるか、諸君は僞善者なるか、將た又た眞正の宗教の感得を受くるところあるか、諸君が神に對する罪人であり、諸君に良心があり、諸君の誓約が諸君の利害を支配するのであるならば、マツギー氏は信賴して自由の身たらんことを期待するのである。

若し諸君の内に眞の宗教の只だ一點の光明にてもあるならば、若し諸君の内に自由が微かに其光明を放つならば、若し諸君が宗教を畏れ、又た諸君に少しにても自由の精神が起るならばマツギー氏は無事にして、其邦土の爲に盡すことが出來るのである。

治の目的。

ウヰリアム、ジエニング、ブライアン

此國民の目的とするところは何であるか、我政府の創立者等の爲め、又は其子孫の爲め、自由の恩澤を得ることを

ty the blessings of liberty, and that purpose has been faithfully followed up to this time. Our statesmen have opposed each other upon economic questions, but they have agreed in defending self-government as the [2]controlling national idea. They have quarrelled among themselves over tariff and finance, but they have been united in their opposition to an [3]entangling alliance with any European power.

Under this policy our nation has grown in numbers and in strength. Under this policy its beneficient influence has encircled the globe. Under this policy the tax-payers have been spared the burden and the menace of a large military establishment and the young men have been taught the [4]arts of peace rather than the science of war. On each returning Fourth of July our people have met to celebrate the signing of the Declaration of Independence; their hearts have renewed their vows to free institutions.

49 米國

Great has been the Greek, the Latin, the Slav, the Celt, the Teuton and the Anglo-

【48―註】 2 cont olling 人心を支配する。 3 縈根錯

以て其目的として居つたが、今日に至るまで、其目的は忠實に守られて來たのである、我國の政治家には經濟上の問題に就て互に相反目することありしも、自治の制度を以て、國民全體の人心を支配する主なる觀念とし、之を防禦する上に於て、悉く一致したのである、又た彼等は税則なり、財政なりの問題に就ては、相爭ふところありしと雖も、歐州の如何なる强國との困難なる同盟に對しても、能く一致して反對したのである。

我國民は斯る政治の方針の下にありて、其數と、其力の上に於て發達したのである、我國民は斯る政治の方針の下にありて、其恩惠に富んだ感化力を廣く全世界に及ぼしたのである、斯る政治の方針の下に在りて、我國の納税者は多大の軍備の負擔と、其戰爭に對する恐怖を免れ、又我國の青年は戰爭の術を究むるよりも、寧ろ文學美術學の如き、平和の術を學ぶことが出來るのである、毎年七月四日の來る毎に、我人民は獨立宣言の調印を祝する爲め會合して、自由制度に對する決心を益々强くすることになつて居る。

の使命。

ウヰリアム、ジエニング、ブライアン

希臘人も、拉丁人も、スラヴ人も、セルト人も、テュートン人も、アングロサキソン人も皆な偉大な人種であつ

節の。 4 the arts of peace 文學美術の如きものを云ふ。

Saxon, [1]but greater than any of these is the American, in whom are blended the virtues of them all. Civil and religious liberty, universal education and the right to participate, directly or through representatives chosen by himself, in all the affairs of government—these give to the American citizen an opportunity which I can be found nowhere else.

[2]Anglo-Saxon civilization has taught the individual to protect his own rights; American civilization will teach him to respect the rights of others.

Anglo-Saxon civilization has taught the individual to take care of himself; American civilization, proclaiming the equality of all before the law, will teach him that his own highest good requires the observance of the commandment:

"Thou shalt love thy neighbor as theyself:"

Anglo-Saxon civilization has, by force or arms, applied the art of government to other races for the benefit of Anglo-Saxons; American civilization will, by the influence of example, excite in other races a desire for self-

---

【49—註】 此の一篇は一千八百九十九年二月廿二日ワたるワシントン日の宴會に於てブライアン氏の『米國の使とを比較したる一節である。 1 but............all. の whom Saxon..................others はアングロ、サキソンの文明は個である。

た、けれども米國人は皆此等の人種の徳を兼備して居て、彼等よりも尙ほ偉大なる人種である、政治上及び宗教上の自由、一般の教育、直接若くは國會議員を經て政務に關係する權利を持て居るが、即ち此等のもは決して他國にて求むべからざる機會を米國人民に與へるものである。

要するに、アングロサのソンの文明は、個人的權利の保護を教へ來つたものである、然るに米國の文明は他人の權利の尊重を教へるものである。

アングロサキソンの文明は、個人的の利益を顧みることのみを教へたものである、然るに米國の文明は法律に依り、各人の平等を主唱し、至善と云ふことは基督の十戒中の一なる『汝を愛する如く汝の隣人をも愛せよ』を守るに在りと教へるべきものである。

アングロサキソンの文明は其人種の便益を圖るには兵力を用ゐ、其政略を他人種に及ぼして居る、然るに米國の文明は先例を示し、其力に依り、自治制に對する希望と、自治制を得るの決心とを、他人種に惹起さんことを奬勵する

シントン府のヴアージニア、デモクラット協會にて催ふし命』と題する演說中、アングロサキソン文明と米國の文明はAmericanを承く、them は上文の人種を承く。2 Anglo-人主義なるも、米國の文明は博愛主義なることを論じたの

government and a determination to secure it.

[3]Anglo-Saxon civilization has carried its flag to every clime and defended it with forts and garrisons; American civilization will imprint the flag upon the hearts of all who long for freedom.

To American civilization, all hail!

50 小兒の

My Friends: I know how vain is to gild a grief with words, and yet [1]I wish to take from every grave its fear. Here in this world, where [2]life and death are equal kings, all should be brave enough to meet what all the dead have met. The future has been filled with fear, stained and polluted by the heartless past. From the wondrous tree of life the buds and blossoms fall with ripened fruit, and in the common [3]bed of earth, patriarches and babes sleep side by side.

【49—註】 3 Anglo-Saxon .... garrisons はア
じたのである。

【50—註】 インガーソル氏は米國ニユー、ヨーク州ドレ
......fear あらゆる墓場より之に對する恐怖の念を取り去り
を備へて居て王の如きものである。 3 common bed 共同

ものである。

アングロサキソンの文明は到る處に共國旗を持ち行き、要塞を築き、守備兵を置いて之を守つて居る、然るに米國の文明は自由を熱望する人士の心裡に共國旗を樹てるのである。

米國の文明は以上の如きものである、諸君之に對し祝意を表せよ。

墓場にて。

ローバート、ヂー、インガーソル、

諸君、言葉にて悲哀の情を飾り、之を隱さんとすることは、到底不可能であるに拘らず、余は如何なる墓場に對しても、恐怖の念を抱きたくないのである、現世にありては、生死共に人間に對して、非常なる力を備へて居る帝王の如きものであるが、各人は皆な一度は死者と同一の運命に遇ふことを免ない覺悟がなければならぬ、人間は未來を恐れることがある、これは過去の爲めに苦められた結果、將來も亦た斯くあらんかと氣遣ふ念より起るものである、命と云ふ不思議な樹からは、蕾も花も散り、同じ土の中には、親も子も枕を並べて眠つて居るではないか。

ングロサキソン文明は武斷的にして侵略主義なることを論

スデンの人、法律家、政治家、講演家であつた。 1 I...... たいのである。 2 life............... kings 生死共に非常な力の寢所、即ち何人も皆死んで眠る處。

Why should we fear that which will come to all [4]that is? We cannot tell, we do not know, which is the greater blessing—life or death. We cannot say that death is not a good. We do not know whether the grave is the end of this life, or the door of another, or whether's the night here is not somewhere else a dawn. Neither can we tell which is the most fortunate—the child dying in its mothers arms before its lips have learned to form a word, or [6]he who journeys all the length of life's uneven road, painfully taking the last slow steps with staff and crutch.

51 卒業生諸

Gentlemen:

This is the most interesting period of your lives. The hour of graduation is always full of precious memories and [1]bright anticipations. The final review of the work done and its results, the last lingering words of admoni-

---

【50—註】 4 all that is 生存して居る總てのもの。5 ...crutch は老年を形容したのである。

【51—註】 此の一篇は有名なる米國の演說家デピュー學校に於てコロムビア大學法科卒業生に向つてした演說の豫想、即ち望を抱ことを云ふのである。

何故我等は生者に死の免れざることを恐るゝのであるか、生死孰れが大なる幸福なるべきか、我等は之を知らず、又た我等が墓場に入ることは生涯の終局なるか、或は又次の生涯に赴く戸口なるか、將た又た現世にては夜なるも、次の世界は曉にあらざるか否やを知らない、又た未だ言語を出すこと能はざるに先ち、母に抱かれて死する小兒と、憐れにも老衰して浮世の、荒浪を渡り盡したものと、何れが幸福なるか、我等は之を知らないのである。

君に告ぐ。

チオンシー、エム、デピユー、

諸君、

今は諸君の生涯中最も興味ある時期である、抑も卒業の時は則ち貴重なる紀念と光明ある豫期を有する時期である、即ち最終の試驗も濟み、成績も分り、教師より訓戒及び忠告を受けることも最早や之れが最終にして、教師や全

---

another は次に life を置いて讀むべし。 6 he…………

氏が一千八百八十二年五月十七日ニユー、ヨーク市の音樂一節である。 1 bright anticipations 將來に對する立派な

tion and advice, the separation from teachers and classmates, the sundering of ties never to be reunited, except in memory, the [2]God-speed, the good-by, and you are alone amidst the contending forces, necessities and ambitions of real life. Are you ready?

The world is a generous adversary. Sooner or later it yields its prizes of independence and honor to those who merit them. The profession welcomes you with open arms. It places neither jealousies nor obstacles in the way, but with its cordial greeting gives encouragement and assistance. Trades-unions limit the number of their apprentices, and resist by every process the acquiring of their crafts; but the temple of the law has its doors always open for those who would study and practice its principles and teachings. You will never think you know so much as you do to-night, and your future will be dependent upon how far you appreciate the fact that you have only found the road and how to travel it.

【51—註】. 2 God-speed は成功を祈ると云ふことであと云ふことである。

級生とも別れ、記憶と云ふことにて互に相識る外は、再び結び付け得べからざる關係も破れ、告別の辭も濟み、諸君は單獨にて實際社會の競爭、必要、功名心中に現はれ來るべき時である、然るに諸君には此成算があるや否や。

此世の中は寛大なる精神に富んで居る繳の如きものであつて、早晩獨立及び名譽に對する賞品を受くるに相當すべきものには之を與ふるのである、職業は其兩手を開いて諸君を歡迎して居るのであつて、決して諸君の行路を妬み、之を妨げんとするものでなく、寧ろ熱心に諸君の門出を祝し、諸君を獎勵し、諸君に助力を與へんとするのである、思ふに諸種の組合なるものは奉公人の數を制限し、其所得に反對することに種々の方法を盡して居るものであるが、法律は然らず、法律の原理を究め、其理論を實行する者には、常に門戶を開放して居るのである、されども今夕此席にて諸君が考へて居る如く、諸君には充分の知識備はれりと思ふべからず、諸君の前途は今や諸君が世路なるものを知り、如何にして之を渡り得べきかを知つたに過ぎないと云ふ事實を、如何なる程度まで了知するや否やと云ふことに依りて定まるのである。

る、卽ち I wish that you may have good speed or success

52 英雄論

Heroism and history are related as cause and effect. [1]Blot out the heroic periods of the ages, and you pull down all the [2]Alps of history—eliminate the heroic element from human life, and biography would not be worth writing or reading.

All the most illustrious periods of national life—and all that most lifts individual lives toward the circle of the everlasting and the divine, is referable to the heroic element in man. All that is high and glorious in history and in life linked with those mighty events and crucial hours when the spirit of heroism was dominant in the souls of men. All the grand ages of history have been the heroic ages.

A heroic age may be defined, as one conspicuously and predominantly unselfish. It is one in which self-consciousness, individual and national, [3]is pushed out of sight. It is one in which the centripetal power of selfishness is broken by the world-embracing power of love and humanity.

【52—註】 1 blot out 消し取る。 2 高きことを形容しやらる。

と歷史。

ニユートン、ベートマン、

英雄論と歷史は原因結果の如く相關係して居るのである、若し時代と云ふことよりして、英雄時期なるものを取去るならば、歷史の最高點を引下げるやうになるだらう、即ち人生より英雄的要素を取去るならば、傳記なるものを讀み、又た書くの價値はなくなるだらう。

要するに、國民的生活の最も著しき時期、—即ち個人的生活をして永久の神の生活に赴かしむるものは、人間の英雄的要素に依る外はないのである、歷史と人生とに光彩を添えて居るものは、何れも英雄的精神が人間の心靈中に卓越した時に生ずる偉大なる事件や其必要なる時機と關係しないものはない、故に從來歷史上の全盛時代なるものは何れも英雄的時代であつたのである。

抑も英雄的時代とは、著しき無慾の時代と謂ふことが出來る、即ち個人的及び國民的自覺が現はれて居ない時代である、即ち我慾の集中力が愛と人道と世界的の力に依りて打破せられる時代である。

したのである。 3 is pushed out of sight 見えない處へ押

It is a period when a grand elevation of feeling, a strange exaltation of soul, and a corresponding dignity and nobility of thought and action, are seen in men. It is an era when men seem uplifted and borne on, by unseen but mighty impulses, and filled with courage and strength and joy, from hidden sources.

53 郷國に對す

Farewell, my beloved country! Farewell, land of the [1]Magyars! Farewell, thou land of sorrow! I shall never more behold the summit of thy mountain. I shall never again give the name of my country to that cherished soil where I drank from my mother's bosom the milks of justice and liberty. Pardon, oh! pardon him who is henceforth condemned to wander far from thee, because he combated for thy happiness. Pardon one who can only call free that spot of thy soil where he now kneels with a few of the faithful children of conquered Hungary! My last looks are fixed on my country, and see thee overwhelmed with anguish. I look into

【53—註】コッシュート氏はハンガリアの愛國の志士に當り、告別の演說である。 1 モーチオーズ人種、第九世 mo'dyorz と發音すべし。

又た英雄的時代は高潔の感情と、心靈の上進と、之に伴ふて生ず思想と行爲との高尙なることが人間に於て現はれたる時期である、尙ほ換言すれば、人間が無形の而かも偉大なる刺激によりて高められ、且つ我等の見得べからざる源よりして勇氣と、力と、喜悅とを充分に與へられたるやうに思はれる時代である。

る告別の辭。　　コッシュート

イザさらば、余の愛する國、イザさらば、モーヂオーズ人の國、イザさらば、悲哀の國、余は最早や山々の頂を見ることなかららう、余は又た余が幼時より正義と自由とを知らせられたる、余の愛する土地に我等の國名を與へないだらう、嗚呼、許せ、今や罪を得て、今後汝より遠く離れて流浪する身の余を許せ、余が奮鬪したのも汝の爲めであつたのであるが、余を許せ、余は今や敗れたるハンガリアの二三の忠實なる人民とゝもに、跪くべき狹き土地をのみ自由の鄕と云ふのである、余が最後に於て凝視する處は我鄕土であるが、其鄕土には悲哀を以て充ちて居ることが分る、又た余は將來如何と云ふことを考へるも、其將來は暗黑にし

して演說家であつた、此の一篇は氏が國外に放逐せらるに
紀の終の頃他よりハンガリアに侵入した人種である、

the future; but that future is [2]overshadowed. Thy plains are covered with blood.

My principles have not been [3]those of [4]Washington; nor yet my acts those of Tell. I desired a free nation, free as man cannot be made but by God. And thou art fallen; faded as the lily, but which in another season puts forth its flawer still more lovely than before.

Farewell, beloved companion! Farewell, comrades, countrymen! May the thought of God, and may the angels of liberty for ever be with you! I will proclaim you to the civilized world as heroes; and the cause of a heroic people will be cherished by the freest nation on earth, the freest of all free people!

Earewell, thou land dyed with the blood of the blave! Guard those red marks, they will one day bear testimony on thy behalf.

54　勞働

There is dignity in Toil—in Toil of the hand as well as [1]toil of the head—in toil to provide for the bodily wants of an individual life, as

【53—註】 2 影がかゝつて居て。 3 principles を承く。
【54—註】 ホール氏は有名なる說敎家で、英國組合敎會

て洞察することが出來ない、嗟呼、汝の平野は鮮血淋漓たる修羅場である。

余の主義とするところは如何、余にはワシントンの如き主義はなかつた、又た余の行動は如何、余にはテルの如き行動はなかつた、余は自由國民、即ち神の造り給ふ外、到底人間の力の能はざる自由國民の建設を見んことを希望した、然るに今や汝は倒れたが、其有様は恰も百合が凋れ、一陽來復の候に當り、再び以前に優る美麗なる花を開くのと同じやうであつた。

イザさらば、愛する友よ、イザさらば同僚、人民諸君、神の思想と自由を傳ふる神の御使が永久諸君とゝもに在るべきことを祈る、余は文明諸國に對しては諸君を勇者として鼓吹すべし、勇敢なる人民の味方は地球上最も自由國民、否な自由國民中の最も自由民に愛撫せらるべし。

イザさらば、勇士の鮮血を塗れる國よ、能く其鮮血の跡を護れ、其鮮血は他日汝に代りて之れが證據となるべし。

に就て　　ニユーマン、ホール、

勞働には貴き力がある、--即ち手の働にも、頭の働にも—即ち個人生活の身體に關する必要に應ずる爲めの働にも、又た廣き世界的名譽の事業を起すべき働にも貴き力はある

4 Washington は無論 George Washington を指す。

の牧師である。 1 toil of the head 腦の働。

well as in toil to promote some enterprise of world-wide fame. All labour that tends to supply man's wants, to increase man's happiness, to elevate man's nature—in a word, all labour that is honest, is honourable too.

What a [2]concurrent testimony is given by the entire universe to the dignity of toil. Things inanimate and things irrational combine with men and angels to proclaim the law of Him who made them all. The restless atmosphere, the rolling rivers, and the heaving ocean; countless agencies in the heavens above and in the earth beneath, and in the waters under the earth; the unwearied sun coming forth from his chamber, and rejoicing as a strong man to run a race: the changeful moom, whose never slumbering influence the never-resting tides obey; the planets, never pausing in the mighty sweep of their majestic march; the sparkling stars; the birds pouring forth the melody of their song; the beast of the forest rejoicing in the gladness of activity: all, all, bear testimony to the dignity of labour!

【54—註】 2 concurrent testimony 證據の一致して居る

のである、要するに人間の缺乏を充すに至る勞働、人間の幸福を增進するに至る勞働、人間の天性を高むるに至る勞働、――即ち一言にして盡せば、正直なる勞働は皆な名譽ある勞働である。

勞働に尊き力のあることに就ては、此宇宙全體に於て種々綜合したる證據を求めることが出來る、即ち無生物や理性を有せざる物も、人間の力や天使の力と一致せば、之を創造し給へる神の法律の何たるやを示すことが出來る、ソコデ絕間なく動いて居る空氣、流れ行く河、浪打つ大洋、天の上や地の上や、叉た地の中の水にある無數の働く力、日々孜々として倦むことなく、恰度健全の男子が競走する如くに走り續けて居る太陽、絕へず休まない潮をして其眠むらない力に服從せしむる月、威勢よく進行して止まらない恒星、常に輝く星、妙音を出して囀る鳥、元氣よく森林中を奔る獸類も、其他總てのものも、皆な勞働の尊むべきことに就て其證據を備へて居ないものはない。

こと。

55 我建國

On the whole, America has followed her ancestral ideal of republican government with marvelous fidelity, and still more marvelous success. Without [1]militarism she has made her power felt around the globe. Without colonies she has outstripped all colonial empires in the growth of her export trade. Without conquering vassals or annexing tributaries she has expanded her population from three million to seventy-five million, and welcomed a [2]score of races into her [3]capacious bosom, not to subjugate them, but to transform them into Americans. Glory to the ideal of a new nation, "conceived in liberty, and dedicated to the proposition that all men are created equal!" Glory has come to it for a hundred years. Glory still waits for it.

Turn back to those noble words of the Farewell Address in which the [4]Father of Our Country said: "It will be worthy of a free, enlightened, and, at no distant period, a great nation to give to mankind the magnanimous and too novel example of a people

---

【55—註】ヘンリイ、ヴアン、ダイク氏は米國の宗教家、同意味である。3 容量の大きな。4 Father of Our

祖先の理想。

—— ヘンリイ、ヴアン、ダイク

全體米國は最も忠實に祖先の共和政治の理想に從ひ、非常なる成功を遂げたのである、武斷政治を行はずして其權力を廣く世界に知らしめ、又た少しも殖民地を持たずして、其輸出貿易を發達せしむる上に於ては、遠く他の殖民地を持てゐる帝國を凌駕して居るのである、又た奴隸を征服したり、或は屬國を併合する如きことをなさずして、其人口を三百萬より七千五百萬に增加せしめ、且つ二十種の異人種を能く歡迎して其胸襟の内に入らしめしが、之を爲すにも、決して壓服する如きことをなさず、全く彼等を米國化せしめたのである、嗚呼名譽なるかな、自由と云ふことを考とし、各人皆な平等に生れて居るのでありと云ふ事に基ひて、建設したる新國民の理想、斯る名譽は已に一百年間米國の得たるところであつて、尙ほ將來米國を迎へて居るのである。

我建國の祖先が、其告別演說中に云つた語を顧みよ、『米國は自由の、聰明の大國民、而かも近き將來に於て、常に正義と仁惠に依りて指導せられたる人民としての雅量に富める嶄新の好模範を人類に示すべき大國民たるに足るべき

敎育家、著述家である。 1 武斷政治。 2 二十、twentyと country ヂオーヂ、ワシントンを指す。

always guided by an exalted justice and benevolence." This is our ancestral ideal of national glory and grandeur. Not military conquest, but worldwide influence. Not colonies in both hemispheres, but friends, admirers, and imitators around the globe. Democracy can never be extended by force, as you would fling a net over a bird.

These, gentlemen, are the ancestral ideals that have been the strength and prosperity of Americans during the nineteenth century. Will they endure through the twentieth century? Pray God they may.

56 早稻田大

[1]Fellow-students: It gives me very great pleasure to meet you, to look into your faces, and to learn from you the cordial sentiments which you entertain towards the [2]land of my birth. I have looked forward for a many years to this visit to Japan. The days that I have had to wait have [3]dragged, and I am

【56—註】此の一篇は嘗てブライアン氏が大隈伯の招
節である。 1 fellow-students は自分と同時に學校に居る生
來た、即ち日本に渡來せんと思ふて居た時機は漸くにして

價値あり』と、斯くの如きは國民的名譽と莊嚴とに關する我祖先の理想である、即ち武斷的征服にあらずして、廣く世界的感化力である、單に兩半球の殖民地に限らず、廣く世界各國の之を友とし、之を稱揚し、之を摸倣するものである、要するに民主政治は、諸君が鳥に網を廣げる如く、決して武力を以て擴張し得べきものでない。

諸君、以上は我祖先の理想にして十、九世紀中米國が之に依り力を得、且つ其隆盛に赴いたのである、此理想は二十世紀中も持續すべきや、諸君、其持續を祈れ。

學生に告ぐ。

ブライアン

同學生諸君、玆に諸君に面會し、諸君が余の本國に對して抱ける厚情を諸君より知ることは余の愉快とするところである、今回の渡來は余の多年間の宿望であつたが、余が一日千秋の感を以て待ち設けし時期漸く來り、從來の豫想に過ぎざりし喜悅をば、今や實現するやうになつた、余は

待を受け、早稻田大學に於て同學生の爲めにした演說の一徒を云ふ。2 land of my birth 米國を指す。3 徐々として來たと云ふ意である。

now here to realise the delights which I have heretofore [4]enjoyed only in anticipation. [5]I addressed you as fellow-students, for I also am a student. (Hear hear.) I began studying when I was young—younger than any of you here. [6]I have studied ever since, and I hope that [7]I will not graduate from study until my life closes. (Hear ! hear !) All life is a long school to those who improve it as they [8]ought. None of us are too old to learn. None of us know all that can be known. The [9]receptive mind is characteristic of the student, and I would rather talk to students than to any other class of people. I talk to them in my own country, and I am glad to talk to them in every country which I [10]have the good fortune to visit. The student is passing through the springtime of life. In the Spring we sow the seeds - it is the time of year when the sowing gives the greatest [11]promise of a crop.

Then I like to speak to students because the student exercises more than an average influence upon the life of his country. The

【56—註】 4 only in anticipation 豫想にのみ過ぎな
also am a student. 余も亦た一學生であるから今ま諸君に
生の自分なりと思ふて居るからである。 6 I...... ...since 今
業しない。 8 ....しなければならぬ、即ち ought の次に
を受け入れる心。 10 I have.........to visit 余が行くべき好

諸君に對し、同學生なる語を使用したるが、余も亦た一學生なるが故である、(ヒヤー、ヒヤー)、余は少年の頃學問を始め、即ち諸君より倘ほ年少の時に之を始めたのであつた、而して余は其後倘ほ學問を繼續し、余が一生涯を終るに至るまで、其業を卒へざらんことを希望するのである、(ヒヤー、ヒヤー)、要するに人生は自己の生涯を進步發達せしめんとする者に對しては、即ち長期の學校である、故に何人も學問するに年を取り過ぎたと云ふことは出來ない、又た何人も悉く知識を得たりと云ふことも出來ない、他より知識を受け入れる精神は、學生の最も著しき特性にして、余は學生以外の人々に演説するよりも、寧ろ學生に對して之を試むることを好むのである、余は本國に在りても學生の爲めに演説するのみならず、余が到る處にて之を學生に試むることを好むのである、抑も學生は人生の春期を經過しつゝあるものにして、此季節は種を蒔く時である、即ち種蒔が收穫に對て大希望を與ふる好時期である。

然らば何故余が學生に向つて演説することを好むかと云ふに、學生は其國の生命に對し尋常以上の勢力を占めて居るからである、學生は自己の發達を圖れば、圖る程、其勢

かつた。 5 I addressed you as fellow-students, for I 同學生と云つたのである、即ちブライアン氏は今ま倘ほ學倘ほ學問を續けて居る。 7 I will.........closes 死ぬまで卒 improve を附けて讀むべし。 9 receptive mind 知識機會を有する。 11 望。

more the student develops himself the stronger he becomes. I like to talk to students, and I like especially to talk to those students who have had as their inspiration and as their example the distinguished statesman of Japan, Count Okuma, whose guest I am today.

57 日英協

I notice with [1]great satisfaction that we are told that these negotiations are likely to result in a satisfactory [2]arrangement. I say this because there have certainly been circumstances which led us to believe that the adjustment of such an arrangement might not prove to be a very easy matter. I [3]daresay your lordships may recollect that about a year ago Count Komura delivered a speech in which he explained that the new [4]statutory tariff was to be of [5]universal application, and he added that, although there would be [6]Conventional tariffs with certain powers, those Conventional tariffs would only be admitted where the Power in question was able to give reciprocal advantages. He was re-

---

【57—註】此の一篇は明治四十四年二月六日英國議會の
た演説である。1 with great satisfaction 非常に滿足して、
廣く適用すべきもの。6 Conventional Tariffs 協定稅則。

力は强大に赴くのである、余は本日玆に來賓として余が招待を忝ふしたる、日本の大政治家たる大隈伯の感化に依り、且つ大隈伯を師事する學生の爲めに之を試みることは、特に余の好むところである。

商に就て。　　ランズダウン

該協商が多分好結果を呈する解決を見るに至るべきことを知るのは、余の大に滿足するところである、何んとなれば斯る解決は決して容易の業にあらざることを信ぜしむる事情があつたからである、余は敢て云ふ、諸君が今を距ること約一年前、小村伯が一場の演說を試みたることを、卽ち同伯は其演說にて新國定稅則は一般に適用すべき性質のものなることを說明し、更に進んで或國との間には協定稅則の成立するものありと雖ども、斯る協定稅則は日本が之に依りて交換的の利益を得る處にのみ施すべきものなりと言ひしことを諸君は記臆するなるべし、又た小村伯は我大英國は所謂自由貿易制を採れる、故何等協定の稅則を施すべ

開院式の當日ランズダウン卿が皇帝陛下の演說に對してし
2 解決。3 多分。4 國定稅則。5 of universal application

ported to have said that, as Great Britain was pursuing what is called the Free-trade policy, there would be no room for a Convention with that country. It is possible that [7]that passage in Count Komura's speech may have been imperfectly reported; but it certainly created very considerable alarm in this country because the immediate resnlt was a deputation of gentlemen interested in the trade of Japan to the [8]Secretary of State for Foreign Affairs, who begged him to do what he could to prevent their interests from suffering. They were apparently not quite so convinced as some members of his Majesty's Government that duties of this kind are always paid by the [9]consumer. I dare say some of your lordships may have seen the new Japanese tariff. The increases are enormously high—in some cases as much as 500 per cent. In cotton yarns the increases range from 40 per cent. to 250 per cent.; and there is a substantial increase in most of the leading branches of British trade. We shall, therefore, be greatly comforted if the noble earl (the Earl of Crave) is able to tell us confidently that the new arrangement is likely to be satisfactory to this country.

---

7 that passage in Count Komura's speech 小村伯の演說中 8 Secretary...... affairs 外務大臣(英國の)。 9 消費者。

きものなしとの言を漏したりと傳へらる、元より小村伯の演説中の用句用語の不充分に傳へられたることは或は免れざる處なれども、此事が我英國にて甚しき恐慌を生じたることは確なる事實である、何んとなれば直ちに生ずる結果として、日本との貿易に關係する者は委員を撰んで外務大臣に面會せしめ、且つ此税則より受くる損害を防がんことを請願するごときに至りたればなり、此種の貿易業者は、我英國政府の閣員諸士が了知せらるゝ如く、此種の關税は、消費者の負擔に歸すべきものなることを了知せざることは明白である、諸士の中には今回の日本新税則を見たる人あるべしと思ふ、元より税率の增加は非常なるものにして、或場合の如きは五倍の增加を示して居るのである、例へば綿絲税の如きは四割乃至二十五割又た毛絲類は三割乃至十二割の增加を示して居る、即ち英國の主要の貿易には大抵其增加を生じて居るのである、故に若し伯(クルュー伯)が今回の協商は英國に取りて滿足を與ふべきものなることを言明し得らるゝならば、余は之に依りて頗る愉快の念を與へらるゝのである。

の其文句、卽ち協定の餘地なし云々を指したのである。

58 ランズダウ

The phrase in the Speech that the relations of the [1]Crown with foreign powers continue to be friendly is [1]one almost of common form. But I hope it may be taken on this occasion as meaning a little more than common form, as meaning that where any difficulties have existed there is a cordial desire to diminish and even if possible to sweep [2]them away. The noble [3]marquis has alluded to the Japanese Treaty. I am afraid I am not in a position [4]to go into any detail on that subject, owing to the fact that the negotiations are not concluded. But I am certain that although the matter, as the noble marquis pointed out must be a difficult one, our Japanese friends have entered into negotiations [5]with every desire to meet us and the necessities of our trade, so far as it is possible for them to do so.

【58—註】 one..................form 殆んど普通の形式の如く
は皇帝を意味して居るのである。 2 them は difficulties を
しく言ふ。 5 with every desire 充分の希望を抱いて。

ン卿に答ふ。　　　クリユー、

列國と皇帝陛下との關係を親密ならしむべきことを以て、目的とする陛下の演說中の文言は、殆んど普通の形式に過ぎないのであるが、余は今回の如き場合にありては、之を普通の形式以上のものとして解釋せんことを希望するのである、何んとなれば外交上難問題の生じたる場合には、其問題を省き、出來得る限り之を除去せんことを努むる如き、十分の希望の存することあるが故である、侯爵（ランズダウンを云ふ）は日本との條約のことに說き及ばれしが、余は日本との協商が未だ締結さるゝに至らざるが故に、此問題に就て、深く立入るの不可能なることは、余の遺憾とする處である、併し余は確信す、則ち侯爵の云はるゝ如く、本件は難問題たることを免れずと雖も、而かも日本人は彼等の出來得る限り、英國の貿易の要求に應ぜんとの希望を抱いて、其協商を開始したることを。

なつて居る。 1 Crown は王冠と云ふことであるが、茲て指す。 3 ランズダウン卿を指す。 4 to............detail 詳

59 如何にして平

We look to the [1]end, and we think how is peace to be obtained—not a rash peace, not a peace which will lose any thing which has been legitimately gained by all the sacrifices and efforts of our country, but a reasonable, secure, and permanent peace. It is my conviction that I express the mind of the [2]vast majority of the Liberal Party when I say that this settlement for peace must be assent and not by force (prolonged cheers), by negotiation and not by subjugation (renewed cheers), a peace which may be the [3]basis of future friendship instead of [4]undying hate. When I used the words I did, "it must," do not let me be misunderstood. I am not [5]referring to any necessity arising out of the conditions of the war. I do not doubt for a moment our power, through the fortitude of our soldiers and the skill of our Generals, to complete the subjugation of the Boer States (cheers and interruption). I do not doubt for a moment that this subjugation could be

---

【59—註】 此の一篇は一千九百二年一月十三日、英國の
ける、倫敦自由黨聯合會の席上、南阿戰爭に關する演說の
3 將來の友情の基礎。 4 盡きない憎惡、即ち何時まで憎

和を得べきか。

ヘンリイ、キアメル、バンナーマン、

我等は終局を洞察し、如何にして平和を得べきかを考へるのである、其平和は輕卒に得べき平和にあらず、即ち我國の一切の犧牲と努力とに依りて、正當に得らるべきものを失ふに至る如き平和にあらず、之に反して正當なる、確實なる、永久的平和である、余は平和の解決は必ず双方の一致する所にして決して强制的のものにあらず、即ち協商に依るべきものにして壓服すべきものにあらず、卽ち永久の憎惡にあらずして將來の友誼に基ける平和ならざるべからずと云ふ意見を漏すが、其意見は自由黨大多數の意見なることは余の固く信じて疑はないところである、余は『必ず………せざるべからず』と云ふ文句を並べたが、諸君、決して余を誤解する勿れ、余の所謂是非と云ふことは、戰爭の狀態より生ずる必要に就て云ふにあらず、我兵士の勇氣と、我將軍等の戰術に巧みなることよりして、我等はボーアの壓服を全ふすべき力を備へて居ることは、余の少しも疑を存せざる所である、又た斯る壓服の全ふし得べきことに就ては、毫も疑を容れないのである、されど余は目前の急需よ

自由黨の名士バンナーマン氏が倫敦聖ジェームス會館に於
一節である。1 終局(戰爭の)。 2 vast majority 大多數。
惡の念を抱くこと。5 就て言ふ。

completed; but I am thinking of the future necessities rather than of present exigencies. What is the desire of all of us for the future of South Africa? Surely it is that there should be peace and freedom from the danger of internal hostilities throughout that vast future dominion of the Crown. I am all [6]in favour of equal rights; but we want something more than that. We want amity and close brotherhood between the races (cheers), and this golden age can only be reached if the settlement is one between brave and friendly and mutually respecting [7]foes, and not a mere sullen and sulky submission of the conquered to the conquerors (cheers). What is the policy of the Government? It is widely different. Their policy is to go plodding stolidly along the road which leads to subjugation and the achievement of surrender without conditions (cries of "Shame").

60 グラント

Almost twelve years have passed since the

【59—註】 6 in favour of 味方をする。 7 敵同士。
【60—註】 此の一篇は一千八百九十七年四月廿七日、ニ
マッキンレー氏のした演說の一節である、グラント氏は南
あつた。

りも、将來の必要を思ふて居るのである、然らば南阿の將來に就て我等は如何なる希望を抱いて居るのであるか、此希望は彼の廣大なる將來の英領をして、到る處に平和と自由とを行はれしめ、且つ內亂を生ずる危險を免れしむることに外ならないのである、余は平等の權利に贊成するものなりと雖も、余には尙ほ此以上に求むる處がある、卽ち人種間に友情と同胞主義の行はれんことを希望するのであるが、斯る黃金時代に達するのは、只だ平和の解決が勇敢にして友情に富み、相互を尊敬する敵と敵との間に行はれる時にのみ限るのであつて、戰勝者に對し、戰敗者が單に不平ながら屈服すると云ふ場合には、決して之を見ることが出來ないのである、然らば現政府の政策如何、其政策と余の意見との間には非常なる逕庭あり、卽ち現政府の政策は、をして敵無條件にて降服するに至らしむるところの道程を、徐々に旅行するのも同樣である。

將軍を憶ふ。

ウヰリアム、マツキンレー、

嗟呼アリシーズ、エス、グラント氏の英雄的注意が止み、

ユー、ヨーク市に於てグラント將軍記念碑起工式に臨み、北戰爭時代の將軍、マツキンレー氏は米國大統領の一人で

heroic vigil ended and the brave [1]spirit of Ulysses S. Grant fearlessly took its flight. [2]Lincoln and Stanton had preceded him, but of the mighty captains of the war Grant was the first to be called. [3]Sherman and [4]Sheridan survived him, but have since joined [5]him on the other shore.

The great heroes of the civil strife on land and sea are for the most part now no more. [6]Thomas and Hancock, Logan and McPherson, Farragut, Dupont, and Porter, and a host of others, have passed forever from human sight. Those remaining grow dearer to us, and from them and the memory of those who have departed generations yet unborn will draw their inspiration and gather strength for patriotic purpose.

A great life never dies. Great deeds are imperishable; great names immortal. General Grant's services and character will continue undiminished in influence and advance in the estimation of mankind so long as liberty remains the corner stone of free government.

Faithful and fearless as a volunteer soldier, intrepid and invincible as [7]Commander-in-

---

【60－註】 1 spirit.........took its flight 死んだ。 2 リ
タントンは米國の政治家でリンカンが大統領時代に陸軍卿
ラットを指す。 6 ....等も皆な死んで見ゑなくな

其勇敢なる精神が少しも恐るゝ色なく、此世より飛び去つてから殆んど十二年の星霜を經過した、彼のリンカンやスタントンは已に氏に先立つたが、內亂の大將株の內で、氏は第一に彼世へ呼ばれたのであつた、又たシアーマンやシエリダンは、グラントの死んだ時に生存して居たが、其後亡き人の內に數へられ、彼の世にて一所に集つて居る。

內亂當時の陸海軍の英雄連の多數は、今や死んでしまい、トマスや、ハンコツクや、ローガンや、マクファーソンや、ファラガツトや、デユポンやポーターや、其他の諸將は、最早や永久我等より見ることが出來なかつた故、今ま生存して居る人々は我等には益々慕はしくなり、未だ生れない將來の人士は、今ま生存して居る人々、及び是れ迄に死んだ人々を追懷して、愛國の目的の爲め其感化を受け、且つ偉大なる力を受けるだらう。

抑も偉大なる生命は決して死ないものである、偉大なる事蹟は不朽のものである、偉大なる名は不死のものである、グラント將軍の功勞と品性は、少しも其感化力を減ずることなく、永久に續き、自由と云ふことが自由主義の政治の角石となつて居る限りは、人類と云ふことを考へて益々前進するであらう。

グラントは一志願兵として、忠實に且つ勇敢に、聯合軍の

ンカンやスタンドンはグランドに先ちて彼世に赴いた、ス
たりし人。 3 米國の將軍。 4 全じく米國の將軍。 5 グ
つた、此人々は皆な米國の大將である。 7 司令官。

Chief of the Armies of the Union, calm and confident as President, he has our homage and that of the world; but brilliant as was his public character, we love him all the more for his home life and homely virtues. His [8]individuality, his bearing and speech, his simple ways, had a flavor of rare and unique distinction, and his Americanism was so true and uncompromising that his name will stand for all time as the embodiment of liberty, loyalty, and national unity.

Victorius in the work which under Divine Providence he was called upon to do; clothed with almost limitless power; he was yet one of the people—patient, patriotic, and just. Success did not disturb the even balance of his mind, while fame was powerless to swerve him from the path of duty. Great as he was in war, he loved peace, and told the world that honorable arbitration of differences was the best hope of civilization.

【60—註】. 8 個人性、卽ち public character に反對し

司令官としては不屈不撓、大統領としては沈着であり、且つ信任せられ、我等の尊敬は勿論、否な世界の尊敬するところとなつた、グラントの公に關する品性は實に立派なものであつたが、而かも我等は其家庭的生活、其家庭に於ける德に對し、尙ほ多く氏を愛するのである、例へば氏の一個人としての性格、氏の動作と言語、氏の簡易の行は何れも稀に見るところの名譽の馥郁たる香氣を放ち、又た其亞米利加主義は眞實のものであつて、決して人に讓らない性質のものであつたが、斯る性質を帶びて居たからグラントと云ふ名前は終始一貫、自由、愛國、國民的團結を構成するものとして現はれる程であつた。

グラント氏は殆んど無限の力を與へられ、神の命じたる事業にあつては常に勝利を得たが、而かも忍堪にして愛國心に富み、且つ公正なる人の内に數へらるべき人物であつた、氏は斯くの如く成功したる人物であつたが、其成功は氏の心の平衡を失はしめる如きことなく、又た氏は多大の名譽を得たが、而かも其名譽は氏をして其本分を忘れしめなかつた、氏は戰爭では偉功を奏したが、夫れと全じく平和は氏の好むところであつて、不和を仲裁することは文明の最良の望なることを世界に知らしめたのである。

たる意味の語。

61 進歩

Expositions are the [1]timekeepers of progress. [2]They record the world's advancement. They stimulate the energy, enterprise and intellect of the people, and quicken human genius. They go into the home. They broaden and brighten the daily life of the people. They open mighty [3]storehouse of information to the student. Every exposition, great or small, has helped to some onward step.

Comparisons of ideas are always educational and, [4]as such, instruct the brain and hand of man. Friendly rivalry follows, which is the spur to industrial improvement, the inspiration to useful invention and to high endeavor in all departments of human activity. It exacts a study of the wants, comforts, and even the whims of the people, and recognizes the efficacy of high quality and low prices to win their favor. The quest for trade is an incentive to men of business to devise, invent, improve and economize in the [6]cost of pro-

---

【61—註】 此の一篇は一千九百一年九月五日マッキン
ある。1 時を計るもの。2 they は expositions を指す。
のとしては。5 friendly rivalry 競爭であるけれども、敵意
とを云ふ。6 cost of production 生產費。

の時代。

ウヰリアム、マツキンレー、

博覽會は進步を計る時計であるから、之に依りて世界の進步如何を知ることが出來る、又た博覽會は一般人民の精力、企業心、智力及び天才に刺激を與へ、家庭にも入込み、日常生活を廣め且つ進步せしめ、學生に對し知識の藏を開放するものである、要するに大小を問はず、如何なる博覽會にも從來進步と云ふことに力を與へたのであつた、

抑も思想の比較は常に教育的の性質を有するものにして、人間の腦力及び手の働を助くるものであるが、此思想の比較と云ふことがあつてこそ、平和の競爭と云ふことが出來、人間活動の各部に工業の進步改良を刺激し、發明及び奮勵を促すのである、又た此事よりして、人間の欠乏は如何にして補ふべきか、人間に滿足を與へるのは如何なる方法に依るべきか、人間の嗜好は如何なるものなるべきかを研究せしめ、商人が顧客の意向に投ずるには其品質を善くし、値段を安くするに在りと云ふことをも認めしむるに至るのである、斯くの如く商賈に就ての研究は實業家をして

レー氏が米國バッファロー博覽會に於てした演說の一節で
3 倉庫、即ち知識の蓄へてある藏を云ふ。 4 教育的のも
を抱いた競爭にあらず、競爭しながらも友情を重んずるこ

duction. Business life, whether among ourselves, or with of other peoples, is ever a sharp struggle for success.

Geographic and political divisions will continue to exist, but distances to have been effaced. Swift ships and fast trains are becoming cosmopolitan. They invade fields which a few years ago were impenetrable. The world's products are exchanged as never before and with increasing transportation facilities come increasing knowledge and larger trade. Prices are fixed with mathematical precision by supply and demand. We travel greater distances in a shorter space of time and with more ease than was ever dreamed of by the fathers. [7]Isolation is no longer possible or desirable. The same important news is read, though in different languages, the same day in all [8]Christendom.

The telegraph keeps us advised of what is occurring everywhere and the press foreshadows, with more or less accuracy, the plans and purposes of the nations. [9]Market prices of products and of securities are hourly known in every commercial mart, and the [10]invest-

〔61—註〕 7 世間より離れること。 8 基督教の行はれ

新案、發明、生產費の節減等をなさしむる刺激物である、要するに實業的生活は、內地と外國とを問はず何れにせよ、成功に對する激烈なる競爭である。

世の中に地理的及び政治的區劃は今尙ほ存在して居るけれども、而かも其間の距離はなくなつたのである、即ち最大速力の汽船や汽車は益々世界的となり、數年前までは決して足跡を印したることもなき土地にまで、彼等の赴くことゝなり、世界の物產は從來未だ曾て見ざる有樣にて交換せられ、運輸の便利開けるとゝもに、一般の知識も大に增進し、貿易も益々隆盛に赴き、物價は數學上より割出して定まる如く、需要供給の法にて一定するに至るべく、又旅行するにも祖先等が豫想したるより以上の迅速と輕便にてすることが出來るやうになつて來た、故に世間より隔離すると云ふことは最早や出來べくもあらず、又た期すべからざることである、斯くの如く交通頻繁なる世の中となつたから、假令言語は異りても、同一の新聞記事の重要なるものは各基督教國にありて、同日に讀むことが出來るやうになつたのである。

又た電報は各地に起る出來事を報導し、新聞紙は各國民の計畫と目的を傳へ、物產及び株式の相場は時々刻々各市場に於て報導せらるゝことゝなり、又人々の投資の如きも、從來は其內國にのみ限られしも、今や最も遠隔の地にまで

て居る國。9 市價。10 投資。

ments of the people extend beyond their own national boundaries into the remotest part of the earth. Vast transactions are conducted and international exchanges are made by the tick of the cable.

At the beginning of the nineteenth century there was not a mile of steam railroad on the globe; now there are enough miles to make its circuit many times. Then there was not a line of electric telegraph. We have a vast mileage traversing all lands and seas. God and man have linked the nations together. No nation can longer be indifferent to any other. And as we are brought more and more in touch with each other, the less occasion is there for misunderstandings, and the stronger the disposition, when we have differences, to adjust them in the court of arbitration which is the noblest forum for the settlement of international disputes.

Gentlemen: Let us ever remember that our interest is in concord, not conflict; and that our real eminence rests in the victories of peace, not those of war. We hope that all who are represented here may be moved to higher and nobler effort for their own and the world's good, and that out of this city may come greater commerce and trade for us all.

及ぼさるゝことゝなり、其他多額の取引行はれ、外國爲替の如きは電報にて行はれて居る。

十九世紀の當初には、地球上僅々一哩の鐵道も敷設せられて居なかつたが、然るに今や幾周も地球を廻はるに足るべき哩數となつて居る、又た十九世紀の當初には一條の電信線もなかつたのであるが、今や陸上に、海底に到る處、非常なる長さとなつて居る、斯くの如く神の力と人間の力とにて各國民を益々近寄らしめたのであるから、如何なる國民も他の國民に對しては最早や無關係にして居ることは出來なくなつて來た、又た我等は益々接近することになるに隨つて、互の誤解は益々少くなり、相互間に行違の生ずる場合には國際裁判の最高府たる、仲裁裁判に依りて解決すると云ふ傾は益々强くなつて來た。

諸君、我等相互の利害は爭鬪にあらずして、一致に在ることを記臆せよ、即ち我等が實際進歩して高尙の位置に至ることは平和の勝利に依るものにして、戰爭の勝利にあらざることを記臆せよ、余は玆に代表せられたる諸君が諸君自身の利益と世界の便益の爲め、一番奮勵して尙ほ一層高尙なる努力を與へられんことを希望し、併せて當市よりして、益々多大の商業と貿易の起らんことを望むのである。

62 オーコン

The [1]eloquence of Daniel O'Connell has never been equalled in modern times, certainly not in English speech. Do you think I am [2]partial? I will [3]vouch [4]John Randolph of Roanoke, the Virginia slave-holder, who hated an Irishman almost as much as he hated a Yankee, himself an [5]orator of no mean level. Hearing O'Connell, he exclaimed, "This is the man, these are the lips, the most eloquent that speak English in my day." I think he was right. I remember the solemnity of Webster, the grace of Everett, the rhetoric of Choate; I know the eloquence that lay hid in the iron logic of Calhoun; I have melted beneath the magnetism of Sergeant S. Prentiss, of Missippi. It has been my fortune to sit at the feet of the great speakers of the English tongue on the other side of the ocean. But I think all of them together never surpassed, and no one of them ever equalled, O'Connell. Nature intended him for our [6]Demosthenes. Never

【62—註】 オーコンネルはアイルランドの名士で、雄辯
eloquence.........times ダニエル、オーコンネルの雄辯には
すること。4 米國デモクラット派の政治家。5 orator

ネルの雄辯。

ウエンデル、フヰリツプス

近代特に英語の演說にて、ダニエル、オーコンネルの雄辯に匹敵するものはない、諸君は余が偏見なりと思ふか、余は此事に就き、彼のヴアーヂニア州の奴隷所有者であつて、常に米國人を惡むが如く、アイルランド人を惡んで居る有數の演說家ロアノークのジオン、ランドルフが、オーコンネルを激賞する言を引證すべし、氏はオーコンネルの演說を聽いて曰く『これこそ現今英語で演說する辯士中の最も雄辯家にて、其口唇は又た最も雄辯の口唇なり』と余はランドルフ氏の言至當なりと思ふ、余はウエブスター の演說の莊厳と、エヴアレットの優美と、チオートの修辭に適したることゝを記臆して居る、又たカルホーンの金城鐵壁を以て固めた論理の裏に潜んで居る雄辯を知つて居る、又たミツシツピー州のサーヂエント、エス、プレンチスの强き引力を持つて居る雄辯の下に引寄せられたこともある、又た幸にして大洋を隔てた對岸で英語の大演說家を聽たこともある、されども余は思ふ彼等が皆集りてもオーコンネルに優ることなく、又た彼等の內誰一人としてオーコンネルに肩を並ぶるものはない、嗚呼、自然はオーコンネル

家である、フヰリツプス氏は米國の演說家である。 1 The
近世に於て肩を双ぶるものはない。 2 偏頗。 3 强く引證
:.......level 下級の辯士にはあらず。 6 希臘の大雄辯家。

since the [7]great Greek, has [8]she sent forth any one so lavishly [9]gifted for his work as a tribune of the people.

There was something majestic in his presence before he spoke; and he added to [10]it [11]what Webster had not, [12]what Clay might have lent,—infinite grace, that magnetism that melts all hearts into one. I saw him at over sixty-six years of age, every attitude was beauty, every gesture grace. You could only think of a grey-hound as you looked at him; it would have been delicious to have watched him, if he had not spoken a word.

Webster could awe a senate, Everett could charm a college, and Choate could cheate a jury; Clay could magnetize the million, and Corwin lead them captive. [13]O'Connell was Clay, Corwin, Choate, Everett, and Webster in one.

【62—註】 7 Demosthenese を指す。 8 she は nature 山に與へられて居る。 10 it は something majestic を 12 クレーの長處。 13 オーコンネルは凡て此等の人々の

を以て近世のデモスデニーズとして居る、而して此希臘の大辯士デモスデニーズあつて以來、自然は未だ曾てオーコンネルほど人民の代表者としての天才を與へられたるものを生れしめなかつた。

オーコンネルの將に語らんとするや、其容姿には一種侵すべからざる威嚴を備へて居て、其威嚴にはウエブスターの持つて居なかつたもの、即ちクレーが多く持て居たものを附加へて居た、即ち多くの心を一に溶解する引力を持て居る無限の優美を備へて居たのである、余はオーコンネルが六十六歳を超ゑたときにした演說を聽いたとがあつたが、其態度は一として美ならざるはなく、且つ其身振は一として優美ならざるはなかつた、諸君がオーコンネルを一見したならば、彼の犬族中優姿他に秀でたるグレー、ハウンドを思ひ起すとならん、又たオーコンネルが假令一言を發せざるにせよ、彼を凝視するならば優美の感を起すであらう。

ウエブスターは能く米國の上院をして畏敬せしめた、エヴアレットは能く大學にての聽衆をして其魔力に感ぜしめた、チオートは能く英國の陪審官を瞞着することが出來た、クレーは能く百萬の聽衆を已に引寄せることが出來た、コルウヰンは能く多くの聽衆を擒にすることが出來た、而かもオーコンネルは一人にて、クレーであり、コルウヰンであり、チオートであり、エヴブレットであり、又たウエブスターであつたのである。

を承く、nature は常に女性である。 9 lavishly gifted 澤承く。 11 what Webster had not ウエブスターの短處。力を兼備して居る。

63 アイルランドの

[1]Fellow-citizens:—It is no ordinary cause which has brought together this vast assemblage on the present occasion. We have met not to prepare ourselves for [2]political contests nor to celebrate the achievements of those gallant men who have planted our victorious standard in the heart of the enemy's country. We have assembled, not to respond to shouts of triumph from the West, but to answer to the cry of suffering which comes from the East. The Old World stretches out her arms to the New. [3]The starving parent supplicates the young and vigorous child for bread. There lies upon the other side of the wide Atlantic a [4]beautiful island, famous in story and song. Its area is not so great as that of the State of Louisiana, whilst its population is almost half that of the Union. It has been prolific in statesmen, warriors, and poets. Into this fair region God has been fit to send the most terri-

---

【63—註】此の一篇はプレンチス氏が一千八百四十七
は米國の雄辯家である。 1 Fellow-citizens は市民若くは國
爭、即ち選擧競爭の如きを云ふ。 3 the starving........
うな新進の米國に食を求めて居ることを形容したのであ

飢饉に就て訴ふる辭。

サーヂエント、スミス、プレンチス

諸君、今回茲に此大會を開きたることは尋常の次第てない、我等の會合したのは政治上の競爭に備える爲でもなく、又た敵國の眞中に我戰勝旗を樹てた勇士の事蹟を祝する譯でもない、卽ち我等の會合したのは西部地方より齎らし來るところの凱歌に答へる爲めにあらずして、東部地方より來るところの慘狀の叫に答へる爲めである、舊世界は新世界にまで其兩腕を伸ばして來た、飢に迫る親は、若くして元氣な其子に食物を乞ひ求めて居る、廣漠たる太西洋の彼方には物語中の材料となり、詩歌に歌はれて、名高くなつて居る島國がある、其面積は我ルイジアナ州にも足らないのに、其人口は殆んど合衆國の半分位に及んで居る、此國には多くの政治家や、勇士や、詩人を出した、然るに神は斯る美はしき國へ其使の最も多くの禍を生ずるものを遣はすことを至當と思ふたのであるから地は段々其產物を減少

年ニユー、オーレアンスに於てした演說の一節である、同氏
民諸君と云ふことである。 2 politic.ıl contests 政治上の
bre.ıd 此文は親とも云ふべき故國のアイルランドが子のや
る。 4 アイルランドを指す。 5 廢用語になる。

ble of all his fearful ministers. The earth has failed to yield her increase; the common mother has forgotten her offspring, and her breast no longer affords their accustomed nourishment. Famine, gaunt and ghastly famine, has seized a nation with its strong grasp, and, unhappy, Ireland in the sad woes of the present forgets for a moment the glowing history of the past. We have assembled, fellow-citizens, to express our sincere sympathies for the suffering of our brethern and to unite in efforts for their alleviation. In the name, then, of common humanity I invoke your aid in behalf of starving Ireland. He who is able and will not give to such a sacred purpose, is not a man, and has no right to wear the form. He should be sent back to nature's mint, and reissued as a counterfeit on humanity's baser metal.

Oh, it is terrible that in this beautiful world which the good God has given us, and in which there is plenty for us all, men should die of starvation! In these days when improvements in agriculture and the mechanical arts have quadrupled the productiveness of labor, when it is manifest the earth produces every year more than sufficient to clothe and feed all her thronging millions, it is a disgrace that the word *starvation* has not long since become obsolete.

し、人間に對して共同の母たることを忘却し、最早や人間常用の滋養物を人間に與へないやうになつた、嗚呼恐るべき飢饉は今や憐むべきアイルランドに迫り來り、アイルランドは目前の困難の爲め過去の名譽ある歷史を忘るゝやうになつたのである、嗚呼諸君、我等は同胞の慘狀に對し、滿腔の同情を表はし、共同一致して共困難を救ふ爲めに本日茲に集まつたのである、然らば余は廣き意味の人道の爲め、今や飢餓に瀕して居るアイルランドの爲め、諸君の救助を仰がんとす、嗚呼諸君斯る神聖なる目的の爲め救助し得べきにも拘らず、之を爲さゞる者は人間にあらず、即ち人間たるの資格を有て居ないのである、斯くの如き人物は恰度贋造貨幣の如く、今ま一度造幣局に赴き、更に改鑄せしむべきものである。

嗟呼、惠に富ませ給ふ神が我等に與へた此麗しき世界に在りて、我等人間の爲め食物の豐富なる此世界に在りて、人間が餓死しなければならぬとは何たる慘事ぞ、農業や器械の改良進歩が勞力の生產力を增加した今日にありて、又た土地の生產力は年々歲々人間の衣食を供給する以上に及んで居る今日にありて、『餓死』と云ふ用語の今尙ほ廢語に屬して居ないことは實に耻辱である。

64 横濱

I [1]crave your indulgence for the consideration of one more subject,—the future of Yokohama. There are some who would have us believe that the city is already in a state of decadence, and that its importance as a shipping and commercial centre is rapidly diminishing. Personally I do not [2]share these views; but, on the contrary, I am a firm believer in the future prosperity of the place. It must, of course, be admitted that certain lines of business can be conducted more satisfactory and successfully in Tokyo than in Yokohama, and some firms may find it expedient to remove there; but that there should be any general [3]exodus of foreign merchants from Yokohama appears to be a very remote possibility. New Customs Docks and Warehouses, the superior of which it would be difficult to find anywhere in the world, have recently been constructed at a very

---

【64—註】 此一篇はブレーク氏が明治四十四年四月
1 切望す。 2 こんな考を抱いて居ない、share は自分に
3 出ること。

の將來。

横濱在留外國人商業會議所長

デイ、エイチ、ブレーク

余は諸君が横濱の將來と云ふ問題に就て尙ほ一考せられんことを切に希望するのである、或人の如きは我々をして横濱が衰頽の狀態に在り、且つ全市が海運及び商業の中心としての必要は迅速なる勢を以て減少しつゝあることを信ぜしむるけれども、余は個人としての考より云ふならば、決して斯る說に一致しないのであつて、寧ろ之に反して、横濱が將來大に發展すべしと信じて疑はないものである、勿論或種の商業は、横濱よりも東京の方が尙ほ充分滿足すべきやうに經營せられ得べきこと、及び或商館の如きは東京に移轉するのを便利と思ふ如きことは、認めて置かなければならぬが、併し横濱より外國商人が一般に去るべしと云ふことは、尙ほ遠き將來のことに屬するやうである、彼の

四日横濱外國人商業會議所に於てした演說の一節である。
も持て居ると云ふ意、 these views は或人の意見を云ふ。

considerable cost, and there is now a scheme in process of development looking to their further extension and improvement. It is also intended to extend the breakwater, in order to enlarge the [4]space available for the anchorage of vessels, and to carry on a systematic dredging of the harbour to an average depth of thirty-five feet. Further, a more commodius and pretentious railway station is to be built, and it is to be hoped that a better train service to and from Tokyo will follow. In [5]addition to the above, we have the Japanese Economic Society composed of the most influential and public-spirited men in the city, and preseded over by an able and energetic Mayor. The object of this organization is to encourage legislation for the advancement of the interests of the city, and the work already accomplished gives promise of still greater things in the future.

Finally, the importance of Yokohama as a shipping centre cannot be over-estimated, a fact that will be still further emphasized by the opening of the Panama Canal only a few years hence. In conclusion, I wish to thank you for your patience in listening to my somewhat extended remarks.

---

 4 the space.........anchorage 碇泊に利用す

殆んど世界に比類なき新税關船渠や倉庫は、近頃莫大の經費を以て建設せられたものであるが、目下尙ほ之を擴張改良するの計畫中である、又た船舶碇泊に便利なる場所を擴げ、且つ平均三十呎の水深を得るやうにし、港内の浚渫を行ふ爲め突堤を延長する考案中である、其他鐵道にも尙ほ便利の停車場を設け、東京橫濱間の鐵道事務を、一層改良すると云ふ希望もある、尙ほ以上の事情に加ふるに、當橫濱市に於ては、最も有力な公共心に富んだ人々より組織せられ、其會長には敏腕の市長を戴いて居る日本經濟協會がある、此團體の目的は市の利益を增進する取締規則を奬勵するにあつて、已に同協會の既往の事業には將來大に望を屬すべきものもある。

終に臨んで一言するが、海運の中心として橫濱の重要なることは決して過言でない、而して此事は近々數年の後にパナマ運河の開通せらるべきことに依りて、尙一層强く言ふことが出來るだらう、終りに當りて余は余の散漫したる愚説に就て、諸君の淸聽を煩はしたことを感謝するのである。

べき餘地。 5 附け加へて。 6 公共の精神に富んだ人。

65 商　業

Mr. President, Students of the Higher Commercial School, and Gentlemen,— I have much pleasure in this opportunity of addressing you, particularly because [1]I share in the feeling of your friends, both in this country and abroad, that the present is a very critical time in the history of Japan. You have just passed successfully through a great [2]trial; you have fought an expensive and bloody war in a manner to commend yourselves to all, and to excite the admiration of civilized world. You have now before you the development of the pursuits of peace; and this I can assure you is a task as difficult as the successful conduct of war. Whether you are successful in this kind of development will depend chiefly upon education; and to a very large exent upon the commercial education given in such schools as yours. You are supposed to finish a training in this school which will fit men for the full and successfull discharge of the duties connected with trade and commerce. It is my [3]part, however, to tell you that knowledge alone will not by any means assure success in commerce and trade.

【65—註】 此一篇は去明治四十年米國エール大學教
ある。 1 I share ....feeling 感情を共にする。 2 trial

道　德。　　哲學博士ラッド、

校長、學生、紳士諸君、余は玆に諸君に向て演說を試むる機會を有するとは余のところであ光榮とするるが、日本並に外國に在る諸君の友人等の如く、余も亦た日本が目下其歷史上重大なる時機に在るとを特に感ずるが故に、余は益々此事を光榮とするのである、諸君は都合よく試煉の時期を經過せられた、卽ち諸君は諸君自身を海外各國に紹介し、其稱讚を博するに至る如き方法に依り、多額の費用を要する、而かも激烈なる戰端を開かれた、而して今や平和的事業の發達進步を圖るとは諸君の眼前に迫つて居るが、是れ戰爭に於て成功すると同隊困難なることは、余の深く信ずる處である、然るに諸君が此種の發達進步に於て成功するか否やは、主として敎育の如何に依るのである、卽ち多くは當校の如き學校にて施すところの商業敎育の如何に依るのである、諸君は當校の如き貿易及び商業に關する本分を充分に且つ都合よく遂行するに必要なる人物を養成する處に在りて、其練習をなすべきものと考へられて居るのである、然れども知識のみを以て商業上及び貿易上成功を期せんとすることは、到底不可能にして、余が此事に就て述ぶることは余の本領である、抑も眞の成功したる實業家は、品性及び

授ラッド博士が東京高等商業學校に於てした講演の一節で苦しみ。３　役目。

The true successfull business man must possess culture of the character and of the moral life; there is great truth in the saying of a very ancient book,—"It is righteousness, or right—doing, that exalteth a nation, and wrong-doing is a reproach to any people." And may I not claim at once that I speak to you as a longtime and sincere friend of Japan? In your country and in my own country I have been known as your friend for a considerable period of years. It is for this reason perhaps that I have been called upon to explain as far as I could one of the charges which I am sorry to say is so frequently brought against your business men,—the charge, namely, that things are not what they ought to be in respect to business morality. I believe myself, sincerely, that the charge is only partly true. So far as it is true, it is to be explained chiefly by past historical conditions and by the rapidity of the nation's development in the recent past. Whether true or not, you must agree with me that it is extremely unfortunate to have any such impression prevail abroad. It is because I take a sincere interest in your future prosperity that I havs consented to address you; for I am to speak upon the topic of commercial morality, or Ethics as applied to the Life of Commerce and Trade.

道徳的生活の修養を有することと必要にして、彼の古書に云へるが如く『國民の名譽を發耀するものは正義、即ち正義を行ふことにして、不正を働くことは、則ち皆な人の恥辱とする所なり』と云ふことには、多大の眞理が含まれて居る、余は日本に對しては多年の好友と稱することが出來ないか、否な余は日本に在りても、又た米國に在りても、多年間日本の好友として知られ居るものである、而して遺憾ながら往々日本の實業家に對して唱へられたる非難の一を、余が出來得る限り能く説明せんことを依頼されたることは、或は余が多年の知己なるが故であらう、即ち其非難とは、日本の實業家が商業道徳と云ふことに就て正に行ふべきことを行はざるに在るのである、余は信ず、即ち斯る非難は一部分に於てのみ事實なることを、果して此事を以て事實とする限りは、之を説明するには主として過去の歴史的狀態と、近き過去に於て國民が長足の進歩をなしたることに依るのである、斯る事柄の事實なるか否やは問ふべきでないが、兎に角斯る感情が外國に於て行はるることは遺憾極まる次第にして、此點に於ては諸君も余の意見に一致せらるるに相違なからう、余が玆に諸君に對して、演説を試むることを承諾したのは、余が日本に興味を有するが故である、然らば何故斯る興味を有するかと云ふに、余は商業道徳、即ち商業及び貿易上に應用したる倫理と云ふ題にて諸君に話さんとするが故である。

66 帝國

But what is more important is the affection and the confidence of our kinsfolk across the seas. (cheers) The losses in [1]this war have been heavy. We have to deplore the loss of treasure, but that, to a nation like ours, is hardly worthy of consideration if the object is sufficiently important. We have to deplore, what is much more, the loss of some of our bravest, some of our most promising citizens. But even these losses, great as they are, in a war that is forced upon us—not sought by us, forced upon us by the aggression and the ambition of the Boers—even those losses, I say, brought in their train one blessing of infinite and lasting importance. This war has enabled the British Empire to [2]find itself. It has united the British race throughout the world. (cheers) It has shown to all whom it may concern that if ever again we have, as we have done in the past, to fight for our very existence against a world in arms, we shall not be alone. (cheers) We shall be supported by the [3]sons of Britain in every quarter of the globe. (cheers) I say that hardly any sacrifice can be too great for such a result. Fifty

---

【66—註】 此一篇は英國の政治家ジオーセフ、チエイ
市に於てした演説の一節である。 1 南阿戰爭。 2 to find

の一致。　　チエインバレーン、

されども尙ほ之れより重大なることは、海外に於ける我同胞の心情と信任とを得ることである、元より今回の戰爭より受ける損害は頗ぶる多大であつて、我等は其金錢上の損失に就ては大に悲まざるを得ないのであるけれども、若し戰爭の目的が、其戰爭をするに足るほど重大なるものであるとするならば、斯る損失は我々如き國民に取りては、殆んど一考を要すべからざる問題である、我等の悲まなければならぬとは、即ち以上の損失より尙ほ甚しき性質のものにして、今回の戰爭に依り、我國の勇士中より、我國の最も有望なる人民中より死傷者を出すことである、併し其損害は如何に多大なるにもせよ、我等が强制せられたる戰爭、即ち我等より求めたのでなく、ボーア人の攻擊と其野心に基いた戰爭にあつて、斯る損害ですらも、其多數が綜合して、永久的の重大なる幸福を我國に來すものであると云ふことが出來る、要するに今回の戰爭は我帝國をして如何なるものであるかを知らしむることが出來た、今回の戰爭は能く世界中の英國人を一致せしめた、(喝采) 今回の戰爭は過去に於て戰つた如く、他日又た我等の生存上武裝せる世

ンバレーン氏が一千九百二年一月十一日英國バーミンハム
itself 實際の有樣を知る。 3 英國民。

years ago, twenty years ago—I am not certain that I could not put it later—if anyone had ventured to predict that in a struggle in a distant part of the Empire, in a cause in which they had no direct, no personal interest, the great nations of Canada and Australia, the people of New Zealand, would have come to our help, would have furnished us with an Army of 20,000 men fit to stand beside the best troops in the world, that they would send these men to fight for their King, and for the unity of the Empire, of which they form a part (applause)—and, believe me, if the peril were greater, if we were indeed in serious danger, I believe there is hardly any limit which could be placed upon the assistance which would be afforded to us by these sister nations across the sea, who have learnt to feel that they are joint heirs with us of all the glories and the traditions of the Motherland, and who will never in the future leave her in the lurch (applause) – his predictions would have been received with a considerable amount of incredulity. Now, gentlemen, what response are we going to make to this admirable and astonishing outburst of loyalty and affection? Are we worthy of it? Can we rise to the height of an Empire not bounded by the limits of the United Kingdom, but embracing every man of British race in every

界に對して干戈を交へなければならぬならば、我等は單獨でなく、多数のものが一致すべきことを、夫々關係者一同に示したのである(喝采)、即ち斯る場合には世界到る處に散在して居る國民の支持するところとなるであらう、果して然らば、斯る結果を得るに就て、或犧牲は免るべからざるところであつて、決して多大に過ぎるものであると云ふことは出來ない、今より五十年以前、或は二十年以前、或は又た夫れより少きこと幾年以前であるか知らないが、若し人あり、帝國の遠隔の地に於ける戰爭にて、加奈陀や濠州の大國民、又はニュージーランドの人民が、何等直接の利害若くは個人的の利害を感ぜざるに拘らず、我等を援け、世界の精鋭を以て任ずる軍隊に加勢する爲めに、二万の精兵を供給するだらうと云ふことゝ、斯る軍隊を供給するのは其國王の爲め、其帝國即ち自國は其一部となつて居る帝國の一致の爲めに、干戈を提げて立つてあらうと云ふとを豫言する如きことあらば(喝采)、其豫言は不信を以て迎へられたことであらう、されども諸君、今回の如く驚くべく又た賞賛すべく忠君愛國の情の溢れて居ることは何故であるかと云ふとに對し、如何なる答辯をなすべきか、我等は此事に相當して居るか、我等は聯合王國と云ふ範圍に制限せらるゝことなく、之に反して世界到る處に散在する英國人種を包含する帝國に發展することが出來るか、〔ヒヤ、ヒヤ〕、斯る發展を見ることは即ち我英國皇帝陛下の政府の政

part of the globe. (hear, hear) That is the policy of his Majesty's Government (applause). That is the [4]Imperialism of which I ask the support of every patriotic Briton, irrespective altogether of his [5]Party ties (applause). Gentlemen, I venture to say that policy is not one of feebleness or despair. (hear, hear) It is not wanting in efficiency or in imagination (hear, hear and a laugh)

67 穀法に

Well, what is the pretence upon which you propose to tax them? We have been told by the right hon. gentleman that his object is to fix a certain price for corn: and hearing that proposition from a Prime Minister, and listening to the debates, I have been almost led to believe that we are gone back to the time of the Edwards, when Parliament was engaged in fixing the price of table-cloth, or a napkin, or a pair of shoes. [1]But is this House a cornmarket? Is not your present occupation better fitted for the merchant and the exchange? We do not act in this way

---

【66−註】 4 帝國主義。 5黨派的關係。
【67−註】 コブデン氏は英國の自由貿易論者で、穀法の
る市場であるか、即ち穀法に依り議會は穀類の相場を定む

策である、〔贊成〕即ち余が全く黨派の如何に拘らず、各忠君愛國の英國人士の贊助を求める帝國主義である、〔贊成〕、諸君、余は此政策は薄弱なるもの或は望の覺束なきものにあらずと斷言するのである、〔ヒヤ、ヒヤ〕即ち此政策は敢て効力のないものでもない、又企業の精神に乏しいものでもないのである〔ヒヤ、ヒヤ、ワハハ……………〕

就て論ず。

リチアード、コブデン、

サテ、如何なる口實に依りて斯る品物に税を課せんとするか、余は或議員の目的は穀物の市價を一定するに在ることを聞き、且つ首相より其提出されしを承知し、其討議を傍聽し、曾て國會がテーブル掛や、手巾や、靴の市價を定めた彼のエドワードの時代に溯つたやうな心持がした、併し當議會は穀物の市場なるか、貴下の現職は商人たり又た取引所に適して居ないか、我等は綿や、鐵や、銅や、錫に就ては斯る行動を執らぬ、併し如何にして穀物の市價を一定すべ

反對論者である。 1 されども當議會は穀類の値段を定める樣になつて居るから、氏は此言を發したのである。

with respect to cotton, or iron, or copper, or tin. But how are we to fix the price of corn! The [2]right hon. Baronet, taking the average of ten years at 56 s. 10d., proposes to keep the price of wheat at from 54 s. to 58 s. Some hon. Members opposite are for the same price at the lowest; and I see by the newspapers that the Duke of Backingham, at a meeting of farmers held at Aylesbury on the preceding day, said the price ought to be 60 s. But there is one hon. gentleman, whom I hope I shall have the pleasure to hear by-and-by go more into detail as to the market price which he intends to secure for his commodity in the market.

Now it is all very amusing, exceedingly amusing, to find still that there are gentlemen, at large, too, who will argue that Parliament should interpose and fix the price at which they should sell their own goods. That is very amusing indeed; bnt when we find the Prime Minister of this great country coming down to Parliament and avowing such a principle, it becomes anything but amusing. I will ask the right hon. Baronet, is he prepared to carry out this principle in respect to cotton and wool? I pause for a reply.

【67—註】 2 The right hon. は the right honorable の

きか、議員バロネット氏は過去十年間の平均を五十六志十片とし、小麥の相場を五十四志乃至五十八志に一定せんことを提出して居る、向ふ側に並んで居る或議員等は其最低額に依りて一定することに贊成して居る、又バツキンハム公は其前日エールスベリーの農民會の席上にて、六十志にすべしと論じたことを新聞紙上にて知つた、又た一人の議員よりは市場の品物に一定の市價を附けることに就て詳說を聽くことが出來るだらうと思ふて居る。

サテ諸君、國會か干渉して、品物の市價を一定すべしと主張する多くの紳士が廣く世の中にあると云ふことは、實に面白いことではないか、さりながら、此大國の主相にして、斯る主義を以て國會に現はれんとしつゝあることを知るのは面白いと云ふよりは、寧ろ夫れ以外の結果を生ずるやうになるだらう、余はバロネツト氏に問はん、同氏は綿や毛織にまで斯る主義を行はんとするのであるか、余は同氏の答辯を待つのである。

略語にして英國の下院議員に附ける尊稱である。

68 白墨に

If a well were to be sunk at our feet in the midst of the city of [1]Norwich, the diggers would very soon find themselves at work in that white substance almost too soft to be called rock, with which we are all familiar as "chalk."

Not only here, but over the whole county of Norfolk, the well-sinker might carry his shaft down many hundred feet without coming to the end of the chalk; and on the sea-coast, where the waves have pared away the face of the land which breasts them, the scarped faces of the high cliffs are often wholly formed of the same material. Northward the chalk may be followed as far as Yorkshire; on the south coast it appears abruptly in the picturesque western bays of Dorset, and breaks into the [2]Needles of the Isle of Wight; while on the shores of Kent it supplies that long line of white cliffs to which England owes her name of [3]Albion.

Were the thin soil which covers it all

【68—註】 此の一篇はハクスレー氏の通俗講演中の一
1 Norwich は英國ノールフオーク州の大都會である、nor'ij
意味である。 3 albion は英國に附けた詩的名稱である。

就て論ず。

トマス、ハクスレー、

諸君、若し假りにノールイツヂ市の眞中の我等の立て居る足元に井戸を掘るならば、井戸掘は其身が餘り軟くてトテモ岩と名の付けられない白色の物質の中に働いて居ると云ふことが直ぐに分るだらう、而して其白色の物質は我等が皆な能く熟知して居る白墨と云ふものである。

此土地ばかでなく、ノールフォーク全體に亘りて、井戸掘は數百尺を掘り下るも、尙ほ白墨の盡きないことを知るかもしれん、又た陸地が浪に削去られた箇處にありて、其絕壁は矢張り同一材料、即ち白墨で出來て居ることが往々あるのである、又た北方に向つて白墨は遠くヨークシアイアにまでも續いて居る、南海岸では風光明媚のドールセツト州の西の灣に現はれ、ワイト島の尖つた處となつて居る、又た同時にケント州の海岸では英國が白地と云ふ異名を受けて居る彼の白色の崖となつて居るのである。

若し此白墨を蓋ふて居る薄き土が、全く洗ひ流されるこ

節である、ハクスレー氏は英國の有名な動物學者である。と發音すべし。 2 needles は pointed mass of rock と云ふ

washed away, a carved band of white chalk, here broader and there narrower, might be followed diagonally across England from Lulworth in Dorset to Flamborough Head in Yorkshire—a distance of over 280 miles as the crow flies. From this band to the North Sea, on the east, and the channel, on the south, the chalk is largely hidden by other deposits; but except in the Weald of Kent and Sussex, it enters into the very foundation of all the south-eastern countries.

Attaining, as it does in some places, a thickness of more than a thousand feet, the English chalk must be admitted to be a mass of considerable magnitude. Nevertheless, it covers but an insignificant portion of the whole area occupied by the chalk formation of the globe, which has precisely the some general characters as ours, and is found in detached patches, some less and others more extensive than the English.

Chalk occurs in Northwest Ireland; it stretches over a large part of France,—the chalk which underlies Paris being, in fact, a continuation of that of the London basin; it runs through Denmark and Central Europe, and extends southward to North Africa; while eastward, it appears in the Crimea and Syria, and may be traced as far as the shores of the Sea of Aral, in Central Asia.

とがあるとするならば、或は廣き場處、或は狹き場處を生ずるのは免れないが、一帶の曲つた白堊がドールセツト州のラルワースより、ヨークシアイア州のフラムボロー崎に至るまて、英國を橫斷して、其距離は二百八十哩の一直線を畫くやうになるだらう、而して此白堊地帶より東は北海に至り、南は英國海峽に至まて、白堊は大抵他の沈澱物に蔽はれて居る、併しケント州やサツセツクス州の白堊地の外、白堊は各東南地方の基盤となつて居ることが分る。

抑も英國の白堊は、或場處に依りては、一千呎以上の厚を持て居るのであるから、實に宏大なるものに相違ないけれども、地球全體の白堊に比較すれば、實に僅々一小部分に過ぎないのであつて、此地球の白堊は我國のものと全く同一の性質であるが、英國のものよりは、或は小さく、或は大きくして、諸處に現はれて居るのである。

白堊の根源地のことに就て云ふならば、アイルランドの西北部に起り、夫れより佛國の大部分に擴がつて居るが、此白堊は巴里の基礎であつて、倫敦の基礎と續いて居るのである、又た此白堊は丁抹や中央歐羅巴を貫通して、南方遠く北亞弗利加に赴くと同時に、東の方はクリミアやシリアに現はれ、尙ほ中央亞細亞のアラル海の沿岸に連絡して居ることが分るのである。

69 國

From the earliest periods nations seem to have gone forth to war under some banner. Sometimes it has been merely the pennon of a leader, and was only a rallying signal. So, doubtless began the habit of carrying banners, to direct men in the confusion of conflict, that the leader might gather his followers around him when he himself was liable to be lost out of their sight.

A thoughtful mind, when it sees a nation's flag, sees not the flag, but the nation itself. And whatever may be its symbols, its insignia, he reads chiefly in the flag the government, the principles, the truths, the history, that belong to the nation that sets [1]it forth. When the French tri-color rolls out to the wind, we see France. When the newfound Italian flag is unfurled, we see resurrected Italy. When the other three-colored Hungarian flag shall be lifted to the wind, we shall see in it the long buried, but never dead, principle of Hungarian liberty. When the

【69—註】此の一篇はビーチァー氏が千八百六十一年
ー氏は米國有数の説教家である。1 flag を指す。

旗。

ヘンリイ、ワード、ビーチアー

古より各國民は何れも何か或る一定の旗幟の下に在りて戰場に出陣したやうに思はれる、時としては其旗幟は單に其指揮者が手に携ふる小旗若くは部下を集合する時に用ゐる目標に過ぎなかつた、故に指揮者が戰場にて其部下に見失はれたやうな場合には、其身邊に部下を集合する便宜上、混雜に際し、能く其部下に命令を傳へ得る爲めに、軍旗を携へて出陣する習慣を生ずるに至つたのは敢て疑を容れない事實である。

されども注意深き人物は、一國の國旗を見るに當り、則ち旗其ものを見ずして、國民其ものを見るのである、其記號の何たるに拘らず、其紋章の何たるに拘らず、其旗に依り、之を押し立てゝ居る國民の政治は如何、其主義は如何、其眞理は如何、其歷史は如何と云ふことを知るのである、例へば佛國の三色旗が風に飜るのを見るときは、即ち我等は佛國其物を知り、新設の伊國々旗が高く空中に揭げらるゝを見るときは、即ち再興したる伊國其ものを知り、又た今ま一つの三色のハンガリーの國旗が風に飜るのを見るときは、即ち永く埋沒したるも、決して死せざるハンガリーの

五月プリマス教會に於てした說教の一部である、ビーチア

united crosses of St. Andrew and St. George, on a fiery ground, set forth the banner of Old England, we see not the [2]cloth merely: there rises up before the mind the idea of that great monarchy.

This nation has a banner, too; and until recently wherever it streamed abroad men saw day-break bursting on their eyes. For until lately the American flag has been a symbol of Liberty, and men rejoiced in it. Not another flag on the globe had [3]such an errand. The stars upon it were to the pining nations like the bright morning stars of God, and the stripes upon it were beams of morning light. And wherever this flag comes, and men behold it they see in its sacred emblazonry no ramping lion, and no fierce eagle; no embattled castles, or insignia of imperial authority; they see the symbol of light.

If one, then, asks me the meaning of our flag, I say to him: It means just what [4]Concord and Lexington meant, what Bunker Hill meant; it means the whole glorious Revolutionary War, which was, in short, the rising up of a valiant young people against an [5]old

【69―註】 2 旗の切地。 3 such an errand 斯る使命、Bunker Hill も皆な獨立戰爭當時の古戰場である。 5 英

自由主義を見るのである、又た赤の切地に聖アンドリユと聖ヂオーヂの十字形が重り合つて英國々旗となり、空中高く飜るのを見るときは、我等は其旗の切地を見るばかりでなく、大君主國と云ふ觀念が我等の心頭に浮ぶのである。

我米國にも亦た國旗があつて、今日に至るまで何處に飜るも、人は之を見て其眼前に曉の現はれるが如き心地のしたのである、何んとなれば米國々旗は自由を其記號として居つて、人は皆な此自由の爲めに種々の便益を得たのであるからである、思ふに世界廣しと雖も、又たと斯る立派な使命を帶びたるものはない、何處の國民と雖も、苦痛の下に在るときに米國々旗の星を見るならば神の星が朝に輝ける如き思ひをなし、又た其條を見るならば旭日の光を放つが如き思ひをするだらう、此國旗が何處に飜るも、人は其神聖なる飾の内には獅子の跳る如き、或は又た猛烈なる鷲の如き、或は又た防禦に備へたる城廓の如き、或は又た君主の記號の如きものを見ることなく、只だ光明の記號を見るのみである。

若し人あり、余に問ふに我國旗の意味を以てせば、余は彼に答へて云はん、即ち我國旗はコンコードや、レキシントンや、バンカーヒルの如き古戰場と同一の意味を有するものなりと、即ち我國旗は名譽ある革命戰爭の全部を意味するものである、我革命戰爭とは、之を言ひ換れば、曾て

即ち自由を傳へる使命。 4 Concord も Lexington も國を指す。

tyranny, to establish the most momentous doctrine that the world had ever known, or has since known,—the right of men to their own selves and to their liberties.

Our flag carries American ideas, American history and American feeling. Beginning with the Colonies, and coming down to our time, in its sacred heraldry, in its glorious insignia, it has gathered and stored chiefly this supreme idea: *Divine right of liberty in man.* Every color means liberty; every thread means liberty; every form of star and beam or stripe of light means liberty; not lawlessness, not license; but organized institutional liberty,—liberty through law, and laws for liberty!

This American flag was the safeguard of liberty. Not an atom of crown was allowed to go into its insignia. Not a symbol of authority in the ruler was permitted to go into it. It was an ordinance of liberty by the people for the people. *That* it meant, *that* it means, and, by the blessing of God, *that* it shall mean to the end of time!

世界に知られたる重大な學說、即ち人間の自由に對する權利を確定する爲めに、勇氣に富める青年が、暴政に對して反旗を擧げたと云ふことである。

我國旗は到處米國の思想、米國の歷史、米國の感情を有するのである、即ち殖民時代の當初より今日に至るまで、其神聖なる飾の內に、其名譽ある紋章の內に、主として此最上の思想、即ち人間自由の神性を備へたる權利と云ふことを收めたのである、故に國旗の如何なる色も、自由を意味せざるなく、如何なる縞筋も自由を意味せざるなく、如何なる星の形も、如何なる光の條も、自由を意味せざるなく、其自由とは無法と云ふことを意味するのでなく、又た少數者に特權を與へると云ふことを意味するのでなく、之に反して組織的の自由、即ち法律に依りて得たる自由、自由の爲めに設けたる法律と云ふことを意味するのである。

米國々旗は自由の保護者であつて、王冠の一分子も其記號に入ることの出來ないものである、統治者の主權の寸分だも其記號に入るべからざるものである、故に人民が人民の爲めに設けたる自由の命令にして、其事を意味することは過去に在つても、亦た現在に在つても、同一であつて、神の惠に依り、永遠に此意味を繼續するものである。

70 南阿の一

As to South Africa, there can be [1]no doubt as to its prosperity. We have witnessed in our own time a development of natural and mineral wealth in that country altogether beyond [2]precedent or human knowledge; and what we have seen in the past, and what we have seen in the present, is [3]bound to be far surpassed in the near future. ["Hear! Hear!"] [4]The climate and soil leave nothing to be desired, and there is only one thing wanted —that is, a complete union and identity of sentiment and interest between the different States existing in South Africa. [Cheers.] Gentlemen, I have no doubt that that union will be forthcoming [cheers], although it may not be immediately established. I do not shut my eyes to difference amongst friends which have unfortunately already arisen, and which have not yet been arranged. I think these differences, [5]if you look below the surface, will be found to be due principally to the

【70—註】 can be no doubt 疑のあらう筈はない。 2 ...する。 4 the climate.........wanted 天の利、地の利に就足りないものがある。 5 if.........the surface 眞相を觀る

致に就て論ず。

チェインバレーン

南阿のことに就て云はんか、其發展に就ては何等疑を容るゝ餘地なし、現今に於ける南阿の天然物及び礦物に關する富の進歩は驚くべきものにして、余は從來に先例なく、到底人間の知識にて測知すべからざるものなることを目擊したが、過去に於て見たこと、及び現在に於て見たことは、必ず近き將來に於て非常なる發展を來し、到底過去及び現在の事情が遠く之に及ぶべからざる有様になるだらう。

南阿に於ける氣候と地味は申分なく、之に就て何等の希望はない、されども只だ一つ是非必要のものがある、卽ち其事は南阿に存在する各州の間に感情と利害の充分なる一致と、之を同一にするに外ならないのである、〔喝采〕諸君は其一致は今直に行はれないにしても、將來に起らんとしつゝあることは敢て疑のないところである、已に相互友人間には不幸にして不一致の起るところとなり、未だ其調停を見ないが、余は此事に對して眼を閉じて置かないのである、諸君が今少し事實の眞相を觀るならば、余は斯の如き不一致は、主として地方の聯合が、未だ南阿に設けられて居

---

beyond precedent 先例のなき。 3 is bound to 必ず……
ては申分なく、此上何等の望むところなきも、只だ一つのならば。

fact that we have not yet achieved in South Africa that local federation which is the necessary preface to any serious consideration of the question of Imperial federation, [cheers.] But, gentlemen, in these differences, my position, of course, renders it absolutely necessary that I should take no side. [cheers.] I pronounce no opinion, and it would not become me to offer any advice.

Gentlemen, I wish success to the Natal Railway, and to every railway in South Africa. [cheers.] There is success for all, if only they will not waste their resources in internecine conflict. ["Hear! Hear!"]. I have seen with pleasure that a conference is being held in order to discuss, and I hope to settle these differences. I trust that they may be satisfactorily arranged. In the meantime I congratulate our chairman, as representing this prosperous colony, upon the enterprise they have displayed, upon the difficulties they have surmounted, and the success they have already achieved. [cheers.] And I hope for them—confidently hope—the fullest share in that prosperity which I predict without hesitation for the whole of South Africa [cheers].

ない事實に基くものなりと云ふことが分るだらうと思ふ、而して此地方聯合なるものは、彼の帝國聯合の問題の重大なる考に對して必要なる序幕とも稱すべきものである、〔喝采〕されども諸君、此不一致と云ふことに就て、無論余が不偏不黨の位置を保つことは最も必要であつて、〔喝采〕余は何等の意見も漏さず、且つ何等の忠言をも出さざることが至當である。

諸君、余はネータル鐵道と、南阿に於ける各鐵道の成功とを祈るのである、〔喝采〕若し內地にての爭に其力を費す如きことなければ、凡て殖民地の成功は期すべきである、「ヒヤ、ヒヤ」、目下此不一致に就て討議する爲めの會議の開會中なることは、余の大に喜ぶところであるが、其滿足すべき解決を見んことを希望するのである、又今時に此殖民地の企業と、其千辛万苦に打勝つたことゝ、已に今までに得た成功とに就て、此隆盛なる殖民地を代表する會長に對し祝賀の意を表はし、〔喝采〕併せて南阿全體の爲めに余が豫言するに少しも躊躇しないところの隆盛な殖民地の人民が共にせんことを、余は切に希望するのである、〔喝采〕。

71 我に自由を與へ然

Sir, we have done every thing that could be done, to avert the storm which is now coming on. We have remonstrated; we have supplicated; we have prostrated ourselves before the throne, and have implored its [1]interposition to arrest the tyrannical hands of the [2]ministry and [3]parliament. Our petitions have been slighted; our remonstrances have produced additional violence and insult; our supplications have been disregarded; and we have been spurned, with contempt, from the foot of the throne. In vain, after these things, may we indulge the fond hope of peace and reconciliation. There is no longer any room for hope. If we wish to be free—if we mean to preserve inviolate those inestimable privileges for which we have been so long contending—if we mean not basely to abandon the noble struggle in which we have been so long engaged, and which we have pledged ourselves never to abandon, until the glorious object of our contest shall be obtained—we

---

【71—註】此の一篇は一千七百七十五年パトリック．ヘニア州の決議を辯論して、仝州リッチモンド市に於てした
2 英國の内閣。 3 英國の議會。

らずんば死を與へよ。

パトリツク、ヘンリイ

議長、今や將に來らんとする暴風を避ける爲めには、あらゆる方法を盡した、即ち我等は請願もした、辯解もした、哀願もした、我等自身陛下に伏奏し、內閣及び議會の壓制を檢束するの干渉を試みられんことを直奏に及んだ、然るに我等の請願は輕視せられ、我等の哀願は何等の注意を惹くことなく、我等は輕蔑せられ、玉座の近くより蹴落されたのである、以上の事あるに拘らず、今尙ほ平和と調停の希望を抱いて居るか、否々、最早や斯る希望の餘地はないのである、若し我等が自由たらんことを希望するならば、―即ち若し我等が多年戰つて居た、彼の莫大の價値を有する權利を安全に維持し、之を得んと欲するならば、―即ち若し我等の爭ふところの立派なる目的の達せらるゝまで、多年戰つて居て、決して止めざることに決定したる戰爭ならば、恥を曝して止むる如きことなき覺悟を持て居るならば、我等は戰はざるを得ないのである、嗟呼、余は我等が戰はざるを得ないことを繰返して云ふのである、嗟呼、今や我等は武器に訴

シリイ氏が『殖民地を防禦の態度に置くべし』と云ふヴアヂ演說の一部である。 1 其干渉、its は throne を承く。

must fight! I repeat it, sir, we must fight! An appeal to arms and to the God of Hosts is all that is left us!

They tell us, sir, that we are weak; unable to cope with so formidable an adversary. But when shall we be [4]stronger? Will it be the next week, or the next year? Will it be when we are totally disarmed, and when a British guard shall be stationed in every house? Shall we gather strength by irresolution and inaction? Shall we acquire the means of effectual resistance by lying supinely on our backs and hugging the delusive phantom of hope, until our enemies shall have bound us hand and foot? Sir, we are not weak, if we make a proper use of those means which the God of nature hath placed in our power. Three millions of people, armed in the holy cause of liberty and in such a country as that which we possess, are invincible by any force which our enemy can send against us. Besides, sir, we shall not fight our battles alone. There is a just God who presides over the destinies of nations; and who will raise up friends to fight our battles for us. The battle, sir, is not to the strong alone; it is to the vigilant, the active, the brave. Besides, sir, we have no election. If

【71—註】 4 今より一層强く。

ふることゝ、軍神に訴ふることゝ、我等には此二を除ひて他に求むるところは何ものもないのである。

人は言ふ、我等の力弱くして、我等は到底斯る大敵に抵抗すること能はずと、されども何時我等は今よりも一層強くなることが出來るか、此事の出來るのは來週なるか、將た又た來年なるか、或は又た全く武裝を解ひて、英軍が各戶に宿泊するの時なるか、我等は不決斷と不活潑の行動に依りて兵力を集むることが出來るか、敵が我等の手足を束縛するに至るまでも、只だ徒に横臥し、空望にのみ耽つて、能く効力を有する抵抗を試むることが出來るか、若し我等は神が我等の力に適當して與へ給ふ方法を充分能く用ゐるならば、我等は決して弱きものでない、自由と云ふ神聖なる味方に加はり、又た我等が所有する如き邦土に在りて、武裝したる三百萬の人民は、敵が如何なる兵力を差向けるも、我等に勝つこと覺束ないのである、且つ又我々人民のみが戰鬪に加はるのでなく、其外には我々國民の運命を守護し給ひ、我等の戰爭に參加すべき幾多の同志の者を募らせ給ふところの正義の神は存在し給ふではないか、要するに戰勝者は獨り强者のみに限らず、注意周到なる者、活潑なる者、勇氣に富める者は、亦た戰勝者の內に數ふべきものである、今や我等には死するか、逃げるか、何れか其一を擇ぶことも出來ないのてある、若し我等は劣等なる考に依りて

we were base enough to desire it, it is now too late to retire from the contest. There is no retreat, but in submission and slavery! Our [5]chains are forged! [6]Their clanking may be heard on the plains of Boston! The war is inevitable—and let it come! I repeat it, sir, let it come!

It is in vain, sir, to extenuate the matter. Gentlemen may cry, peace, peace—but there is no peace. The war is actually begun! The next gale that sweeps from the north will bring to our ears the clash of resounding arms! Our brethren are already in the field. Why stand we here idle? What is it that gentlemen wish? Why stand we here idle? What is it that gentlemen wish? What would they have? Is life so dear, or peace so sweet, as to be purchased at the price of chains and slavery? Forbid it, Almighty God! I know not what course other may take; but as for me, give me liberty, or give me death!

72 ジエームス、ヂー、ブレーン

The Republicans of the United States de-

【71―註】 5 我等を束縛する鎖。 6 chains を承く。

之れを爲すとするも、戰爭を避くる如きは時期遲しと云ふべきである、嗟呼今や退却すること能はず、退却せんか、之に依りて屈服することゝ、奴隷になるとを見るの外なからう、嗟呼我等を束縛する鎖は出來て居て、其鳴る音は已にボストン平野に於て聞えて居るではないか、戰爭は到底避けることが出來ない、─戰爭來らしめよ、戰爭來らしめよ。

議長、徒に事を長引かせるのは無益である、諸君は平和と云ふことを連呼するかも知れないが、平和の餘地は少しもなく、戰爭は實際始まつて居るではないか、若し大風が北方より來るならば、必ず武器の響く音を諸君に聞かしめるであらう、嗟呼我等の同胞は已に出陣して居るではないか、然るに我等は何が故に手を袖にして此處に止まつて居るか、諸君の希望は何處にあるか、諸君の得たいと希望するものは何なるか、嗟呼鎖を以て束縛せられ、奴隷となつて、自由を奪はれても命は左程欲しいのであるか、又た平和は左程よいものであるか、嗟呼全能の神よ、斯ることを禁じ給へ、余は他人が如何なる方針に出づるやを知らず、されども余は云はん、我に自由を與へ然らずんば死を與へよと。

氏を大統領候補者に指名す。

ローバアト、ヂー、インガアソル

合衆國のレパブリカン黨は一千八百七十六年の撰擧競爭

mand as their leader in the great [1]contest of 1876 a man of intelligence, a man of integrity, a man of well-known and approved political opinions. [2]They demand a statesman; they demand a reformer after as well as before the election. They demand a politician in the highest, broadest and best sense—a man of superb moral courage. They demand a man acquainted with public affairs—with the wants of the people; with not only the requirements of the hour, but with the demands of the future. They demand a man broad enough to comprehend the relations of this Govermment to the other nations of the earth. They demand a man well versed in the powers, duties and prerogatives of each and every department of this Goverment. They demand a man who will sacredly preserve the financial honor of the United States; one who knows enough to know that the national debt must be paid through the prosperity of this people: one who knows enough to know that all the money must be made, not by law, but by labor.

The Republicans of the United States want a man who knows that the Government should protect every citizen, at home and abroad; who knows that any government

---

【72—註】 インガアソル氏は米國の政治家であり、且つ

に於て知識あり、勇氣あり、廣く世上に認められたる政見を持て居る人物を其領袖として求むるのである、レパブリカン黨には一政治家が必要である、即ち選擧前に於けるが如く、其後にありても改革家が必要である、彼等には最も高尚な意味の、最も廣義の、最も善意にて所謂政治家、即ち完全なる道德的勇氣のある人物が必要である、彼等には能く公共の事業に通じたる人物、即ち人民の欠乏、現時及び將來の要求を熟知する人物が必要である、彼等には政府と他國との關係を能く其胸中に容るゝに足るべき雅量の人物が必要である、彼等には政府各部の權限、職務、職權に精通する人物が必要である、彼等には能く合衆國の財政上の名譽を維持する人物、即ち人民を隆盛の域に赴かしめ、之によりて國債を償却すべきことを知るに足るべき人物、即ち金を儲けるのは法律の力に依るものにあらずして、勞働に依るべきものなることを知るに足るべき人物が必要である。

合衆國のレパブリカン黨には政府が內地に在りても、又た外國に在りても、能く其人民を保護すべきものなることを知る人物、即ち政府を防禦するものを防禦せず、政府を保護

演說家である。 1 選擧競爭。 2 Republicans を指す。

that will not defend its defenders, and protect its protectors, is a disgrace to the map of the world. They demand a man who believes in the eternal [3]separation and divorcement of church and school. The man who has, in full, heaped and rounded measure, all these splendid qualifications, is the present grand and gallant leader of the Republican party—James G. Blaine.

Like an armed warrior, like a plumed knight, James G. Blaine marched down the halls of the American Congress and threw his shining lance full and fair against the brazen foreheads of the defence of his country and the maligners of his honor. For the Republican party to desert this gallant leader now, is as though an army should desert their general upon the field of battle.

Gentlemen of the convention, in the name of the great Republic, the only Republic that ever existed upon the earth ; in the name of all he defenders and of all her supporters ; in the name of all her soldiers living ; in the name of all her soldiers dead upon the field of battle, and in the name of those who perished in the skeleton clutch of famine at [4]Andersonville and [5]Libby, whose sufferings

【72—註】 3 separation and divorcement of church ムター郡の村名、此處には內亂戰爭當時南軍の軍隊監獄の軍隊監獄所在地。

するものを保護せざる政府は世界地圖に汚點を與ふるものなることを知る人物が入用である、彼等には永久に宗教と教育を分離すべきことを知る人物が必要である、凡て以上の如き立派な資格を充分に備へて居る人物は、今回のレパブリカン黨の立派なる領袖ジエームス、ヂー、ブレーン氏である。

ジエームス、ヂー、ブレーン氏は武裝したる勇士の如く、禮裝したる武士の如く、米國國會の議事堂を下りて、米國の名譽、又た自己の名譽を毀損した者の前頭目掛けて其武器を投付けた、故に斯る勇猛なる領袖に別れることは、恰度戰場にありて、軍隊が其大將に別れるのも仝樣である。

當協會の紳士諸君、大共和國、即ち世界に成立する唯一の共和國に代り、即ち共和國の防禦者、維持者に代り、現在生存して居る兵士に代り、戰沒したる兵士に代り、豫てブレーン氏が其慘狀を能く記憶して居る彼のアンダーソンヴヰルやリツビーの飢饉の爲めに餓死したる者に代りて、イリ

---

and school 宗教と教育の分離。 4 米國ヂオーヂア州サがあつた。 5 米國ウアヂニア州リツチモンドに在る南軍

he so vividly remembers, Illinoise nominates for the next President of this country that prince of parliamentrians—that leader of leaders—James G. Blaine.

73 新聞

In view of impending retirement, a German newspaper has passed the [1]valedictory verdict upon me, saying that I held a thoroughly modern conception of the importance of the Press, not looking upon it as a somewhat doubtful institution, to be treated with caution, but considering it rather as an instrument with which [2]one could and should co-operate, for the general good.

Gentlemen, this acknowledgement of one of your German contemporaries has given me more pleasure than many a compliment, deserved or otherwise, which I have had in connection with my official work. Indeed, throughout my long career, I have, at all times, taken the greatest interest in the Press, which is due, in no small degree, to my conviction that, in a certain sense, Press and Diplomacy [4]pull at the same

【73—註】 此の一編は明治四十四年二月廿八日東京駐知名の實業家並に國際新聞協會員を招待し、留別を兼ね、喚verdict 送別の辭。 2 one ....co-operate 共働すること ...rope 共同の仕事をする。

ノイズ州は米國の次回大統領には議員中の王、領袖中の領袖、ジエームス、ヂー、ブレーン氏を指名するのである。

紙と外交。　　　獨乙男爵ムム、

近々余の辭職して本邦を去ることに就き、或獨文の一新聞紙は余に對する送別の辭を掲載し、余は新聞紙を以て警戒を要すべき疑はしき性質のものでなく、寧ろ人が之れと共同して一般の便益を圖るべき機關であるところの、新聞紙の必要に對して、全く嶄新の思想を抱くものなりと論じて居る。

諸君、諸君の同業者たる此獨文の一新聞紙が、斯の如く余を承認してゐるとは、余が公務に就て受けた多くの讃詞(余に當るや否やを知らず)よりも、尙ほ多く余の光榮とするところである、成程、余の官職の經歷中、余は常に新聞には多大の興味を持つて居るのであるが、其譯は或意味に於て、新聞と外交とは少からざる程度に於て、共同の仕事をするも

劄獨乙大使ムム、フオン、シユワルツエンスタイン男が内外餐會を催した席上に於てした演説である。 1 valedictory も出來又た共同すべき。 3 或意味に於て。 4 pull .....

rope. The time when Diplomacy was considered a sort of Black [5]Art, always ready for secret cabals and intrigues, has long since passed away. Nowadays, it is generally acknowledged to be one of the first duties of the diplomatist to promote peaceful co-operation between nations, and to remove the barriers which prevent people from carrying out this task. There is, however, no barrier which renders this high aim more difficult to attain than mutual misunderstanding between nations. Truly, this misunderstanding is the very arch-foe of international co-operation, being responsible for more than three quarters of all international estrangements and dissensions. The highest duty of the diplomatist, therefore, consists in paving the way for mutual understanding, and in removing misunderstanding, where it exists. The Press, however, when it enters the arena of foreign affairs, has quite the same task. Every publicist who undertakes to comment on foreign politics, assumes, in doing so, a public mandate to do this without prejudice, to his best ability, and according to the demands of his conscience. And, provided that he always be mindful of his great responisibility, he is more qualified than anyone

【73—註】 5 魔術。

のであると云ふ考を持て居るからである、抑も外交とは陰謀を逞ふする一種の魔術なりと云ふ考は、已に過去の時代に屬し、外交官の第一の務とするところは、各國民間に平和の共同の仕事を進め、人々をして此目的を達せしむることを妨げる障碍物を除去するに在りと云ふとは、今日一般に認むることゝなつた、されども此目的を達する上に於て生ずる困難は、各國民間に相互の誤解のあることより大なる困難はないのであつて、此誤解は實に國際的共同と云ふことに對する大敵である、何故ならば、凡そ國際間に葛藤及び不一致を生ずる場合の四分の三は、此誤解が原因となつて居るからである、故に外交官の第一の要務とする處は、即ち相互間に意思の疏通する途を啓き、若し誤解の生ずる場合には、之を除去するに在るのである、然るに亦た新聞紙なるものも、其記事の外交に及ぶときは、全く外交官と全一の要務を備へて居るべきものである、故に如何なる國際法論者と雖も、外交政治を論評せんとするときは、少しも偏見を有する如きことなく、能く自己の良心の要求するところに從ひ、之を論ずべきであつて、若し自己の責任の重且つ大なることを思ふならば、自國民の輿論をして、他國を誤解せ

else to free the public opinion of his country from misunderstandings with regard to other nations.

It is in this sense that I said that Press and Diplomacy pull at the same rope; and it is this common side of the two professions that I have always laid great stress upon not only by closely observing the Press, but also [6]by keeping in touch with it.

It goes without saying that from the time I came to this country, the promotion of a full mutual understanding betwreen Japan and Germany has always played the most prominent part in my thoughts and endeavours. And it is a matter of sincere satisfaction to me that, apparently, a great part of the misconceptions which, unfortunately, existed in this respect, are gradually subsiding. I may state that a certain undesirable tone, formerly conpled with the name of Germany, in the Press of this country, has nearly disappeared, and that certain groundless suspicions which were merely based upon ignorance of Germany's political aims, are more and more seldom to be found in prominent Japanese newspapers. On the other hand, I can state with equal satisfaction that the [7]majority of the leading German organs now fully ac-

【73—註】 6 keeping......with it 接觸して。 7 majo ity

しめざるやう努力することを以て自己の資格とすべきである。

余が新聞と外交とは、共同の仕事をすべきものなりと述べたのも、亦た此點に外ならないのである、又た余が常に新聞に最も多くの注意を拂ひ、且つ新聞に最も多く接近するに重きを置いたことは、即ち此兩者の職務とするところが相似て居るからである。

余が日本に着任以來、日獨間の意思の疏通を圖ることは、余が常に主として考へ且つ努めたところであつて、從來此點に就て行はれて居た行違の大部は、爾來大に減少しつゝあつたことは確に余の滿足するところである、且つ又た曾て獨乙と云ふ名稱に與へられたる好ましからざる調子が、殆んど日本の新聞紙より消え去り、又た獨乙の政治上の目的を知らざるとより生じたる、無根の疑の如きは、益々日本の主立ちたる新聞紙上に求むるべからざるに至りたることを明言することが出來る、又た之れと同時に、獨乙の重要なる新聞紙の如きも、世界の强國として日本の位置を認むる

………organs 獨乙新聞紙の多數は。

nowledge and appreciate Japan's position as World power. This [8]conspicuous change, gentlemen, is nothing but the outcome of a growing mutual understanding. I can, therefore, only wish that this mutual understanding may make itself felt in ever wider and wider circles.

This is, in the hour of my departure from Japan, my farewell wish to the International Press Association which, in quite a special degree, has the vocation of paving the way for mutual understanding between nations.

At the same time, I beg to address the Japanese journalists here present, in order to bid a hearty *sayonara* to the people of Japan whose proper [9]mouth-piece they are. I have learned to know your beautiful country, which I have crossed from Karafuto to Taiwan, from Wiju to Shikoku, and I have learned to love it; I carry away with me a host of the finest recollections. The friendship and good-will I have found with many of its inhabitants, have not only embellished the time of my stay in this country, but will be held by me in grateful memory during the rest of my life. And the warm interest which I take in Japan's development will continue

---

【73—註】 8 斯る著しき變化、卽ち日本を世界の一等國
烟草の吸口の如く人間の口に附けるものを云ふ、卽ち新聞

に至りたることを明言することも出來るのである、諸君、斯くの如き著しき變化の生じたることは、即ち益々意思疏通の然らしむるところでないか、故に余は此意思の疏通をして益々廣く行はれしめんことを希望するのである。

以上は今や余が日本を去らんとする時に當り、特に各國民間相互の意思の疏通を目的とする國際新聞協會に向つて希望するところである。

余は又た之れと同時に、茲に出席の日本の新聞記者諸君に一言したいのである、此事は日本人に別辭を告ぐる爲めであるが、諸君は日本人の木鐸を以て任じて居るから、今ま茲で諸君に之を述べるのである、余は樺太より臺灣に至り、又た議州より四國にまでも赴き、貴國が山水明媚の土地なることを知り、且つ何故に日本を好むのであるかと云ふことも知り、多大の美的の記憶を余の腦裏に印したのである、又た余が數多の日本人に就て得た友情と厚意は、余が日本に駐劄中の歲月に少なからざる光彩を放てるばかりでなく、余の存命中深く感謝し、記念として忘れない積りで

として認むるに至りたることを云ふ。 9 mouth-piece 卷記者は社會の人々に事實を傳へる吸口の如きものである。

to the live in me, even when I am no longer in office.

In [10]return, I request you, gentlemen, to hold me in kind remembrance and to grant to my successor an equal share of the confidence which you have always bestowed upon me during my stay in Japan. I raise my glass to the ever increasing prosperity of the Press and and, above all, to its representatives here present!

74 國民

In his admirable series of studies of twentieth century problems [1]Dr. Lyman Abbott has pointed out that we are a nation of pioneers; that the first colonists to our shores were pioneers, and that pioneers selected out from among the descendants of these early pioneers, mingled with others selected [1]afresh from the old world, pushed westward into the [2]widerness and laid [3]the foundations for new commonwealth. [4]They were men of hope and expectation, of enterprise and energy; for the men of dull content or more

【73—註】 10 返禮として。
【74—註】 此の一篇は現代の偉人ルーズヴエルト氏が一共進會に臨んでした演說の一節である。 1 アボット博士 2 荒野原。 3 laid the foundations 基盤を定めた。 4

ある、故に余が日本の進歩發達に就て感じた强き興味は、余が本職を去りて後も尙ほ繼續すべきである。

諸君、其代り、余は諸君が長く余を記臆せられ、且つ余が日本に駐在中受けたのと、同様の信任を余の後任者へも與へられんことを希望するのである、諸君、余は諸新聞、特に玆に代表せらるゝ諸君の隆盛を祝するのである。

の義務。　ルースヴェルト

ドクトル、ライマン、アボット氏は『第二十世紀に於ける問題の研究』と題する好著述にて論じて居る、即ち我等米國人は殖民的の國民なりと、又我國へ初めて來た殖民者は開拓者なりと、又た此初期の時代の開拓者の子孫中より選び出された開拓者は、更に舊世界より來たものと合同して、西方未開地深く敢行すると仝時に、新領國を建設するやうになつたのであると論じて居る、彼等は希望あり、見地あり、企圖心あり、精力ある人物であつた、何となれば、體質に活氣のない者、若くは精神に活氣のない者は新世界

千九百一年九月二日ミネアポリス市に於ける、ミネソタ州は米國組合教會の牧師で、新聞記者である。 1 新らしく。pioneers を指す。

dull despair had no part in the great movement into and across the new world. Our country has been populated by pioneers; and therefore, it has in it more energy, more enterprise, more expansive power than any other in the wide world.

You whom I am now addressing stand for [5]the most part but one generation removed from these pioneers. You are typical Americans, for you have done the great, the characteristic, the typical work of our American life. In making homes and carving out careers for yourselves and children, you have built up this state; throughout our history the success of the homemaker has been but another name for the upbuilding of the nation. The men who, with axe in the forest and pick in the mountains and plow on the prairies, pushed to completion the dominion of our people over the American wilderness have given the definite shape to our nation. They have shown the qualities of daring, enduring and far-sightedness, of eager desire for victory and stubborn refusal to accept defeat, which go to make up the essential manliness of the American character. Above [6]all they have recognized in practical form the fundamental law of success in American life—the law of

[74—註] 5 for the most part 大體に於て。 6 就

に來て、之を横斷するやうな偉大なる行動に參加することが出來ないからである、抑も我國は初め開拓者の住んだ處であるから、世界の他の國に比ぶれば、夫れ以上の精力も、企圖心も、膨張力も、備へて居るのである。

今ま余の演說を聽いて居る諸君は、大體に於て此開拓者に後れること僅かに一時代である、諸君、諸君は模範的米國人である、何となれば諸君は我等米國人の生活上の、偉大なる、特色ある、模範的の事業を起したからである、又た諸君は諸君自身の爲め、又た子孫の爲め、家を作り、道路を開き、遂に此米國を建設したのである、諸君、我國の歷史を通讀するに、一家をなしたるものゝ成功は、一國民を建設したりと云ふ異名に過ぎないことが分る、諸君、斧を採て森林に入り、鶴嘴を携へて山中に潛み、或は鋤を持て平野に漂ひ、我國民の爲め米國未開の地を完全なる領土に仕上げた者は即ち我國民に一定不動の形體を與へたものである、又た彼等の示して居るところの大膽、忍耐、並に洞察力ある性質と、且つ勝利を得んとする熱望心と、敗衂を免れんとする頑强なる抵抗心を持て居る性質は、何れも能く米國人の特有する豪勇の氣性を形成せしめたものである、就中彼等は實際に於て、米人生活の成功の原則を認めて居る、即ち高尙

中。

worthy work, the law of high, resolute endeavor.

It seems to me that the simple acceptance of this fundamental fact of American life, this acknowledgment that the law of work in the fundamental law of our being, will enable us to start aright in facing not a few of the problems that confront us from without and from within. As regards internal affairs, it should teach us the prime need of remembering that after all has been said and done, the chief factor in any man's success or failure must be his own character; that is, the sum of his common sense, his courage, his virile energy and capacity. Nothing can take the place of this individual factor.

There are excellent people who believe that we can shirk these duties and yet retain our self-respect; but these good people are [7]in error. Other good people seek to deter us from treading the path of hard but lofty duty by bidding us remember that all nations that have achieved greatness, that have expanded and played their part as world powers, have in the end passed away. So they have; so have all others. The weak and the [8]stationary have vanished as surely as, and more rapidly than, those whose citi-

【74―註】 7 間違つて居る。 8 停滯不動のもの。

なる事業の原則、高尙にして果斷を要する努力の原則を認めて居るのである。

斯くの如く、米人生活の根本的事實を單純に承認すること、即ち事業に關する原則は、我等の存在する根本的原則に外ならずと云ふことを認めるのは、我等をして國の內外を問はず、各方面より起り來る多くの難問に當る爲めに立つことを得せしむるものであるやうに思はれる、國內の事例に就て云はんに、人が何事も云ひ盡し、且つ實行したる後に於て、其人の成功、不成功を定める主なる力は、其人の品性の如何に外ならず、即ち其人の常識、勇氣、男子的精力と力量の如何に依ることを記臆するの必要なるべきを我等に知らしめるものである、而して天下何物も此個人的の力に代るものはないのである。

或特種の人々にして「吾人は義務を完全せざるも、尙ほ自尊心を保つことが出來る」と信ずるものがある。けれども皆間違つて居る、又た他の人々は「凡て國民にして强大となり、或は世界の列强として立ち働くことが出來るも、遂には滅亡し去るに過ぎず」と吾人に誨へ、以て困難なるも高尙なる義務の道筋を步むことを避けしめんと努めるものもある、此種の人々は斯くの如きことを爲し、又た他のものも之れと同樣のとをしたのである、元より貧弱の小國及び停滯不働の狀態に在る國は、偉大なる高尙なる努力をなさしむ

zens felt within them the lift that impels generous souls to great and noble effort.

This is another way of stating the universal law of death, which is itself part of the universal law of life. The man who works, the man who does great deeds, in the end dies as surely as the veriest idler who cumbers the earth's surface; he leaves behind him the great fact that he has done his work well. [9]So it is with nations. While the nation that has dared to be great, that has had the [10]will and the power to change the destiny of the ages, in the end must die, yet no less surely the nation that has played the part of the weakling must also die; and, whereas, the nation that has done nothing leaves nothing behind it, the nation that has done a great work really continues, [11]though in changed form, forevermore. The Roman has passed away, exactly as all nations of antiquity which did not expand when he expanded have passed away; but their very memory has vanished, while he himself is still a living force throughout the wide world in our civilization of to-day, and will so continue through countless generations, through untold ages.

【74—註】 9 國民も亦た然りである、即ち人間は大事事業をするものは其死後に功績を殘すのであるけれども と同樣である。 10 時代の運命を變更すべき意志と力。

るに至るところの補助物の必要を感じた國民と全樣に滅亡するか、或は又た之れより迅速に滅亡し去つたとであらう。

此事は生命と云ふことに就ての一般の原則たると同時に、又た死と云ふことに關する一般の原則を說明する方法である、即ち能く働き、能く努むる人も、能く大事業を起す人も、結局は世を棄したる惰者と同樣、死を免ることが出來ないのは確である、されども斯る人物は其死後に於て、其偉業を全ふしたと云ふ事實を後世に傳へるのである、又た國民に於ても之れと同樣であつて、大國民たらんことを努め、或は時代の運命を轉換せんとする意志と力を持て居る國民も、結局に於ては滅亡することを免れないけれども、又た貧弱國として立働いた國民の如きも、到底滅亡を免れないのである、斯くの如く滅亡を免れないと云ふことは同樣であるけれども、而かも何等の特色なく、何等の事業をなさゞるものは、其滅亡後何等の遺跡をも後世に傳へてない、然るに偉業を樹てた國民は、假令其形は變つて居ても、實際は永久に繼續するものである、諸君、羅馬人を見よ、羅馬人も亦た膨脹すべき時に膨脹しなかつた古代の國民が滅亡した如くに、滅亡したのであつたが、假令其記憶は人心より消失したにもせよ、羅馬人は今日尙ほ全世界に於て文明の活動力となり、後世幾千年を經るも、幾時代を累ぬるも、決して其力を失ふことなく、繼續するであらう。

業をするものも惰者も何れも死を免れないのであるが、大惰者は何等のものを殘さないのである、國民も矢張り之れ

11　形は變つて居ても。

It is because we believe [12]with all our heart and soul in the greatness of this country, because we feel the thrill of hardy life in our veins, and confident that to us is given the privilege of playing a leading part in the century that has just opened, that we hail with eager delight the opportunity to do whatever task Providence may [13]allot us. We admit with all sincerity that our first duty is within our own household; that we must not merely talk, but act, in favour of cleanliness and decency and righteousness, in all political, social and civic matters. No prosperity and no glory can save a nation that is rotten at heart. We must ever keep the core of our national being sound, and [14]see to it that not only our citizens in private life, but above all our statesmen in public life, practice the old commonplace virtues which from time immemorial have lain at the root of all true national well-being. Yet while this is our first duty, it is not our whole duty. Exactly as each man, while doing first his duty to his wife and children within his home, must yet, if he hopes to amount to much, strive mightily in the world outside his home; so our nation, while first of all seeing to its own

---

12 with all our heart 熱心に。 13 割當てる。 14 see

諸君、我等は神が我等に與へ給ふ如何なる事業にても、之に從事するの機會を逸することなく、喜んで、熱心に、之を迎へることは、何が故であるか、即ち我等が滿腔の精神を以て、我米國の偉大なることを信ずるが故である、即ち我等の血管中には奮闘的生活の精神が溢れて居ることを覺悟する故である、即ち當二十世紀に於て大活動をすることが出來ると云ふことを確信して居る故である、又た我等は我等の本務とするところは、眞に我國內の事に在ること、我等は政治的、社會的、國民的の事柄に關しては廉潔、率直、正義と云ふことに從ひ、只だ口で云ふばかりでなく、實行するに在るべきことを認むるのである、故に如何なる隆盛に進くも、又た如何なる名譽を得るも、此等は心中腐敗して居る國民を救ふことは出來ない、我等は常に國民的の心髓を穩健にし、私人生活の人民ばかりでなく、特に公人生活の政治家に至るまで、遠き古より凡ての眞乎たる國民としての根據となつて居る古よりの通俗的道德を實踐しなけばならぬことを心掛けるべきである、されども之れのみを以て我等の第一の義務とすべきにあらず、之れのみを以て全體の義務とすべきにあらず、人は何れも家庭內に在りては、妻子に對する義務を第一とするも、多くを求めんとするならば、外部の世間に向て活動せざるべからざるが如く、我國民も之れと同樣にして、國內の安寧を計るのと同時に、

to it 注意する。

domestic well-being, must not shrink from [15]playing its part among the great nations [16]without.

75 戰爭に

I [1]ask your attention to the subjet of public war. I am aware that to [2]some this topic may seem to have political bearings, which render it unfit for the pulpit; but to me it is eminently a moral and religious subject. In approaching it, political parties and interest vanish from my mind. They are forgotten amidst the numerous miseries and crimes of war. [3]To bring war to an end was one of the purposes of Christ, and his ministers are bound to concur with him too in [4]the work.

* * * * *

Still war is made up essentially of crime and misery, and to abolish it is one great purpose of Christianity, and should be earnest labour of philanthrophy. The tendencies of

【74—註】 15 playing its part 働く。 16 外部の。
【75—註】 此の一篇は有名なる米國ユニテリアン協會
る。 1 I ask your attention 注意を乞ふ。 2 to some 或
ち to stop の意である。 4 in the work 其事業に在りて、

又た外部の大國民の間に立ちて、活動することを辭するが如きことあつてはならぬのである。

就て論ず。

神學博士　チアンニング

戰爭と云ふ題に付き諸君に注意せんとす、余は此題は說教として不向の政治的態度を備へて居るやうに思はれるならんと氣遣ふて居るけれども、余に取つては最も道德的の、宗教的の問題である、此問題に說き及ぶに當り、政治上の黨派と利害關係は全く余の腦裡を去り、戰爭より生ずる不幸と罪惡とを思ふならば、決して彼等を考ふるの餘地を失ふに至るのである、抑々戰爭を止めると云ふことは、基督の目的の一に數ふべきものであつて、其教を傳ふる者の如きも、戰爭を止める事には、何れも基督に一致すべきものである。

＊　＊　＊　＊　＊

而かも戰爭は其實質に於て罪惡と不幸とより出來て居るから、之を廢止することは基督教の大目的であつて、熱心なる慈善的事業である、又た文明の傾向は主として平和と云

の牧師チアンニング氏の『戰爭』と題する說教の一節てあ
人に取ては。 3　to bring.........to an end　止めるとは、即
即ち戰爭を止める仕事。

civilization are decidedly towards peace. The influence of progressive knowledge, refinement, arts, and national wealth, are pacific. The old motives for war are losing power. Conquest, which once maddened notions, hardly enters now into the [5]calculation of statesmen. It is now thoroughly understood that the development of a nation's resources in peace is the only road to prosperity; that even successful war makes a people poor, crushing them with taxes and [7]crippling their progress in industry and useful arts. Science, commerce, religion, foreign travel, new facilities of intercourse, new exchanges of literatures, new friendship, new interests, are overcoming the old antipathies of nations, and are silently spreading the sentiment of human brotherhood, and the conviction that the welfare of each in the happiness of all.

At the present day, one of the chief incitements to war is to be found in false ideas of honor. Military prowess and military success are thought to shed peculiar glory on a people; and many, who are too wise to be [8]intoxicated with these childish delusions, still imagine that the honor of a nation consists peculiarly in the spirit which repels

---

【48—註】 5 考。 6 成功した戦爭でも。 7 不具に

ふ方に赴いて居て、進歩的智識の文學の、美術の力、國民的の富は、何れも平和的ならざるはなく、戰爭に對する從來の動氣は絶えず其勢力を失ひつゝあるのである、故に曾ては各國民をして狂奔せしめたARC略と云ふことは、今や殆んど政治家の眼中に置かれざることゝなり、一國民の平和時代の財力の發達は、其國民が隆盛に赴くべき唯一の經路なると、及び成功したる戰爭ですら租税にて人民を苦しめ、工業及び有益なる技術の進歩を妨ぐものなりと云ふとを了解するやうになつて來た、又た學術、商業、宗教、外國旅行、新なる交通の便、文學の新なる交換、新なる友情、新なる利害の生じたるとは、從來各國民の間に行はれて居た反目を抑制し、默々の裡に同胞主義の感情と、一人の安寧は全體の幸福なりと云ふ確信を廣く行はれしめつゝあるのである。

今日の時代に於て、戰爭に對する主なる刺激物の一は、名譽に對し間違つた考を抱いて居ることである、軍事に關する勇氣と成功とは、國民に特別の譽を與へるものと思はれて居る、即ち斯る小兒に等しき誤見にて迷はされて居る多數の者は、今尚ほ一種の想像を逞ふし、國民の名譽は國民の害を除くの元氣と、國民の禍を知ることゝにあるが故に、武

する。8 心除して。

injury, in sensibility to wrongs, and is therefore peculiarly committed to the keeping of the sword.

* * * * *

I close with asking, "Must the sword devour for ever? Must force, fear, pain, always rule the world? Is the kingdom of God, the reign of truth, duty, and love never to prevail? Must the divinity in man's nature never be recognized with veneration? Is the earth always to steam with human blood shed by man's hands, and to echo with groans wrung from hearts which violence has pierced? You say we are weak; and why weak? It is from inward defect, not from outward necessity. We are inefficient abroad, because faint within--faint in love. and trust, and holy resolution. Inward power always comes forth, and works without. Noah Worcester, enfeebled in body, was not weak. George Fox, poor and uneducated, was not weak. They had light and life within, and therefore were strong abroad. Their spirits were stirred by Christ's truth and spirit; and,

器を持つの必要が生ずるのであると云ふことを考へて居るのである。

＊　＊　＊　＊　＊

余は次の如き問を起して、此演説を結ばんとするのである、即ち武器は永久人を居るの必要あるか、兵力と、恐怖と、苦痛は常に世界を支配するのであるか、神の國、眞理と、義務と、愛との支配は決して行はれないのであるか、人性中の神の如き性質は、尊敬を以て認められてはならぬのであるか、地球は人間が人間を殺して流した血で蒸發し、暴力を逞ふする者が刺した心臓より漏れ出る叫聲で響き渡るのであるか、諸君は我等は微弱なる者なりと云ふならん、何故に我等は微弱なるか、抑も我等が微弱なりと云ふものは、内心弱きところあるが故にして、決して外部の事より起つたのではない、我等が外部に於て弱きことは内心に弱きが故である、即ち愛にありても、信頼にありても、決心にありても、足らざるところがあるからである、要するに内部の力は外部に現はれて活動するものである、彼のノア、ウヲーセスターの如きは、身體の上に於て弱かつたけれども、決して弱き人でなかつた、又たヂオーヂ、フオツクスは貧乏であつて教育もなかつた、けれども決して弱き人でなかつた、此等の人々は心中光明を放ち、活氣を帶びて居たから、外部に於ても強かつたのである、彼等の精神は基督の眞理と精神を帶びて活躍して居るのであるから、彼等の云つたことは人の耳を傾けて、注意することゝなつて居た、然るに我

so moved, they spoke and were heard. We are dead, and therefore cannot act.

Deep moral convictions, unfeigned reverence and fervent love for man, and living faith in Christ, are mightier than armies. Go forth, then, friends of mankind, peaceful soldiers of Christ! and in your various relations, at home and abroad, in private life, and, if it may be, in more public spheres of universal justice and love, give utterance to your deep, solemn, irreconcible hatred of the spirit of war.

76 東洋

By the East I mean the whole of the countries lying both on the confines of Europe and beyond as far as the Pacific Ocean, which are inhabited by brown, or yellow, or bronze, or black skinned people, as distinct from the countries of the white races. The magnitude of the area involved may be indicated by the fact that it contains considerably more than one-half of the population of the world.

The East which I am examining to-day is not a picture nor an abstraction, but, if the

---

【76—註】此の一篇はカーゾン卿が明治四十四年一月
つた時、聖アンドリユ館に於てした就任演說である、カー
東洋の事情に精通した人である。

等は死んだのも同様であるから、活動することが出來ない
のである。

深遠なる道德上の確信、人に對する眞實の尊敬と、熱心なる愛情と、基督に對する活きたる信仰は、其力の上に於て軍隊より偉大なるものである、されば人類の友よ、基督の平和の武夫よ、進め、汝が關係する種々の處にありて、即ち内外到る處に、或は私人の生活上、或は正義と愛を廣く應用す場處に於て、戰爭の精神に對し、汝の深き、儼然として、犯すべからざる憎惡の念を起すべし。

と西洋。　　カーゾン

諸君、余の所謂東洋とは、歐羅巴に接續する國々と、夫れより遠く太平洋に延長して居る國々を意味するのであつて、白人種の住む國々より區別したる褐色人種、黃色人種青銅色人種、黑人種の住んで居る處を謂ふのである、而して其面積の廣大なることは、其人口が全世界の人種の過半數を占めて居る事實に徵して明である。

又た余が本日玆に研究する東洋は皮相的のもの若くは想像的のものでもなく、之に反して余が云ふが如くすれば、

廿五日法學博士の稱號を受け、グラスゴー大學の總長とな
ゾン卿は英國の政治家で、有名な國際法學者である、又た

language may be permitted, is a political and metaphysical being which for untold centuries has [1]been modelling and moulding, or being modelled and moulded by, the West. It is a necessary prelude to an adequate understanding of the present relations between East and West that I should attempt as brief a survey as may be found possible of their [2]reciprocal influence from the earliest date.

THE RUSSO-JAPANESE WAR.

Apart from the redistribution of the balance of power in the Far East—a direct reflection of which was the Alliance concluded between Great Britain and Japan in 1905—we may trace to the Russo-Japanese War a threefold result. In the first place, it has been accompanied by an immense addition to the moral confidence and the self-respect of Asia. Secondly, it brought to an immediate, and in some cases a premature, head movements or aspirations which were already germinating in many Oriental countries, and which have taken the unexpected shape of a demand for self-governing or representative institutions. Thirdly, it has compelled the West to pause and revise its [3]formulas.

【76—註】 1 has been......theWest 西洋を模範とし、又東西兩洋が相互に感化しあつたこと。 3 政治上の法式。

幾百年間西洋各國と互に範模となり、典型となり、共に此等を交換したる政治的にして精神的のものを指すのである、故に昔より今日に至るまで、互に及ぼして來た感化力に就て、出來得べき限り、簡短に其沿革を述べることは、西洋と東洋との現今の關係を明にし、能く之を了解せしむる上に於て、必要なる序幕である。

日露戰爭

直接の結果として、一千九百五年に日英同盟を締結するに至らしめたる彼の極東に於ける權力の平均を更に新にすると云ふ問題を離れ、我等は日露戰爭が三ケ條の結果を生ずる原因となつたとを推測するとが出來るのである、即ち第一日露戰爭に伴ふて、亞細亞の道德的信用と自尊心とを多大に增加せしめたること、第二日露戰爭は直接の又は或場合に於て倚早の主動、即ち强き慾望を生じたことであるが、此二者は何れも既に東洋諸國に其芽を出して居て、自治制、即ち代議制度の豫想せざる要求を生ずるやうになつたものである、第三日露戰爭は西洋をして餘義なく其攻略を差控へ、又之を改めしむるやうになつたことである。

た西洋より模範とせられたる。 2 their reciprocal in uence

RELIGION AND EDUCATION.

I [4]concur in the view that the East is unlikely to accept Christianity, for two main reasons. First, the religions of Asia give to it what the pagan mythologies did not give to Europe—namely, a definite and intelligible theory of the [5]relations of God to man, which satisfies the spiritual aspirations as well as the day-to-day requirements of the Oriental; and, secondly, the latter sees in the teachings of Christianity something [6]hostile to that revived self-consciousness. Even if he had no objection to the dogmatic teaching of Christianity, he would not consent to become a Christian at [7]the cost of ceasing to be an Asiatic. But I do not think that Christianity has therefore failed to justify itself, or that no work remains for it to perform. Everywhere it has exerted an immense, though silent, influence upon the morality of its environment, [8]however hostile. It has taught the East philanthropy; it may still teach it pity. And when the day comes in which the Eastern world shall address itself seriouly to the emancipation of woman, the Christian Church may be powerful both in aid and example. I turn to the influence of education. It would be a grotesque misreading

【76—註】 4 一致する。 5 神人の關係。 6 相容れ

宗教と教育

余は東洋が二個の主なる理由に依り、基督教を採用せざるべしと云ふ説に一致するものである、第一の理由としては、異宗教の神話が歐洲人に與へなかつたとを、亞細亞の宗教が亞細亞人に與へると云ふとである、即ち東洋人の精神的慾望と、日々の要求を滿足せしむる、彼の神人の關係に關する確立した、了解し易き學理のあると云ふとである、第二の理由としては、東洋人は基督教が自覺と相容れざるものを、其教義中に備へて居るのを知れることである、東洋人は基督教の獨斷的教理には敢て反對しないにしても、亞細亞たることを棄てゝまでも、基督教徒となるとを好まなかつたのである、されども余は基督教は其如何なるものであるかと云ふとを確めるとなく、又た基督教には最早や何の爲すべき事業もなしと思ふとが出來ない、基督教は其周圍の事情とは相容れざるにもせよ、到る處默々の内に、周圍に對して道德上多大の感化力を與へ、東洋に對し慈善とは何ぞや、憐恤とは何ぞやと云ふことを教へて居るのである、他日若し東洋が婦人の自由と云ふことを標榜する曉に至らば、基督教會は之れが應援となり、之れが先例となる上に

ざる。 7 at the cost……でも。 8 相容れざるにもせよ。

of facts to argue that Western education has not, on the whole, been attended with incalculable benefit to the East. The common share in this heritage of science would render it very difficult for the East successfully to shut itself off again from the West, or to pursue a [9]policy of selfish exclusion.

THE FUTURE.

The future will be affected by two among many other consideration. The first of these is the spread of population. Asia contains already nearly one-half of the population of the entire universe, and the greater part of this is not in any degree under the control of Europe. If India be added to it, the [10]disproportion becomes overwhelming. What the proportions may be in a century's time, or to what extent population may have reacted on politics, who can say?

The second consideration is concerned with the industrial future of the East. [11]Casting our eye over the whole of Asia, we shall roughly be able to divide it into three categories—those countries in which Asiatic supremacy appears to be irrevocably fixed; those in which European domination is solidly founded or is likely to be maintained for some

【76—註】 9 閉鎖主義。 10 不釣合。 11 觀る。

於て頗ぶる有力なるものとなるだらう、諸君、余は更に進んで教育の事に説き及ぶべし、抑も西洋風の教育が、大體の上に於て、東洋に對し多大の利益を備へて居ないと論ずることは事實を誤れるの悲しきものである、學術なるものが互に恩恵を施すことは、再び東洋諸國をして閉鎖主義を執ることを困難ならしむべきである。

東洋の將來

東洋の將來は就中二個の考によりて定まるのである、其一は、人口の繁殖である、抑も亞細亞の人口は巳に全世界の人口の殆んど半ばに亘り、其大部分は歐洲の支配を受けて居ない、若し東洋に印度を加へるならば、歐洲との人口の釣合は非常なる不平均を生ずることになるだらう、且つ亦た一世紀を經過する内には、如何なる釣合となるべきか、又た人口は如何なる程度に至るまで、政治に反動を生ずべきか、是れ決して豫想すべからざる問題である。

第二の考とは、東洋の工業の將來に關する問題である、抑も亞細亞全部を觀察するならば、概略之を三部に區別することが出來るだらう、即ち亞細亞風の主權が確立して居るやうに思はれる國々と、歐洲の統御權が確かに或期間は設定せられ、若くは多分維持せられる國々と、將來に於て或葛藤

time; those of which the future threatens to be troubled, and which are liable to become the theatre of renewed collision between East and West. Japan and China will belong to the first class; Siberia, Russian Central Asia, India, and Indo-China to the second; Afghanistan, Persia, Arabia, Asia Minor, and the entire Turkish Empire to the third. The islands, in so far as they can be grouped under a single heading, should probably be included in the third category.

CHINA.

As [12]regards the first class, the seer who could predict the relations of Japan and China a century hence would [13]hold the key to the future of the East. It appears to be certain that the dismemberment of China, which was proceeding with such fearful rapidity up till 1900, is arrested. The future of China in the next quarter of a century depends in the main upon the manner in which she works the new Parliamentary machine, if it be started, and on the degree to which it is found to have an astringent or a dissolvent effect insine the Empire. If she can preserve her internal unity and at the same time organize her forces for industry and commerce, she must

【76—註】 12 就て。 13 hold the key to.........知る、

が生じ、且つ東洋と西洋との衝突を再び生ずべき場所とならんとする傾ある國との三部である、思ふに日清兩國は第一に屬し、シベリア、露國中央亞細亞、印度、印度支那は第二に屬し、アフガニスタン、ペルシア、アラビヤ、小亞細亞、土耳其帝國全部は第三に屬するのである、又た其他一の項目の下に入れるに足る程の群島は、多分第三部に入れるべきである。

清國の將來

第一部に就て言はんに、百年後の日清兩國の關係を豫測することの出來た觀察者は、東洋の將來如何に就て充分に知ることが出來るだらう、思ふに清國の分裂は一千九百年までは頗ぶる恐るべき迅速の勢を以て行はれて居たが、今日では其事は止んで居るやうである、要するに今後廿五年間に於ける清國の將來は、若し同國が議會を新設するならば、之を活用する方法と、議會が帝國の內部を固める力とを持て居るか、或は分裂せしむるかの程度如何に依りて定まるのである、若し清國が內國の一致團結を保持し、同時に商工業に關する財力を整然たらしむるならば、假令其人民の

即ち鍵を所持して居るから、鍵で開けて知ることを云ふ。

become one of the greatest Powers in the world, though the self-centred and unwarlike character of her people renders it improbable that she will utilize this power for aggression. China contains enough unoccupied or thinly-peopled territory within her own borders to admit of at least double her present population.

THE NEEDS OF JAPAN.

The principal needs of Japan in the near future are to preserve her national virtues—self-sacrific, patriotism, simplicity—which are reported by keen observers to be in some jeopardy; to recover from the economic exhaustion of the war; to keep in check the growth of Socialistic doctrines among her industrial proletariat; and, as time passes on, to obtain by peaceful means, fresh outlets for her surpass population. For a while Korea, Manchuria, Saghalien may suffice for these purposes; but it is undeniable that the problem will become increasingly pressing; and, if the present attitude of America and the British [14]Oversea Dominions in prohibiting Asiatic [15]immigration be maintained, it may one day lead to conflict. The Philippines are somewhat perilously situated on a

【76--註】 14 海外にある領土。 15 移民、即ち他よ

自巳本位と非戰主義の性質が外部に向て進む力を用ゐることをなさしめざるにせよ、必ず世界の一强國となるに相違ない、又た淸國は其領土内に於て、未だ人の住んで居なかつたり、又た人口稠密ならざる土地を充分に持て居るが、斯る土地には尙ほ少くも現今の人口二倍を收容することが出來るのである。

日本の急務

近き將來に於ける日本の急務は、國民的道德の維持である、即ち銳敏なる觀察者が、稍や退步したりと報道して居る自巳の犧牲、愛國心、質素を維持すること、戰爭より受けた經濟界の衰退を挽回すること、下級勞働者間に社會主義の發生を防遏すること、追々時日の經過するに隨て、平和的手段に依り、過剩の人口の爲め、其新なる行き處を得ることである、勿論當分の間朝鮮、滿洲、樺太は此目的を達することになるけれども、而かも斯る問題は、益々切迫しつゝあるをは否定すべからずである、故に米國及び英國の海外の領土が、亞細亞の移民を禁止する態度が依然として維持せらるゝならば、他日之れが衝突を見ることは免れないのである、彼のフ井リツピン群島は日本が手を伸ばす上に

り入込むものを謂ふ、出稼することは emigration である。

not too remote horizon ; but they are within the tropical zone, where it is doubtful whether Japanese can settle and work. There seems to be an idea abroad that Japan and America will drift into ultimate collision ; but it would be a misfortune to the world. One thing is tolerably certain—viz., that in the future relatiodship between East and West, China and Japan (i. e., the entire Far East) will remain Eastern ; and that the west, which has probably already abandoned any dreams that it may once have indulged of territorial acquisition in this quarter, will be hard put to preserve its share of trade.

ENGLAND'S TASK AND CAPACITY.

For the task of harmonizing the interests of East and West, and preparing for the growth of that renovated but composite East which I forsee in the future, this country possesses exceptional qualifications. Our experience of the East is longer than that of any other Western Power ; our reputation still stands higher. When the East requires tuition or apprenticeship in the science of the West, it is to our officials and agents, or to America that she turns. We have also shown a practical sympathy with the East more valuable than words ; Great Britain was the

於て、餘り遠隔の地にあらざれば、其位置は稍や危險なれども、熱帶地に屬して居るから、日本人が能く移住して事業に從事するか否やは疑問である、又た日米兩國は結局衝突すべしとの說行はれて居るけれども、斯る事出來せば、世界の爲め一大不幸と云ふべきである、されども玆に一事確なことがある、即ち東西兩洋の將來の關係にて、日淸兩國(即ち極東全部)は依然として全く東洋となると同時に、已に東洋に對し土地占領と云ふことを斷念して居る西洋諸國は、東洋と貿易を共にすること出來なくなることである。

英國の務と資格

東西兩洋の利害關係を一致し、余が將來に於て洞察する改造したる、而かも團結したる東洋の發達に備へる務に就て、我英國は此上もなき資格を有て居るのである、抑も我英國は他の西洋諸國よりも、東洋に對しては永き經驗もあり、より大なる名譽もある、故に東洋が西洋に對して、學術上に關する敎導を乞ふ事あるときは、之れが依賴は我英國の官吏や、代表者、若くは米國に向てなすのである、又た我英國は言語にて盡し得べからざる實際の同情を亞細亞に及ぼしたものであつて、日本に於て初めて治外法權を放棄し、日本

first to give up the [16]rights of extra-territoriality in Japan, and to admit her to the comity of nations. She was the first Western country in modern times to make an alliance on terms of equality with an Asiatic Power. She has consistently led the van in concession to Asiatic sentiment or in marshalling Asiatic progress. All of these are great advantages; but, great as they are, their potentiality for good would be materially diminished, and might easily disappear, if it were once believed in the East that we are not prepared the sustain them with inflexible determination, and to uphold our traditional armed superiority in Asia—where necessary on land, and everywhere on the sea.

A CONCLUDING APPEAL.

Some of those whom I have the honour of addressing here may be called upon to play a part in the future evolution of the great drama which I have endeavoured to describe. If [17]so, I would ask them to bear in mind three things—never to look down upon the East or the Eastern; to remember that the progressive elevation of the East is still the noblest work with which the West is charged; and to realize that each individual European

【76—註】 16 治外法權。 17 果して然らば。

をして對等條約國たらしめたのは我英國である、又た英國は亞細亞の强國と均等の條件にて同盟を締結した初めての國である、故に英國は亞細亞の感情に讓步し、或は又た亞細亞の進步を支配する上に於て、喜んで其先鋒となつた、此等の事は皆な我英國に取つては非常なる利益である、而して其利益の多大なるが如く、又た我等には不撓の決心を以て、其利益を維持する準備なく、且つ亞細亞に於ける我國の歷史的軍事上の卓越、即ち陸海軍の卓越を保つ準備なしと云ふことが、東洋に於て少しにても信ぜらるゝことあらば、其利益が平和と云ふことに對して及ぼす効力は、實際に於て減少し、且つ容易に消失することあるかも知れない。

結論

茲に余の演說を聽いて居る諸君の中には、余が今ま云つた大活劇の將來の進步に參加することを促される人もあるだらう、果して然らば、余は此種の人々が、三ヶ條の事を常に注意し置かんことを希望するのである、即ち東洋若くは東洋人を蔑視すべからざること、東洋の進步的向上は西洋の關係すべき高尙なる事業なること、亞細亞に在る各歐洲人は、單に一兵卒にさらずして、其人種の爲めには旗手たるこ

in Asia is not merely a soldier, but a standard-bearer of his race. In a Chinese temple at Canton there stands a venerated gilt statue of a man with a benevolent expression on his features and a black hat on his head. He is supposed to be the Venetian Marco Polo, and to be thus honoured by the Chinese because he taught the West to understand and to respect the East. Be it yours, if you have the opportunity, to earn a similar reputation.

とを注意すべきである、諸君、廣東の支那寺に行て見よ、其容貌温和にして、頭部には黒帽を戴ける金塗の像が安置してある、これはマルコ、ポーロの像であるやうだが、支那人より斯くの如く尊敬を受けて居る、其理由は東洋を了解し、東洋を尊敬することを西洋に教へたからである、嗚呼、諸君にして若し機會あるならば、マルコ、ポーロと仝様の尊敬を受けよ。

第三編。

演說組立法。

(1) 式辭 (Toast) の組立法。

如何にして演說文を構成するかと云ふことは、或は單に一片の規則に止まるかも知れないが、初學者が一通り之を知て置くことは亦た利益ないではない、演說の全文を次の三部に分けて置く、

(1) 冒頭、

(2) 本論、

(3) 結論、

今ま簡單なる祝辭演說若くは乾盃の辭即ち Toast に依りて之を說明す、

(1) 冒頭、 卽ち此部にては文字が示す如く、辯士は其演說の目的を聽衆に知らしめ、且つ「………の健康を祝するの光榮を有すと云ふことを述ぶるのである、

(2) 本論、 此部に於て、辯士は聽衆が何故辯士の祝辭を受け、又た之に應ぜざるを得ざるかの理由を述ぶる、

(3) 結論、此部に於て、辯士は聽衆が起立し、其祝辭を共にせんことを、聽衆に促し、然る後之を結ぶのである、

今ま某會々長の健康を祝する乾盃の辭に依りて、之を說明することにした、

（第一例）

冒頭

Ladies and Gentlemen,

So great an honour is mine to-night in having to propose the toast of The Chairman that I might reasonably expect forgiveness were I to express my feelings of pride in prolonged and fulsome utterance.

If I refrain from so doing it is only because I am honestly jealous of every moment of my time that is occupied otherwise than in direct allusion to the distinguished subject of my toast.

本論

When we remember some of the numerous services Mr. Brown has rendered to us and to the public generally we gladly welcome opportunities like the present to express our appreciation and gratitude.

We especially esteem his presence amongst us to-night as affording tangible proof of his unwavering interest both in us and our aims. It is evident that despite the breadth of Mr. Brown's activities, and the consequent exceptional demands upon his time, he does not withdraw the friends of earlier days from the foremost place in his thoughts.

His strenuous life abounds in striking examples of sound judgment and strength of character, qualities which enable him from time to time so to take the flood in the tide of public affairs as to transform imminent failure into assured and conspicuous victory. His many virtues, embracing as they do a courtly and sympathetic tolerance for the opinions of those who differ from him, all seem to combine in presenting that type of broad-minded, level-headed Britisher, whom the civilised world esteems and our Empire delights to honour.

結論

And so, Ladies and Gentlemen, I present to you the toast of The Chairman, confidently expecting that it will be received at your hands with that degree of enthusiasm which the name of Mr. Brown is ever wont to arouse.

Ladies and Gentlemen—"The Chairman."........

以上は簡單なる toast に依りて說明を試みたものであるけれども、學校の賞品授與式に於ける來賓の演說を採り、先づ其梗概を示し、如何にして之を演說に組立てるかを說明しやう、

I 冒頭、
- (1) ブランク博士より招待狀を受けたこと、
- (2) 自己の追懐、
- (3) 招待狀に答へたこと、

II 本論（學校に關する實況を陳ぶること、
- (1) 學校
  - (イ) 生徒數、一七十五人より五百人に增加したこと、
  - (ロ) エドワード六世王の時代の狀況、
  - (ハ) 異動變遷、
- (2) 校長
  - (イ) 知名の人物、
  - (ロ) 壁間に掲げた記事、
  - (ハ) 現校長ブランク博士の成功祕訣、
- (3) 敎職員
  - (イ) 手腕、
  - (ロ) 熟練、
- (4) 生徒
  - (イ) 試驗員の報告、
  - (ロ) 賞品
    - 受領者。
    - 之を受領せざる者、
  - (ハ) 世の中にて受くべき賞品、
  - (ニ) 將來に於ても學校を忘れざること、

III 結論、
- (1) 間接に學校に說き及ぶこと、
  - (イ) 父兄、
  - (ロ) 遊技、
- (2) 終に臨んで與ふるの辭（ネルソンに說き及ぶこと）、

（第二例）

招待を受けたこと、

When some two or three weeks ago I received a letter from Doctor Blank, the Headmaster of this School, asking me if I could be present here to-day to take an active part in the proceedings, my delight was unbounded.

自己の感想、即追懐、

I recalled to memory with what delight it was that, as a boy, I used to look forward to the annual distribution of prizes, and I felt a distinct desire to take advantage of the opportunity, so kindly afforded me, of sharing with the boys of this school some of pleasure as would be derived by the boys who were to receive them.

實況

Contemplating the fact that there are upward of 500 boys now being educated in the school, most of whom I am glad to be informed are present here to-day, it is an interesting thought that the endowment was originally intended to educate only seventy-five boys. That was in the reign of Edward VI., and it is most satisfactory to know (indeed, it is a circumstance of which the school may be justly proud) that the building in which those first seventy-five boys were educated not only remains stand-

ing at the present time, but constitutes a most useful wing in the magnificent pile of buildings of which the school now consists.

Since those early days of learning, when the youthful and pious monarch I have named engaged so earnestly in planting fertile seeds of popular education, the School has undergone many changes of a gradual evolutionary character.

Its Headmasters have been men of mark: their names are recorded by eminent historians in association with many fierce conflicts in the cause and progress of education.

The present Headmaster, Dr. Blank, possesses rare qualities. Glance at the records of Dr. Blank's work (covering a period of twenty years) tabulated upon the walls of this very hall in which we are now assembled. If you do so you will see that the extraordinary successes which the boys of this school have made are there deservedly recorded in letters of gold upon the various tablets.

I cannct pretend to know the secret of Dr. Bank's success with the boys of the school but I *do* happen to know

that he takes the trouble personally to examine each individual boy in the school, at regular intervals, in every subject which the boy is studying in the particular form to which he is attached. Dr. Blank has done more than maintain the excellent and honoured traditions of the school (though that had been surely enough); he has distinctly raised its standard and character. Under this guidance and supervision the school has developed into a great educational establishment.

Unlike some headmaster he does not rule by fear but by genuine affection. This admirable example of Dr. Blank's actuates the methods adopted by every one of his assistant masters, with some of whom it has been my pleasure to converse upon this very topic.

I congratulate the school most heartily upon its good fortune in having the services of so capable a staff of teachers. I am informed that these gentlemen, quite apart from the distinctions they have gained at the Universities, are each qualified in the difficult art of teaching; they are trained teachers, all of them; teachers who

have proved themselves to be capable of imparting the knowledge which they possess.

This circumstance is one of inestimable advantage to the boys, for instead of mental confusion arising from the endeavours of an untrained teacher trying in vain to impart his knowledge, the boys quickly grasp their teachers' meaning and more easily retain the instruction given.

We were told in the Examiners' Report, which was read to us a few minutes ago, that all the boys throughout the school have done exceptionally well in general subjects. Certainly, the large number of magnificent prizes before me, which it will soon be my pleasure to distribute, augurs well that the claims for remards have been somewhat numerous.

Those boys who have won these handsomely bound literary treasures I heartily congratulate, and I sincerely hope that these successes which they have so deservedly achieved may be the precursor of many others.

To those boys who have tried to win a prize and have not been successful in

doing so this year, I would like to say that your present misfortune is no excuse whatever for despair. You do wrongly if you regard your year's work as having terminated in failure. If you have worked hard during the year you are not a failure, for although your honest endeavours are not to be materially rewarded at my hands to-day, a brave continuance of your efforts is bound to bring you ultimate recompense in a form that perhaps you least expect but most desire.

將來の心得、

Let every boy whom I now address remember this: there are prizes waiting for you all in the great world outside the walls of this building. The harder you now work the more easily will those prizes be won, and in those years which are to come the remembrance of your old school will stimulate your determination never to be beaten. Both now, as well as at that future time, be jealous of the honour of your school. Maintain it religiously in your every deed, in your every word. Let me tell you that by the time you have completed your period of years at this school you will have accumulated such

obligations to the school as you can never repay.

間接學校に說き及ぶこと、

Before saying my final word to the boys may I address myself, for one minute only, to parents? Dr. Blank would be able to whisper to you that I am exceptionally well qualified to do so. I want to suggest that it should be your constant charge to watch with keenness and with interest the educational advancement of your sons, and where backwardness is detected in some particular branch of study look to it that the defect is at onee remedied and the discovered backwardness transformed into satisfactory advancement.

Do not expect the schoolmaster to perform your share of the work as well as his own. However much the schoolmaster may be able to accomplish there yet remains a great deal for the parent to do—a great deal that only the parent *can* do. It behaves us, then, to enter into a boy's difficulties with sympathetic interest and to give him all the practical aid that we can.

We know that sympathy is the key to a boy's heart: this being so, it is a

remarkable circumstance that so few fathers ever take the trouble to try the experiment.

I venture to insist that to watch over the gradual development of a boy's mind interest, with patience, and with sympathy is a parental duty of the very highest importance.

But the collaboration of schoolmaster and parent does not end here, for there is the boy's physique to be cared for. We dare not close our eyes to the requirements of the body—to the need for muscle.

True it is that the brain is master of the body, but the body must be strong and healthy if the brain is to realise its maximum possibilities. Between the mind and the body there must be complete sympathy—a trained mind needs a healthy body.

The boys of this school are to be congratulated that chance has placed them where physical training is entered upon with no less enthusiasm than the development of the mind.

A few minutes ago we were told that this school has secured more "passes" in various examinations

during the past year than any other Metropolitan School.

I joined in the applause with which the statement was met—I wished to associate myself with your approval—but the statement itself did not occasion me the least surprise, because I had previously been given to understand that the School's achievements in the Athletic Field during the same period of time have established a record. I unhesitatingly affirm that the secret of the School's extraordinary success in competitive examinations is revealed in those record achievements in the playing field.

結論 Now my last word belongs, as promised, exclusively to the boys. In its utterance I shall refer to a figure in English history; a figure whose life and death deservedly fascinate the mind of every British lad:—Nelson, the darling hero of his age. He it is, boys, of whom I speak. And I say that although I may not all be called upon to lay down your life for your country, as Nelson was, nevertheless you will each have battles to fight and to win. It is said that when Nelson lay dying in the cockpit

of the Victory he breathed a prayer of thankfulness to Almighty God that he had fulfilld his duty. The indomitable pluck of the man, his stability of character during life, and heroism in the hour of death, continue still to inspire English boys to aim at great and noble deads, "to fear God, honour the King," and, last of all, to offer themselves as a willing self-sacrifice at the nation's call. May every boy whom I now address determine, with an unwavering resolve, so to fill his allotted task in life, that when "the night cometh, when no man can work" he may be able to say as fully and confidently as Nelson did "thank God I have done my duty."

(2) 普通演說の組立法、

以上は Toast に就て說明したものであるが、普通の演說にあつても、亦た冒頭 (introduction)、本論 (discussion)、結論 (conclusion) の三部に分けることがある、

(1) 冒頭の目的は辯士と聽衆との關係を附けること、本論に移る準備をなすことゝに在るのである、若し聽衆中辯士に對し悪感を抱き、若くは最初より其演說に妨害を加へんとするものある時は、之に對して最初より充分の豫防をすることが必要である、即ち辯士は此冒頭に於て、自己が演

說せんとする大要を話すのである、尤も聽衆の種類も能く分り、妨害を加へられないことが、最初より分つて居るときは、敢て斯る形式的の冒頭を設け、時間を費す必要もないのである、故に冒頭を設けることは、時と場合に應じてすべきである、彼の米國の政治家ウキリアム、エイチ、シーウアード氏の如きは The Irrepressible Conflict と云ふ題の下に其好適例を與へて居る。

（第一例）

The unmistakable outbreak of zeal which occur all around me, show that you are earnest men—and such a man am I. Let us, therefore, at least for a time, pass all secondary and collateral questions, whether of a personal or of a general nature, and consider the main subject of the present canvass. The Democratic party, or, to speak more accurately, the party which wears that attractive name—is in possession of the Federal Government. The Republicans propose to dislodge that party, and dismiss it from its high trust.

The main subject, then, is, whether the Democratic party deserves to retain the confidence of the American people. In attempting to prove it unworthy, I think that I am not actuated by prejudices against that party, or by prepossessions in favour of its adversary; for I have learned, by some ex-

perience, that virtue and patriotism, vice and selfishness, are found in all parties, and that they differ less in their motives than in the policies they pursue.

以上は聽衆が敵意を抱いて居るときに用ゐる豫防である、されども聽衆の態度が辯士に對し冷淡であつて、其演說に餘り興味を感じて居ないときは、辯士は少からざる困難を感じなければならぬ、斯る場合に辯士は種々の方法に依り、聽衆の興味を惹起すより仕方はないのである、例へば其演中古人の逸話に關係したことを挿むも一法である、又た時事問題に說及ぶも一策である。

又た聽衆が辯士に對して敵意を抱いて居るときに方り、辯士の態度が落付いて居て、充分の威嚴を備へて居るならば、大に聽衆の同情を得るやうになるのである、抑も聽衆が辯士に對し、敵意を抱き、惡感を持て居ると云ふことは、槪して誤解より生ずるのである、故に此誤解を除くことは、即ち敵意を除くことになるのである、而して此目的を達するには、辯士に於て熱心と云ふことが必要である、辯士が熱心と勇氣とを以て、敵意を居いて居る聽衆に打勝つた例は、ヘンリイ、ワード、ビーチアー氏のリヴアプール市に於ける演說を見て知るべきである、同氏は激烈なる迫害を受けたにも拘らず、三時間に亘る長演說を無事に押し通したが、其演說は次の如きである。

(第二例)

For more than twenty-five years I have been made perfectly familiar with popular assemblies in all parts of my country except the extreme South. There has not for the whole of that time been a single days o' my life when it would have been safe for me to go south of Mason's and Dixon's live in my own country, and all for one reason : my solemn, earnest, persistent testimony against that which I consider to be the most atrocious thing under the sun—the system of American slavery in a great free republic. (cheers.) I have passed through that early period, when right of free speech was denied to me. Again and again I have attempted to address audiences that, for no other crime than that of free speech, visited me with all manner of contumelious epithets ; and now since I have been in England, although I have met with greater kindness and courtesy on the part of most than I deserved, yet, on the other hand, I perceive that the Southern influence prevails to some extent in England. [applause and uproar] It is my old acquaintance ; I understand it perfectly [laughter], and I have always held it to be an unfailing truth that where a man had a cause that would bear examination he was perfectly willing to have

it spoken about. [applause] When in Manchester I saw those huge placards, 'Who is Henry Ward Beecher? [laughter, cries of 'Quite right,' and applause]--and when in Liverpool I was told that there were those blood-red placards, purporting to say what Henry Ward Beecher had said, and calling upon Englishman to suppress free speech—I I tell you what I thought. I thought simply this—'I am glad of it.' [Laughter] Why? Because if they had felt perfectly secure that *you* are the minions of the South and the slaves of slavery, they would have been perfectly still. [applause and uproar.] And, therefore, when I saw so much nervous apprehension that, if I were permitted to speak [hisses and applause]—when I found they were afraid to have me speak [hisses, laughter, and 'No, no'],—when I found that they appealed from facts and reasonings to mob law [applause and uproar], I said: No man need tell me what the heart and secret counsel of these men are. They tremble, and are afraid. [applause, laughter, hisses, 'No, no,' and a voice: 'New York mob.'] Now, personally, it is a matter of very little consequence to me whether I speak here to-night or not. [Laughter and cheers.] But one thing is very certain—if you do permit me whether I speak here to-night you will

hear very plain talking. [Applause and hisses.] You will not find a man [interruption],—you will not find me to be a man that dared to speak about Great Britain three thousand miles off, and then is afraid to speak to Great Britain when he stands on his shores. [Immense applause and hisses.] And if I do not mistake the tone and the temper of Englishmen, they had rather have a man who opposes them in a manly way [applause from all parts of the hall] than a sneak and agrees with them in an unmanly way. [Applause and 'Bravo.'] If I can carry you with me by sound convictions, I shall be immensely gland [applause]; but if I cannot carry you with my by facts and sound arguments, I do not wish you to go with me at all; and all that I ask is simply *pair play*. [Applause, and a voice: 'You shall have it, too.'] Those of you who are kind enough to wish to favour my speaking—and you will observe that my voice is slightly husky, from having spoken almost every night in succession for some time past—those who wish to hear me will do me the kindness simply to sit still and to keep still; and I and my friends the Successionists will make all the noise. [Laughter]

There are two dominant races in modern history. The Germanic and the Romanic

races. The Germanic races tend to personal liberty, to a sturdy individualism, to civil and to political liberty. The Romanic race tends to absolutism in government; it is clannish; it loves chieftains; it develops a people that crave strong and showy governments to support and plan for them. The Anglo-Saxon race belongs to the great German family, and is a fair exponent of its peculiarities. The Anglo-Saxon carries self-government and self-development with him wherever he goes. He has popular Government and popular Industry; for the effects of a generous civil liberty are not seen a whit more plain in the good order, in the intelligence, and in the virtue of a self-governing people, than in their amazing enterprise and the scope and power of their creative industry. The power to create riches is just as much a part of the Anglo-Saxon virtues as the power to create good order and social safety. The things required for prosperous labor, prosperous manufactures, and prosperous commerce are three. First, liberty; second, liberty; third, liberty. [Hear, hear.] Though these are not merely the same liberty, as I shall show you.

ビーチアー氏が以上の演說をするに先ちリヴアプール市に於ては、到る處に、仝氏の演說に反對せんとの貼札を揭げ

たものがあつた位なれば、仝氏の此演說の初の部分は、大分攻擊を受けたのであつたが、併し終の方では「ヒヤ」「ヒヤ」の聲を以て迎へられ、遂には英國人が奴隷制度に就て抱いて居つた態度を、一變せしめるやうになつたのである、

又た米國の雄辯家ヂオーヂ、ウヰリアム、カルチス氏が一千八百五十六年ウエスレーアン大學の文學會に於て、The Duty of the American Scholar (米國學生の本分) と云ふ題を設けて、爲した演說は、冒頭の適例として見るに足るべきものである、

(第三例)

Gentlemen: The summer is our literary festival. We are not a scholarly people, but we devote to the honor of literature some of our lovelist days. When leaves are greenest and the mower's scythe sings through the grass, when plenty is on the earth and splendor in the heavens, we gather from a thousand pursuits to celebrate the jubilee of the scholar.

No man who loves literature, or who can, in any way, claim the scholar's privilege, but is glad to associate the beauty of the season with the object of the occasion, and grace with flowers and sunshine and universal summer the homage which is thus paid to the eternal interests of the human mind.

We are glad of it, as scholars, because the season is the symbol of the character and influence of scholarly pursuits. Like sunshine, a spirit of generous thought illuminates the world. Like trees of golden fruit in the landscape are the philosophers and poets in history. Happy the day! Happy the place! The roses and the stars wreathe our festival with an immortal garland.

Too young to be your guide and philosopher, I am yet old enough to be your friend. Too little in advance of you in the great battle of life to teach you from experience of other men and of history. I do not come today a mounted general. I hurry, at your call, to place myself beside you, shoulder to shoulder, a private in the ranks. We are all young men; we are all young Americans; we are all young American scholars. Our interests and duties are the same. I speak to you as to comrades. Let us rest a moment, that we may the better fight. Here, in this, beautiful valley, under these spreading trees, we bivouac, for a summar hour. Our knapsacks are unslung and our arms are stacked. We give this tranquil hour to the consideration of our position and duties.

The occasion prescribes my theme; the times determine its treatment.

That time is the scholar ; the lesson of the day is the duty of the American scholar to politics.

(2) 本論. 正式の冒頭を要する演說にあつて、如何なる部分に冒頭が終り、又た如何なる處にて本論が始まるかを、明確に區劃を立てることは頗ぶる困難である、實際上の考を以て云ふならば、辯士が冒頭を述べて居る内に、聽衆の心が辯士の考に移ることを、辯士に於て認めたときに、辯士は徐々として本論に移るのである。

本論は其文字が示す如く、演說中最も必要なる部分である、故に辯士に於ては、綜合約の、組織的の技倆が必要であつて、一と通りの主意を定め、之れが周圍には、種々の議論や、種々の事實を集め、之を一と纏めにすべきである、如何なる事情あるも、偏見誤謬に陥る如きことなく、此等に代ふるに、確固たる眞理を以てすべきである、玆に於て辯士には、論理學や、修辭學上の知識が必要になつて來るのである、

要するに、演說の缺くべからざるところは、事實と論理とを常に能く一致せしむるに在るのである、聽衆をして興味を感ぜしむる種々の事實を、確立したる論理的方法に依り、能く之を取纏むべきである、左りとて、又た無數の小區分を生じ、徒に枝葉に亘る如き點にまで論及し、聽衆をして其止まる處を知るに苦む如き感を抱かしむることは、辯士の爲め最も不得策である故に、可成小區分に分つことを少數にすべきである。

(3) 結論、 結論には二個の目的がある、 即ち其一は本論の各要點を總括すること、今まー一つは直接聽衆の心情に訴へ、聽衆を刺激することである、或人は演說の結論に對する心得に就て次の如く云つて居る、After having imparted his feelings and thoughts to the listener, he must also make them partakers of his will. He must imprint his personality upon them.................so that they shall feel, think, and will as he does, in the interests of that truth and excellence of which he has brought home to them the manifestation. He must not take leave of his audience till he has touched, convinced, and carried it away と

要するに結論は本論よりより生ずる自然の結果である、故に充分熱心なる力を籠めて、本論の主旨を一層明確に繰返すのである、結論は確實を尊ぶべしと雖も、而かも簡に過ぎてはならぬ、簡單を尊ぶべしと雖も、而かも充分なる力を備へ、且つ熱心に富まなければならぬ、然るに何等の力なく、熱心なく、只だ本論を反覆することは、聽衆の興味を損し、其嘲笑を買ふに過ぎなくなるだらう、故に折角の雄辯も、其結論の不充分なることよりして、本論の主旨を充分聽衆に感ぜしむること能はざる場合も生ずるのである、

彼の米國の雄辯家ウエブスター氏の秘訣は本論の後に最も强き調子を以て結論を述べ、盛に聽衆を感動せしむるのである、次にウエブスター氏が此方法に依りて成功したる適例とも謂ふべき、彼のワシントンを稱贊した演說を示したから、之に依りて結論の如何なるものなるかを知るべし、

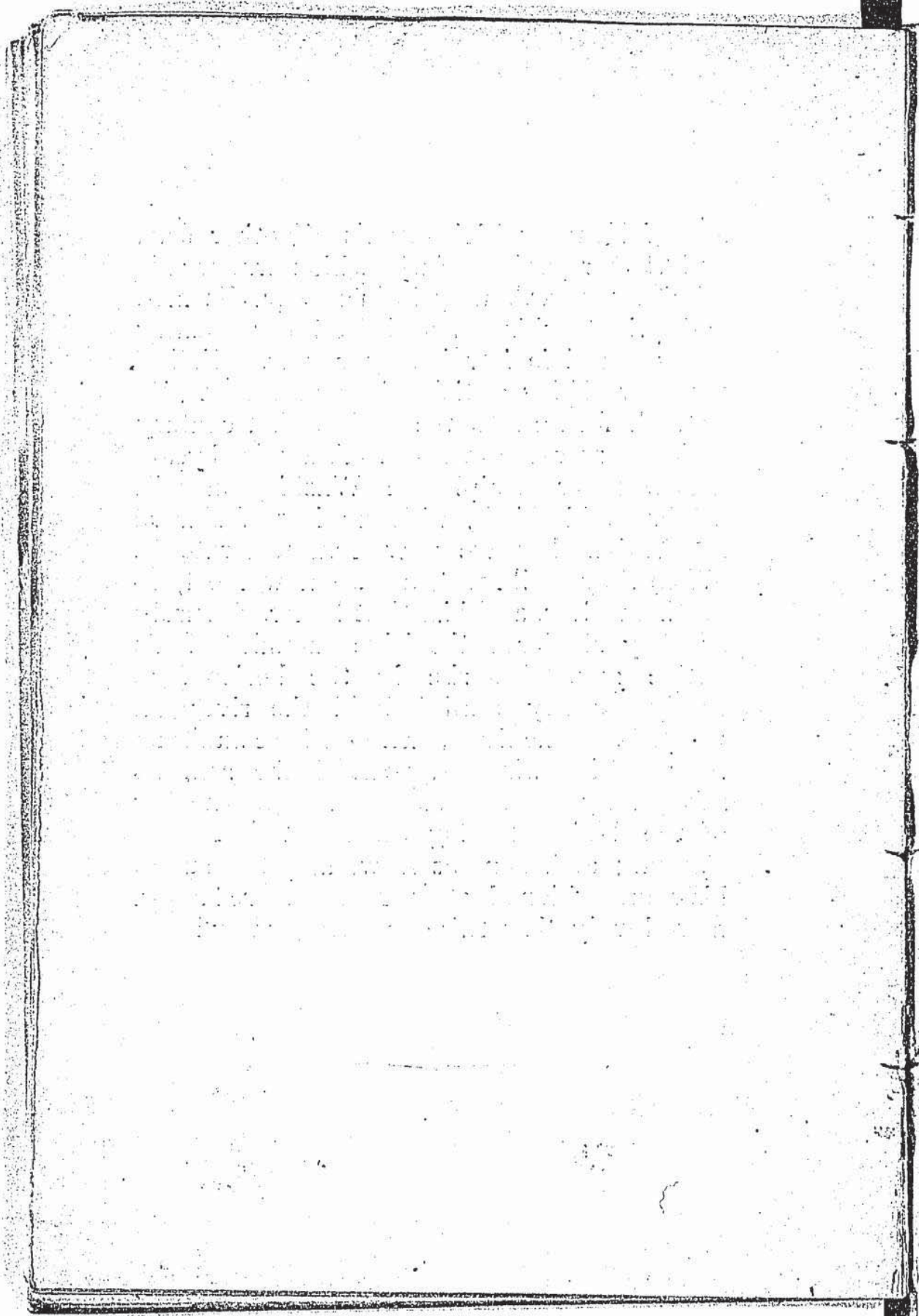
(第四例)

Gentlemen, the political prosperity which this country has attained, and which it now enjoys, has been acquired mainly through the instrumentality of the present government. While this agent continues, the capacity of attaining to still higher degrees of prosperity exists also. We have, while this lasts, a political life capable of beneficial exertion, with power to resist or overcome misfortunes, to sustain us against the ordinary accidents of human affairs, and to promote, by active efforts, every public interest. But dismenberment strikes at the very being which preserves these faculties. It would lay its rude and ruthless hand this great agent itself. It would sweep away, not only what we possess, but all power of regaining lost, or acquiring new possessions. It would leave the country, not only bereft of its prosperity and happiness, but without limbs, or organs, or faculties, by which to exert itself hereafter in the pursuit of that prosperity and happiness.

Other misfortunes may be borne, or their efforts overcome. It disasterous war should sweep our commerce from the ocean, another generation may renew it; if it exhaust our treasury, future industry may replenish it; if it desolate and lay waste our field, still, under a

new cultivation, they will grow green again, and ripen to future harvests. It were but a trifle even if the walls of yonder Capital were to crumble, if its lotfy pillars should fall, and its gorgeous decorations be all covered by the dust of the valley. All these might be rebuilt. But who shall reconstruct the fabric of demolished government? Who shall rear again the well proportioned columns of constitutional liberty? Who shall frame together the skillful architecture which unites national sovereignty with State rights, individual security, and public prosperity? No, if these columns fall, they will be raised not again. Like the Coliseum and the Parthenon, they will be destined to a mournful, melancholy immortality. Bitter tears, however, will flow over them, than were ever shed over the monuments of Roman or Grecian art; for they will be the remnants of a more glorious edifice than Greece or Rome ever saw, the edifice of constitutional American liberty.

But let us hope for better things. Let us trust in that gracious Being who has hitherto held our country as in the hollow of his hand. Let us trust to the virtue and intelligence of the people, and to the efficacy of religious obligation. Let us trust to the influence of Washington's example. Let us hope that

fear of Heaven which expels all other fear, and that regard to duty which transcends all other regard, may influence public men and private citizens, and lead our country still onward in her happy career. Full of these gratifying anticipations and hopes, let us look forward to the end of that century which is now commenced. A hundred years hence, other disciples of Washington will celebrate his birth, with no less of sincere admiration than we now commemorate it. When they shall meet, as we now meet, to do themselves, and him that honor, so surely as they shall see the blue summits of his native mountains rise in the horizon, so surely as they shall behold the river on whose banks he lived, and on whose banks he rests, still flowing on toward the sea, so surely may they see, as we now see, the flag of the Union floating on the top of the Capital; and, hen, as now, may the sun in his course visit no land more free, more happy, more lovely, than this our own country!

明治四十四年六月二十五日印刷
明治四十四年七月四日發行

定價金五十錢

著者　前田定之介
發行者　村上俊藏
印刷者　飯村辰之助
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所　成功雜誌社
東京市本郷區弓町一丁目十一番地
振替貯金東京二二〇九番
電話下谷第二三七一番

(英語演說法與附)

立志小説『人の兄』著者堀内新泉君著

●立志小説 **此父此子** 全（忽ち再版） **定價金八十錢 郵税八錢**

本書は「人の兄」著述以來著者が最心血を注ぎて著せし所のもの、初版發行後旬日にして忽ち再版を見るに至る、以て其眞價を知れ!!!

立志小説『**人の兄**』著者堀内新泉君著

●立志小説 **汗の價値** （大好評）再版 菊判ラフ紙刷 紙數三百卅餘頁 **定價七十五錢** 郵税八錢

◎卷頭にはコロタイプ美麗寫眞版挿入!!!

立志小説『**人の兄**』著者堀内新泉君著

●立志小説 **人一人** （忽ち再版） 菊判ラフ紙刷 **定價七十錢** 郵税八錢

◎卷頭にはコロタイプ美麗寫眞版挿入!!!

●立志小説 **人の兄** 前後兩篇（合本） **定價九十五錢** 郵税八錢

堀内新泉著 ▼**第十一版**▲ 又盡きんとす

本書は嘗て全國各中學校、高等學校及各専門學校、實業學校長等より青年の最好讀物として推薦せられたる名著也。

成功雑誌社發行書目

前南禪寺派管長　勝峯大徹老師講述　▼久數品切れの處　**第六版發行**▲

◉記憶長壽及膽力發成之要訣

內觀法（六版）

四六判美本　**定價參拾錢**　郵稅四錢

本書は現代禪門の偉傑勝峰大徹老師が親しく本社の爲に其多年間實驗せられし內觀法及び數息觀に就きて講述せられしもの內觀法は世人も知れる如く素と釋尊が其弟子周利盤特迦尊者の記憶力に乏しきを憐みて授け玉ひし秘法なるを以て其記憶力增進法として有益なるは論ずる迄もなく古來禪門の偉傑は此法を修して能く八十歲百歲の壽命を保ちし上鋭氣猛烈膽斗の如きものありしを以て又之を長壽及膽力增進の要訣とも見るを得べし活社會に處して是等の諸德を其身に備へんとする者は本書を讀め!!!

堀內靜宇著　▲初版忽ち賣切れ　**再版**出來!!!

◉維新百傑　忽ち再版

▲卷頭佐久間象山刺客の爲めに刺さるゝ壯烈三色版挿入!!!

和裝大和綴　挿畫二十葉挿　**定價五十五錢**　郵稅六錢

有磯逸郎著　（大好評）

◉南米渡航案內

▲南米有望國光景寫眞數葉挿入!!!

【目下品切れ】

菊判美裝　**定價金四拾五錢**　郵稅六錢

『簡易生活』著者 ワグネ氏著 本社譯

◉現代青年 活動要訣

▲口繪著者ワグネ大肖像を附す!!!

本書は簡易生活の著者として、本邦青年の間に多數の崇拜者を有する佛人ワグネ氏の著述を譯せる物、劈頭先づ犀利なる筆鋒を以て現代の缺陷を指摘し、斯る時代に處する青年は如何なる覺醒を爲す可き乎、如何なる精神を抱きて世に處すべき乎を説き、次に今日の社會に活動せんかには積極的には如何にして向上成功の針路を求め、消極的には如何にして墮落を防禦すべきかを述べ、更に進んで活動の眞意義に入り、紀律と勞働と難苦との眞價値を敎へ、尙ほ進んでは默想の人生に必要なる所以、及之を獲得するの方法を述べて篇を結ぶ、誠に現代に立つて神聖なる活動を行けんとする士の一日も座右に缺く可らざる書なり!!!

菊判美本 定價金三拾五錢 郵稅六錢

戸川殘花著

◉海舟先生

☞歡迎湧くが如し☜

◎卷頭勝伯爵家所藏未曾有寫眞及び維新時代先生英姿コロタイプ刷を添附す

大和綴頗美 定價金五拾五錢 郵稅六錢

成功雜誌社編纂

◉現代受驗法

本書は現社會の渴望最も盛んなるより既往五年間雜誌『成功』紙上に掲載せし最も有益なる受驗に關する各大家及試驗委員の意見を蒐めて一册と爲せしもの誠に今日の各種受驗者に缺くべからざる良書なり現代の受驗者必ずや一卷を座右に備へざるべからず!!!!!!

菊判美裝 定價金三拾五錢 郵稅六錢